

# 5 同人第 3 号

## 井手町営住宅南団地 1 号棟耐震補強工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
D-01	表紙・図面リスト	D-21	現況・撤去詳細図(東棟平面)	S-01	構造特記仕様書	E-01	電気設備工事特記仕様書-1
D-02	建築工事特記仕様書-1	D-22	現況・撤去詳細図(西棟立面)	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	E-02	電気設備工事特記仕様書-2
D-03	建築工事特記仕様書-2	D-23	現況・撤去詳細図(東棟立面、断面)	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	E-03	電灯幹線設備図
D-04	建築工事特記仕様書-3	D-24	改修詳細図(西棟平面)	S-04	ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭 回転埋込み工法 特記仕様書	E-04	電灯幹線設備図(撤去)
D-05	建築工事特記仕様書-4	D-25	改修詳細図(東棟平面)	S-05	現況・撤去伏図	E-05	電灯動力設備図
D-06	建築工事特記仕様書-5	D-26	改修詳細図(西棟立面)	S-06	現況・撤去軸組図	E-06	電灯動力設備図(撤去)
D-07	建築工事特記仕様書-6	D-27	改修詳細図(東棟立面、断面)	S-07	PCa外フレーム工事特記仕様書	E-07	情報通信交換設備
D-08	建築工事特記仕様書-7	D-28	屋外改修詳細図1	S-08	PCa外フレーム平面配置図・軸組図	E-08	情報通信交換設備(撤去)
D-09	附近見取図	D-29	屋外改修詳細図2	S-09	PCa外フレーム断面リスト	E-09	パラボラアンテナ脱着設備図
D-10	改修仕上表	D-30	代替駐車場配置図1	S-10	PCa外フレーム架構図		
D-11	配置図・仮設計画図	D-31	代替駐車場配置図2	S-11	アンカー配置要領図・各部配筋要領図	M-01	機械設備工事特記仕様書-1
D-12	現況平面図(1, 2階)			S-12	現況・撤去伏図	M-02	機械設備工事特記仕様書-2
D-13	現況平面図(3, 4階)			S-13	現況・撤去軸組図	M-03	現況・撤去 配置図・屋外配管図
D-14	現況平面図(R階)			S-14	改修伏図・軸組図	M-04	改修 配置図・屋外配管図
D-15	現況立面図・断面図			S-15	補強詳細図		
D-16	改修平面図(1, 2階)						
D-17	改修平面図(3, 4階)						
D-18	改修平面図(R階)						
D-19	改修立面図・断面図						
D-20	現況・撤去詳細図(西棟平面)						



建築改修工事特記仕様書				章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																											
<b>【1】 工事概要</b> <p>1. 工事場所 <u>南団地1号棟 京都府綴喜郡井手町井手段ノ下56-1</u></p> <p>2. 敷地面積 _____ m<sup>2</sup></p> <p>3. 建築物概要</p> <table border="1"><thead><tr><th>棟名</th><th>構造</th><th>階数</th><th>建築面積(m<sup>2</sup>)</th><th>延べ面積(m<sup>2</sup>)</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>南団地1号棟</td><td>鉄筋コンクリート</td><td>4階</td><td>307.996</td><td>1212.166</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>4. その他 _____</p> <p><b>【2】 適用範囲</b> 現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。 すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。 上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成22年版）をいう。（以下、これを「改修標仕」という。） 本書に特に記載のない事項であっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。</p> <p><b>【3】 工事区分</b> 設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。</p> <p><b>【4】 工事仕様</b> 1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。 2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p>				棟名	構造	階数	建築面積(m <sup>2</sup> )	延べ面積(m <sup>2</sup> )	備考	南団地1号棟	鉄筋コンクリート	4階	307.996	1212.166																										1	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	12	⑬	⑭
棟名	構造	階数	建築面積(m <sup>2</sup> )	延べ面積(m <sup>2</sup> )	備考																																														
南団地1号棟	鉄筋コンクリート	4階	307.996	1212.166																																															
④ 風圧力及び積雪に対する性能 建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速(N) ※3 2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地表面粗度区分 ※ I ○ II ※ III ○ IV 多雪地域の指定 ※なし ○あり				⑤ 現場代理人 ※本工事の施工にあたっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、請負者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。				⑥ 工事工程報告 ※月報は毎月末日に、翌月5日までに提出する。 ○日報は監督職員の指示による。 ○週報は毎週( )曜日に提出する。				⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4) ※適用する(適用事項は、現場説明書による) ○適用しない				⑧ 施工体制台帳等の作成・提出 (1.1.5) ※請負者は、請負金額3千万円以上(建築一式工事については4千5百万円以上)の工事について、施工体制台帳(下請契約書等添付)及び施工体系図を作成し、監督職員に提出しなければならない。 ※請負者は、工事完成時に、進退共通実績報告書を提出しなければならない。				⑨ 設備工事との取合い 施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ※図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。				⑩ 施工図等の取扱い (1.2.3) ※施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。				⑪ 工事写真 (1.2.4) ※工事写真の撮り方(改訂2版)建築編(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)によるほかは監督職員の指示による。 ※下記のもの監督職員に提出する。																							
表3.2.1 表3.2.2 表3.2.3				表3.2.4 表3.2.5 表3.2.6				表3.2.7 表3.2.8 表3.2.9				表3.2.10 表3.2.11 表3.2.12				表3.2.13 表3.2.14 表3.2.15																																			

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項
1	①	適用基準等	※公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 平成25年版 (監修:国土交通省) ※建築工事標準詳細図 平成22年版 (監修:国土交通省) ○敷地調査共通仕様書 平成23年版 (監修:国土交通省) ○建築鉄骨設計基準 平成10年版 (監修:建設大臣) ●公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 平成25年版 (監修:国土交通省) ○木造建築工事標準仕様書 平成22年版 (監修:国土交通省) ○公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) 平成22年版 (監修:国土交通省) ○公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) 平成22年版 (監修:国土交通省) (注:監修編「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部を、「建設大臣」は建設大臣官房官庁営繕部を示す)				②	建築材料等	※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。  ※下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとして行うことができる。(評価名簿によるもの) 床型枠用鋼製デッキプレート(フットプレート)、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材(プレキャスト型、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁質タイル(陶器質タイル、セラミック質タイル、磁器質タイル、再生材利用タイル)、既製調合モルタル(タイル工事用)、既製調合目地材、ルーフレイン、吸水調整材(タイル用)、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類(リフト箱錠、レバー錠、リフト本締り錠)、クローザー類(リフト用、リフト用)、自動扉機構(制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置)、開閉式上吊り引戸機構(手動開閉式)、重量シャッター、軽量シャッター、オートード、ガラス(フロートガラス、型枠ガラス、網入りガラス及び網入りガラス、熱線吸収ガラス、倍強ガラス、熱線反射ガラス)、ガラスブロック(中空)、防水剤、ビニル床シート、ビニル床タイル、現場発泡断熱材、アクリル(300N、500N)、可動間仕切り、移動間仕切り(リフト)、トイレブース、煙突成形ラインング材、天井点検口、床点検口、グレーティング、屋上緑化システム(屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム)、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、鉄製マンホール蓋・弁拵ふた				③	特別な材料の工法	※設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。												
2	①	足場その他	※労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 (表2.1) 内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ 防護シート等 ○ 防音パネル ● 防音シート ● 養生シート ○ ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種 (表2.2)				②	既存部分の養生	※既存部分の養生 ※行う (※ビニールシート ○ ) ○行わない ※既存家具等の養生 ※行う (※ビニールシート ○ ) ○行わない ※既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ※行う ○ ●行わない 養生の方法 ※取り外しの上清掃 ○ 保管場所 ※室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ 家具の移動 ※行う (図示) ○行わない																		

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項		
(2) 土・鉄筋・コンクリート工事	⑧ 骨材 (6.3.3)	粗骨材 ※砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) 再生骨材H ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○順砂 ○フエロニックスラグ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A(無害) ○	○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○順砂 ○フエロニックスラグ ○再生骨材H	3 防水改修工事	アスファルトの種類 ※3種 アスファルトルーフィング ※1500 ○粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) ○ 種類 ※非露出複層防水層R種 ○ ○改質アスファルトルーフィング 厚さ(mm) ○ 種類 ※露出単層防水用R種 ○	3 防水改修工事	4 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)		
	⑨ 混和材料 (6.3.5)	混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種(JIS A6204) 混和材 ※フライアッシュ(JIS A6201) I種又はII種	断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) ○ 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※ルーフィング類製造所の仕様による ○		5 漏水試験				
	⑩ 構造体強度補正值 (6.4.5)	※気温による構造体強度補正值(S) (表6.4.1)	断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※ルーフィング類製造所の仕様による ○		6 保証書				
	11 暑中におけるコートの扱い (6.8.2)	※暑中における構造体強度補正值(S)	絶縁用シート ※ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) ※フラットヤーンクロス(70g/m程度)(保護防水断熱工法) ○		7 施工標識				
	12 寒中コンクリート	※予想平均気温が表6.4.1に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第12節(寒中コンクリート)による。	押え金物 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部 保護コンクリート ○適用する( ) ○適用しない ※レンガ押え(JIS) ○コブ押え ○切り押え ○乾式保護材( ) 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm ○こて仕上げ mm ○床タイル張り等仕上げ mm 脱気装置 ○設ける 材種( ) 設置数量(1箇所/ m <sup>2</sup> )		⑧ シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)				
	13 コンクリートの試験 (6.10.2) ~ (6.10.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	○露出防水密着工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M4AS工法 ○AS-1 ○AS-2 敷3.4.1 ○AS-3		⑨ とい(雨水) (3.8.2) ~ (3.8.3)				
	14 コート工事の過積載防止対策等	請負者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。	○露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M3AS工法 ○AS-4 ○AS-5 敷3.4.2 ○POAS工法 ○AS-6		⑩ アルミニウム製笠木 (3.9.2) ~ (3.9.3)				
	15 軽量コンクリート (6.11.1)	種別 ○1種 ○2種 施工箇所	○露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M3ASI工法 ○AS1-1 ○M4ASI工法 ○AS1-2 敷3.4.3 ○POASI工法						
	3 防水改修工事	1 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○保護防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○P1B工法 ○B-1 ※B-2 敷3.3.3 ○P1BI工法 ○BI-1 ※BI-2 敷3.3.4 ○T1BI工法 ○P2AI工法 ○AI-1 ※AI-2 敷3.3.5 ○P2A工法 ○A-1 ※A-2 敷3.3.6		○露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○PODI工法 ○M3DI工法 ○DI-1 ※DI-2 敷3.3.9 ○M4DI工法		4 外壁改修工事	1 施工数量調査 (1.5.2)	※行う(○ひび割れ ○欠損 ○浮き ○ ) ※施工に先立ち、建築仕上診断技術者(BELCA)による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○行わない
		2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	改質アスファルトシート防水 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M4AS工法 ○AS-1 ○AS-2 敷3.4.1 ○AS-3		○露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M3AS工法 ○AS-4 ○AS-5 敷3.4.2 ○POAS工法 ○AS-6			2 ひび割れ部改修 (4.1.4) ~ (4.3.6)	○コンクリート打ち直し仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ※樹脂注入工法 ※硬質形エポキシ樹脂 ○軟質形エポキシ樹脂 ○リカットシール材充填工法 ※可とう性エポキシ樹脂 ○シーリング材(PU-2) ○ポリマーセメントモルタル ○パテ工法 ※パテ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂
3 防水改修工事	3 合成高分子系ルーフィング防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○露出防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M4C工法 ○C-1 ※C-2 敷3.3.7 ○M3D工法 ○D-1 ※D-2 敷3.3.8 ○POD工法	○露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○PODI工法 ○M3DI工法 ○DI-1 ※DI-2 敷3.3.9 ○M4DI工法	4 外壁改修工事	3 欠損部改修 (4.3.7)	○モルタル塗り仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ○充填工法 ※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル			
	4 アルミニウム製笠木 (3.9.2) ~ (3.9.3)	断熱材 ○用いる(厚さ(mm) 種類 ) PCコンクリート部材下地の場合の目地処理 ○ 絶縁用シート ※発泡ポリエチレンシート ○ 仕上げ塗料 ○か- ( ) ○シカ- 脱気装置 ○設ける 材種( ) 設置数量(1箇所/ m <sup>2</sup> ) ※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。	○露出防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○M4C工法 ○C-1 ※C-2 敷3.3.7 ○M3D工法 ○D-1 ※D-2 敷3.3.8 ○POD工法		4 外壁改修工事	4 外壁改修工事	4 外壁改修工事	4 外壁改修工事	

4	外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)	○モルタル塗り仕上げ 工法 1箇所の面積 (㎡) 浮き代 (mm) フカビン (本/m) 注入口 (箇所/m) 充填量 (箇所/ml) 注入量 (箇所/ml) 施工箇所					
		○フカビンが部分 球杉樹脂注入工法	0.25 未満	※16○ ※25○				
		○フカビンが全面 球杉樹脂注入工法	0.25 以上	1.0 以下	※13○ ※20○	※12○ ※20○	※25○ ※25○	
		○フカビンが全面 樹脂部分注入工法	0.25 以上	1.0 以上	※13○ ※20○	※12○ ※20○	※25○ ※50○	
		○注入口フカビンが部分 球杉樹脂注入工法	0.25 未満		※9○ ※16○		※25○ ○	
		○注入口フカビンが全面 球杉樹脂注入工法	0.25 以上	1.0 以上	※9○ ※16○	※9○ ※16○	※25○ ※50○	
		○充填工法	0.25 未満		※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル			
		○モルタル塗替え工法	0.25 以上		※改修仕様4.4.11による			
		(4.5.9) ~ (4.5.15)	○タイル張り仕上げ 工法 1箇所の面積 (㎡) 浮き代 (mm) フカビン (本/m) 注入口 (箇所/m) 充填量 (箇所/ml) 注入量 (箇所/ml) 施工箇所					
		○フカビンが部分 球杉樹脂注入工法	0.25 未満		※16○ ※25○		※25○ ○	
○フカビンが全面 球杉樹脂注入工法	0.25 以上	1.0 以下	※13○ ※20○	※12○ ※20○	※25○ ※50○			
○フカビンが全面 樹脂部分注入工法	0.25 以上	1.0 以上	※13○ ※20○	※12○ ※20○	※25○ ○			
○注入口フカビンが部分 球杉樹脂注入工法	0.25 未満		※9○ ※16○		※25○ ○			
○注入口フカビンが全面 球杉樹脂注入工法	0.25 以上	1.0 以上	※9○ ※16○	※9○ ※16○	※25○ ※25○			
○注入口フカビンが 球杉樹脂注入工法					※25○ ※25○			
工法	1箇所の面積 (㎡)	材料	施工箇所					
○タイル部分張替え工法	0.25 未満	※ポリマーセメントモルタル ○変成シリコーン樹脂 ○ウレタン樹脂						
○タイル張替え工法								
5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)	タイル張り仕上げ ○目地ひび割れ改修工法 ○伸縮目地改修工法 位置 ※改修仕様4.5.11による 寸法 (幅×深さ) コンクリート打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※20mm以上×10mm以上 その他 ※10mm以上×10mm以上							
6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)	建築補修用注入エポキシ樹脂 ※低粘度形 ○高粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.5未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入孔の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (cc/m) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法 コア抜きによるひび割れ部の注入状況の検査 ※行わない ○ 行う (抜取り個数 ※改修仕様4.3.4.(i)による ○ ) (抜取り部分の補修方法 )							
7 リカットシール材充填工法 (4.3.5)	シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○ 行う							

4	外壁改修工事	8 アンカーピン注入工法 (4.2.2)	アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○
		9 注入口フカビン注入工法 (4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径6mm ○
		10 モルタル塗替え工法 (4.2.2) (4.4.9)	既製目地材 ○使用する(形状 ) 仕上げ厚又は全塗装厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ○
		11 外壁部分張替え工法及びひび割れ補修工法 (4.2.2) (4.5.8)	施工箇所及びタイルの種類 形状寸法(mm) 生地 釉薬 役物 色 耐凍害性 工法 その他
			○磁器 ○無釉 ○有り ※標準 ○有り ○せつ器 ○施釉 ○無し ※特注 ○無し ○陶器
			タイルの試験張り ※行わない ○ 行う タイルの見本焼き ※行わない ○ 行う 窓廻りの固定 ※する ○ しない 施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない 引張付用材料 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○
			タイル張替え工法の伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地位置 ※改修仕様4.5.11による ○ 図示
		12 窓下人研面台の補修	○ シール工法 (※仕上げ塗材は外壁仕上げ塗材の上塗り材とする。) ※ 塗膜防水 (※弾性ウレタン系 ○エポキシ系 )
		⑬ 仕上げ塗材 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5)	●薄付け仕上げ塗材 (JIS A6909) 種類 (呼び名) 仕上がり 工法 備考 ○外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラ- ○可とう型外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラ- ●外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ●ゆず肌状 ○さざ波状 ローラ- ○着色骨材砂壁状 ○こて ○吹付け ○可とう型外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラ- ○防水型外装薄塗材E (○増塗材) ○凹凸状 吹付け ○外装薄塗材S 砂壁状 吹付け ○厚付け仕上げ塗材 (JIS A6909) 種類 (呼び名) 仕上がり 工法 備考 ○外装厚塗材C ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ○かき落とし (○上塗材) ○外装厚塗材Si ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○外装厚塗材E ○平たん状 ○凹凸状 ○こて塗 (○上塗材) ○ローラ- ○厚塗仕上げ塗材 (JIS A6909) 種類 (呼び名) 仕上がり 工法 備考 ○複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○複層塗材Si ○凹凸模様 ○複層塗材E ●ゆず肌状 ローラ- ○複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラ- ○可とう型複層塗材CE ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラ- ○複層塗材RS ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラ- ○防水形複層塗材CE ○凸部処理 吹付け (○増塗材) ●防水形複層塗材E ○凹凸模様 ○防水形複層塗材RS ●ゆず肌状 ローラ- ○防水形複層塗材RE
			複層仕上げ塗材の耐候性 ※3種 ○ 複層仕上げ塗材の上塗材 溶媒 ※水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ○ 外観 ※つや有 ○つやなし ○メタリック 防水形複層仕上げ塗材の増塗 ※行わない ○ 行う
○可とう形改修用仕上げ塗材 (JIS A6909) 種類 (呼び名) 仕上がり 工法 備考 ○可とう形改修塗材E ○平たん状 ローラ- ○可とう形改修塗材RE ○さざ波状 ローラ- ○可とう形改修塗材CE ○ゆず肌状 吹付け			

4	外壁改修工事	⑭ 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)	既存塗膜の除去方法 ※ 試験施工実施 ●サンダー工法 ○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○50~100pa ○30~50pa) ○ 塗膜はく離工法 (製造所: ) ○ 水洗い工法 (○デッキブラシ ○高圧水10~15pa) 既存塗膜の除去範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ○ 既存壁面の ( % ) ● 別図に示す範囲 下地処理 下地調整剤 ※セメント系下地調整剤 (JIS A6916) ○ポリマーセメントモルタル ○防水形基材 (JIS A6910(複層仕上げ塗材)) 仕上げ塗材の種類 ○薄付け仕上げ塗材 ○厚付け仕上げ塗材又は複層仕上げ塗材 ○防水形複層仕上げ塗材 ○マステック塗材 施工箇所 ○別図に示す範囲 ○
		15 部分改修工法 (4.6.6)	
		1 性能	※「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。
		2 施工数量調査 (1.5.2)	※ 行う (○建具金物 ○ガラス ○ガラス止め材 ○ ) ※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない
		3 改修工法 (5.1.3)	※ かぶせ工法 (カバー工法) ○ 撤去工法 (○はつり工法 ○引き抜き工法) 新規金属製建具を設ける壁の開口方法 ( ) 新規金属製建具周囲の補修工法及び範囲 ( )
		4 防火戸 (5.1.4)	※ 防火戸は建築基準法第2条第9号の2ロの規定に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする。 ※ 防火戸の指定及び運動装置は別図(建具図)による。 ※ 防火区画に用いる防火戸で通行の用に供するものは建築基準法施行令第112条第14項第一号ロによる。
		5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)	建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 ) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 ) ○ ブランドボックス等の再使用 ( )
		6 防犯建物部品 (5.1.7)	開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ ドア 適用箇所 ( ) ・ サッシ 適用箇所 ( ) ・ シャッター 適用箇所 ( )
		7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)	外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1) 性能等級 ※ A種 ○ B種 ○ C種 耐風圧性 ※ S-4 ○ S-5 ○ ※ S-6 ○ 気密性 ※ A-3 ○ ※ A-4 ○ 水密性 ※ W-4 ○ ※ W-5 ○ 枠見込み(mm) ※ 70 ○ 100 ※ 100 ○
		8 網戸 (16.2.3) ※公共建築工事標準仕様書(022年版)による。	防虫網 網の種類 ※ 合成樹脂材 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス製 (SUS316) 形式 ※ 外部可動式 ○ 固定式 線径、網目 ※ 0.25mm以上、16~18メッシュ ○

5	建具改修工事	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.2.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ○ D-1 ○ D-2) JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量 (JIS G3302) ※ Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ (mm) ※ 表5.3.2.(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm
		10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4)	簡易気密扉の性能値 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない ○ 防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ○ D-1 ○ D-2) 戸の鋼板 ※ 表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 厚さ (mm) ※ 表5.4.1.(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm
		11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.2.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ○ D-1 ○ D-2) ステンレス鋼板 ※ JIS G 4305 ステンレス鋼板 (屋外) ※ SUS304 ○ SUS430JIL ステンレス鋼板 (屋内) ※ SUS304 ○ SUS430JIL ○ SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ H-L仕上げ ○ 鏡面仕上げ 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ
		12 建具用金物 (5.6.2) ~ (5.6.4)	マスターキーの製作 ※ 作成する (グループ、各グループ 個) ○ 作成しない 開き戸 (表5.6.1) 金物の種類 見え掛り部の材質 その他 ○ シリンダー錠 ○ 覆り玉: ｽﾃﾝﾚｽ ( ) ○ 本締め付きモノロック ○ 覆り玉: ｽﾃﾝﾚｽ ( ) ○ 本締め錠 ｽﾃﾝﾚｽ ( ) ○ 空錠 ○ 覆り玉: ｽﾃﾝﾚｽ ( ) ○ グレモン錠 ｽﾃﾝﾚｽ ( ) 点検口錠 亜鉛合金程度、(ｽﾃﾝﾚｽ) 丁番 ｽﾃﾝﾚｽ (○黄銅) ○ ビボッドヒンジ ｽﾃﾝﾚｽ (○亜鉛合金) 亜鉛合金は木製建具用のみ 点検口輪吊りヒンジ 建具製作所の仕様による。 ○ 自閉装置付き ○ フロアヒンジ ｽﾃﾝﾚｽ (本体は鋼) ドアクローザー ○ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄｲﾌﾟ型 鋼(焼付け塗装) ○ 遅延閉り機能付き ○ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄｲﾌﾟ型 ｽﾃﾝﾚｽ (本体は鋼) ○ ドアクローザー ｽﾃﾝﾚｽ (本体: 亜鉛合金 ﾌﾟﾗﾝﾄﾞ: 鋼(焼付け塗装)) 閉鎖順位調整器 ｽﾃﾝﾚｽ (○鋼) ○ 押棒・押板 (○ｽﾃﾝﾚｽ、○黄銅、○合成樹脂) ○ 取付位置 ( ) ○ﾌｰﾙｽﾄｯﾌﾟｰ 鋼(めっき)、(○ｽﾃﾝﾚｽ) ○戸当り 亜鉛合金程度、(○ｽﾃﾝﾚｽ、○黄銅) ○ おおりのり止め付き
			引き戸 (表5.6.1) 金物の種類 見え掛り部の材質 その他 ○ クレセント 建具製作所の仕様による。 ○ 取付位置 ( ) 引手類 木製建具の場合: ｽﾃﾝﾚｽ (○黄銅) レール (上吊りの場合を除く) ステンレス、(○亜鉛合金、○黄銅) 黄銅は木製建具用のみ
			表面処理 (表5.2.2) 種類 施工箇所 ○ B-1種 (無着色) ○ B-2種 (着色) ○ ○
			○ 防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアセットの適用 (面内変形追随性の等級 ○ D-1 ○ D-2) ○ 水切り、ぜんば等 ( ) ※ 出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。

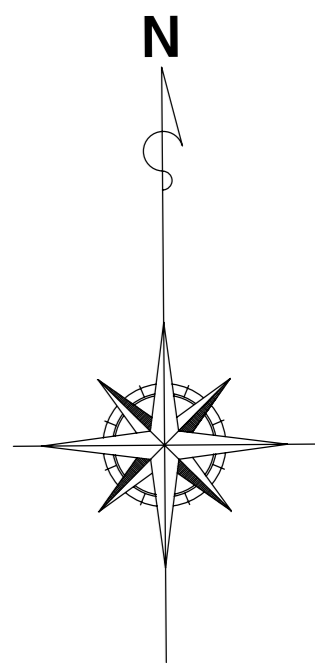
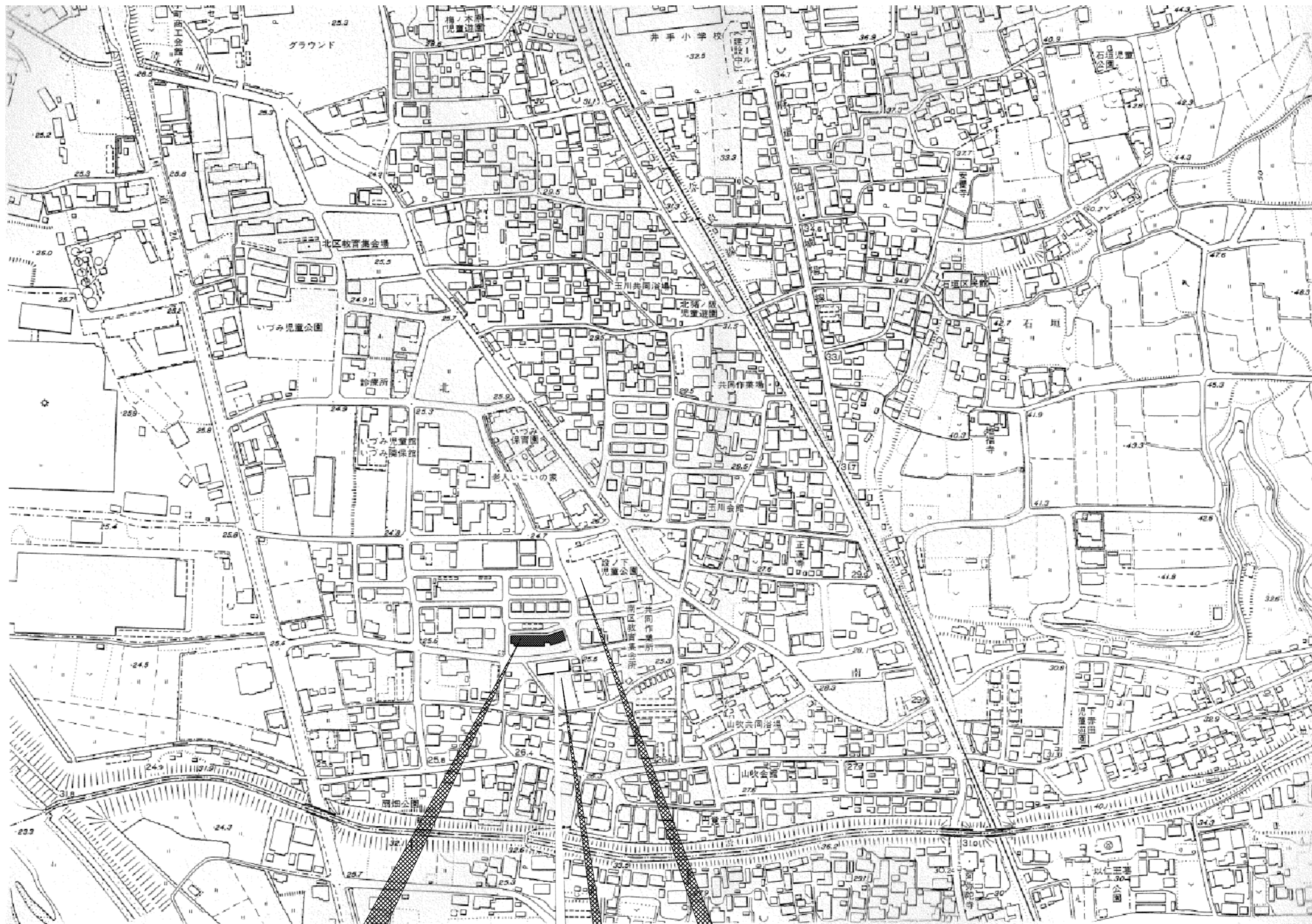


章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
8-2	7 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	8-4	5 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (8.2.8)	セットの種類 ○1類 (F8T) 摩擦面の処理 ○プラスト処理 (表面粗度 50 μm Rz以上) ○リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験 試験方法等 ○図示による ○	8-4	14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.16.3)	塗料の種類 ○鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ○改修仕様7.3.2表7.3.1 ※A種 ) ○ ( ) 屋内 ○改修仕様7.3.2表7.3.1 ※A種 ○B種 ) ○ ( ) ○亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○改修仕様7.3.2表7.3.1 ※A種 ○B種 ○C種 ) ○ ( ) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ○改修仕様7.3.2表7.3.1 ※A種 ○B種 ) ○ ( ) 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○行わない ○行う	8-7	1 補強工法	○内側補強工法 ○枠付き鉄骨K型ブレース ○枠付き鉄骨X型ブレース ○枠付き鉄骨傾付付ブレース ○枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○枠付き開口鉄板パネル ○枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 ( ) ○外側補強工法 ○枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 ( )
	8 高い強度のコンクリート (8.9.3) (8.9.8)	混和材料 混和剤 ※AE減水剤標準形若しくは選型形又は高性能AE減水剤標準形若しくは選型形 (JIS A 6204) ○ _____ 型枠の存置期間 ○ _____		6 鉄骨の工作 (8.1.6)	原寸図 ○作成する ○作成しない 高力ボルト、普通ボルト及びワカボルトの緩衝距離、ボルト間隔、ギャップ等 ※図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)		1 グラウト材 (8.2.10)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 ( N/mm <sup>2</sup> ) ※ 30以上 ○ _____ ※ 一般部コンクリート同等以上の強度 (鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) カサ増し率(%) ※ 6~10 ○ _____ 乾燥収縮 ( 10 <sup>-4</sup> ) ※ 0 ○ _____ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない		2 既存部分の撤去 (8.20.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。
	9 軽量コンクリート (8.10.1)	常時土あるいは水に直接接する部分の使用 ○可 ○不可 種別 ○1種 ○2種 施工箇所 _____ 所要気乾単位容積質量 ( kg/m <sup>3</sup> ) _____		7 仮組 (8.12.9)	○実施する 部位 ( _____ ) ○実施しない		2 柱底等の均しモルタル (8.2.10)	無収縮モルタル材 ○使用する ○使用しない		3 既存部分の処理 (8.20.3)	目荒しの程度 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-3による。
8-3	① あと施工アンカー (8.2.4) (8.11.2)	○ 金属系アンカー 引張り耐力 ( _____ ) せん断耐力 ( _____ ) 径 ( _____ ) 埋込み深さ ( _____ ) セット方式 ※ 本体打込み式 ○ _____ 接合筋 種類 ( _____ ) 長さ ( _____ ) 径 ( _____ ) ○ 接着系アンカー 引張り耐力 ( _____ ) せん断耐力 ( _____ ) 種類 ※ カプセル型 ○ _____ アンカー筋 ※ 改修仕様表8.2.1の異形棒鋼 径 ( _____ ) 埋込み深さ ( _____ ) 新設壁内への定着長さ ( _____ ) 埋め込み配管等の探査 範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て ○ 図示 方法 ※ 鉄筋探知機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ○ 図示	8-4	9 溶接接合 (8.14.7) (8.14.11)	開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨設計標準図) による ○ _____ スカラップの形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨設計標準図) による ○ 改良型スカラップ エンドタブの切除する部分 ※ 見え掛り部となる部分 ○ 見え隠れ部となる部分 ○ 切除する部分なし	8-5	1 補強工法	○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 ( _____ )	8-8	1 補強工法	○ 溶接金網巻き工法 ○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 帯板巻き工法 ○ 連続繊維補強工法 ○ _____
	2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.11.5)	性能確認試験 ※ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 ( _____ ) ○ 行わない		10 溶接部の試験 (8.14.11)	○ 浸透探傷試験 (JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験 (JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検査品質限界 (AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第 _____ 水準 現場溶接 平均出検査品質限界 (AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5%		2 柱底等の均しモルタル (8.2.10)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示 ○ _____ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示 ○ _____ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示		2 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁、腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。
8-4	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(O S O H O M O R O J) グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場	8-4	11 耐火被覆 (8.17.2) ~ (8.17.8)	種別 種 別 材 料 ・ 工 法 適用箇所 (部位・部分) ○ 耐火材吹付け ○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ _____ ○ 耐火材張り ○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ _____ ○ 耐火材巻付け ○ 高断熱ロックウール ○ _____ ○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ _____ 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	8-6	3 既存部分の処理 (8.19.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5 (max:5mm) 程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 壁 (増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5 (max:5mm) 程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示	8-8	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒し程度 (連続繊維補強工法以外) ※ 平均深さ2~5 (max:5mm) 程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示 柱の成型 (連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※ 30R ○ _____ ) ○ 図示
	2 施工管理技術者 (8.1.5)	※ 適用する ○ 適用しない		12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	適用 ○ 構造用アンカー 材質 ○ SNR400B ○ ( _____ ) アンカーフレームの形状及び寸法 ※ 図示による ( _____ ) ○ ( _____ ) ○ 建方用アンカー 材質 ○ SS400 ○ ( _____ ) アンカーボルトの保持及び埋め込み方法 種類 ○ A種 ○ B種 ○ C種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm		4 鉄筋の加工及び組立て (8.19.6)	割裂補強筋 ※ 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 M <sub>1</sub> 筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示 開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設して壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示		4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.21.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ _____ mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法
8-4	3 鋼材の種類 (8.2.7)	種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101 SN400A JIS G 3106 SM400A JIS G 3136	8-4	9 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ ( _____ )	8-6	4 鉄筋の加工及び組立て (8.19.6)	割裂補強筋 ※ 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 M <sub>1</sub> 筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示 開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設して壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示	8-8	4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.21.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のトリプル割防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工
	4 高力ボルト (8.2.8) (8.13.2) (8.13.7)	ボルトの種類 ※ トルシア形高力ボルト (建築基準法の認定品) セットの種類 ○ 2種 (S10T) ○ JIS形高力ボルト (JIS B 1186) セットの種類 ○ 2種 (S10T) ボルト径 ○ _____ すべり係数試験 ※ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による 本締め JIS型高力ボルトのナット回転法 ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ○ _____		9 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ ( _____ )		5 コンクリートの打込み工法 (8.19.8)	※ 流込み工法 ○ 圧入工法		5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.21.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のトリプル割防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																														
8-8	耐震補強工事(柱補強工事)	6 連続繊維補強工法 (8.2.11) (8.21.7)	8-10	耐震補強工事(免震改修)	4 仕上げ (8.23.13)	9 ユニット及びその他の工事	1 家具、工机等の揮発性有機化合物対策	9 ユニット及びその他の工事	11 ブラインド (20.2.12)	案内板 (館内、各階、便所)																															
		7 仕上げ (8.21.8)	5 耐火被覆 (8.23.14)	6 イキルパシオゾイント (8.23.15)	7 検査 (8.23.16)					8 維持管理要領 (8.23.17)	2 フリーアクセスフロア (20.2.2)	2 ロールスクリーン (20.2.13)	13 カーテン (20.2.14)	14 カーテンレール (20.2.14)	15 ブラインドボックスカーテンボックス (20.2.14)	16 くつふきマット (20.2.14)	17 鋼製書架及び棚 (20.2.14)	18 収納家具(木製) (20.2.14)	19 掲示板 (20.2.14)	20 カウンター (20.2.14)	21 洗面カウンター (20.2.14)	22 流し台ユニット (20.2.14)	23 非常用救助袋等 (20.2.14)	24 鍵箱 (20.2.14)	25 車止め (20.2.14)	26 フェンス (20.2.14)	27 ケーラーブ (20.2.14)														
8-9	耐震補強工事(耐震スリット)	1 耐震スリット新設工事 (8.22.2)	8-11	耐震補強工事(制振改修)	1 既存部分の撤去 (8.24.2)	9 ユニット及びその他の工事	3 可動間仕切 (20.2.3)	4 移動間仕切 (20.2.4)	5 トイレブース (20.2.5)	6 階段滑り止め (20.2.6)	7 階段手すり (20.2.7)	8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)	9 鏡 (20.2.9)	10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)	4 仕上げ (8.24.8)	5 検査 (8.24.9)	1 既存部分の撤去 (8.24.2)	2 既存部分の処理 (8.24.3)	3 減衰材 (8.24.4) (8.24.6)	9 ユニット及びその他の工事	11 ブラインド (20.2.12)	12 ロールスクリーン (20.2.13)	13 カーテン (20.2.14)	14 カーテンレール (20.2.14)	15 ブラインドボックスカーテンボックス (20.2.14)	16 くつふきマット (20.2.14)	17 鋼製書架及び棚 (20.2.14)	18 収納家具(木製) (20.2.14)	19 掲示板 (20.2.14)	20 カウンター (20.2.14)	21 洗面カウンター (20.2.14)	22 流し台ユニット (20.2.14)	23 非常用救助袋等 (20.2.14)	24 鍵箱 (20.2.14)	25 車止め (20.2.14)	26 フェンス (20.2.14)	27 ケーラーブ (20.2.14)				
		2 既存部分の撤去 (8.23.5)			2 既存部分の処理 (8.23.6)																																	3 支承材・減衰材 (8.23.7) (8.23.10)			
8-8 耐震補強工事(柱補強工事)		工法 ※ (財)建築防災協会の評価を受けた工法 ○	8-10 耐震補強工事(免震改修)		仕様	9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事	
8-9 耐震補強工事(耐震スリット)		材料 ※ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○ ガラス繊維 性能 製造所 製品名 柱隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※ 20mm以上 ○ アラミド繊維シート ※ 10mm以上 ○ 仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ もみれ除去は行わない ひび割れ部改修 ○ 行う ○ 樹脂注入工法 ○ Uレジン材充填工法 炭素繊維の目付量 ※ 図示 ○ 炭素繊維シートの巻数 ※ 図示 ○ 引張り試験 ※ 行う 判定基準 ( ) ○ 行わない 附着試験 ※ 行う 判定基準 ( ) ○ 行わない 7 仕上げ (8.21.8) ※ 図示 ○	8-11 耐震補強工事(制振改修)		仕様	9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事			
8-10 耐震補強工事(免震改修)		方向 タイプ 耐火性能 防水性能 ○ 垂直方向 ※ 完全 (全貫通型) スリット ○ 耐火型 ○ 有り ○ 水平方向 ○ セン断型部分スリット ○ 非耐火型 ○ 無し 品質・規格 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書9-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示 ※ 本特記仕様書9-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置 (部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示 ○ スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所 ○ 図示 ○ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所 ○ 図示 ○ 既存部分の撤去の補修 ※ 図示 ○	8-11 耐震補強工事(制振改修)		仕様	9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事		9 ユニット及びその他の工事	

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																	
10 排水工事	① 排水管 (21.2.1) (21.2.3)	<p>本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成22年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種 (表21.2.1)</th> <th>管 の 種 類</th> <th>接 合 方 法</th> </tr> <tr> <td>○ 遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)</td> <td>○ モルタル ○ 1端</td> </tr> <tr> <td>● 硬質塩化ビニル管</td> <td>※ VP ○ VU</td> <td>● 接着 ○ 1端</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ RS-VP ○ RS-VU</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 硬質塩化ビニル管継手</td> <td>※ DV ○ VU継手</td> <td></td> </tr> </table> <p>● 側塊の形状及び寸法 ※ 図示 ○ ( ) ● 排水樹の種類 ※ 図示 ○ ( ) ○ 鋼鉄製マンホールふたの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>適用荷重 (安全荷重)</th> </tr> <tr> <td>○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式</td> <td>○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)</td> </tr> <tr> <td>○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式</td> <td>○ T-20用 (5000)</td> </tr> </table> <p>○ グレーチングふた</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>材 質</th> <th>形 式</th> <th>適用荷重</th> <th>タイプ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>○ 溝ふた用</td> <td>● 鋼製</td> <td>受枠 二※なし</td> <td>○ 歩行用</td> <td>○ 普通目</td> <td>○ 平形</td> </tr> <tr> <td>● 樹ふた用</td> <td>○ 珪藻土</td> <td>● あり</td> <td>○ T-2用</td> <td>※ 細目</td> <td>※ 凹凸形</td> </tr> <tr> <td>○ 嵩上げ用</td> <td>○ 鋼鉄製</td> <td>○ 図示</td> <td>○ T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ U字溝用</td> <td>○ 樹脂製</td> <td>ボルト固定※なし</td> <td>● T-14用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>● 図示</td> <td>○ T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材 種 (表21.2.1)	管 の 種 類	接 合 方 法	○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)	○ モルタル ○ 1端	● 硬質塩化ビニル管	※ VP ○ VU	● 接着 ○ 1端		○ RS-VP ○ RS-VU		○ 硬質塩化ビニル管継手	※ DV ○ VU継手		種 類	適用荷重 (安全荷重)	○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式	○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)	○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式	○ T-20用 (5000)	種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状	○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 二※なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形	● 樹ふた用	○ 珪藻土	● あり	○ T-2用	※ 細目	※ 凹凸形	○ 嵩上げ用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6用			○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定※なし	● T-14用					● 図示	○ T-20用			11 舗装工事	6 透水性舗装 (22.7.3) ~ (22.7.6)	<p>車道部 ※ 改質アスファルトⅠ型 ○ 歩道部 ※ ストレートアスファルト ○ フィルタ層の厚さ ※ 車道部150mm、歩道部50mm ○ 透水性7mm混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない 舗装厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない</p>	12 環境配慮改修工事	3 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)	<p>○ 行う</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点(各施工箇所ごと)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>負圧粉じん装置の排出吹き出し口</td> <td>吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室外</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td>作業中</td> </tr> <tr> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 点</td> <td>作業後</td> </tr> <tr> <td>処理作業後</td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 点</td> <td>1週間以降</td> </tr> </table> <p>※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。 ○ 行わない</p> <p>測定機関 ※ (社) 日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。 ○</p> <p>報告書提出回数 ※ 3部 ○ 部</p> <p>施工業者 ※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。 ○ 「吹付け粉じん飛散防止処理技術」について(財)日本建築センターの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。</p> <p>処理を行う範囲 ※ 図示(仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認) ○ 全ての室 ○ ( )</p> <p>除去工法 ※ 改修仕様9.1.3(b)(1)による ○</p> <p>除去物の処理方法 ※ 密封処理(二重袋梱包) 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 ○ セメント固化 ○ 溶融固化 除去物等の保管 ※ 他の内装材等と分別して保管する。 ※ 飛散防止措置を講ずる。 ※ アスベスト等の保管場所であることの表示を行う。</p>	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備 考	処理作業前	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点			調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点		処理作業中	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点			負圧粉じん装置の排出吹き出し口	吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点		処理作業後	処理作業室外	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	作業中	処理作業後	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	作業後	処理作業後	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	1週間以降	7 外断熱改修工事 (9.3.2) ~ (9.3.4)	<p>断熱材 厚さ(mm) ○ 材質 ○ 不燃性断熱材 ○ 難燃性断熱材 ○ ロックウール ○ グラスウール mm F☆☆☆ ○ ロックウール</p> <p>外装材 ○ 適用する (種類 _____ 防火性能 _____) ○ 適用しない</p> <p>既存外壁 ○ 仕上げ材の撤去 ( ) ○ 下地の清掃 ( ) ○ 下地の欠損部の改修 ( 4.1.4(外壁改修工法の種類)による )</p> <p>施工 ※ 断熱材製造所の仕様による ○ ( ) 通気層 ○ 有(厚さ mm) ○ 無 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ○ ( )</p>	12 環境配慮改修工事	② 側塊、排水樹及びふた (21.2.2)	<p>● 側塊の形状及び寸法 ※ 図示 ○ ( ) ● 排水樹の種類 ※ 図示 ○ ( ) ○ 鋼鉄製マンホールふたの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>適用荷重 (安全荷重)</th> </tr> <tr> <td>○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式</td> <td>○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)</td> </tr> <tr> <td>○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式</td> <td>○ T-20用 (5000)</td> </tr> </table> <p>○ グレーチングふた</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>材 質</th> <th>形 式</th> <th>適用荷重</th> <th>タイプ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>○ 溝ふた用</td> <td>● 鋼製</td> <td>受枠 二※なし</td> <td>○ 歩行用</td> <td>○ 普通目</td> <td>○ 平形</td> </tr> <tr> <td>● 樹ふた用</td> <td>○ 珪藻土</td> <td>● あり</td> <td>○ T-2用</td> <td>※ 細目</td> <td>※ 凹凸形</td> </tr> <tr> <td>○ 嵩上げ用</td> <td>○ 鋼鉄製</td> <td>○ 図示</td> <td>○ T-6用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ U字溝用</td> <td>○ 樹脂製</td> <td>ボルト固定※なし</td> <td>● T-14用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>● 図示</td> <td>○ T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類	適用荷重 (安全荷重)	○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式	○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)	○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式	○ T-20用 (5000)	種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状	○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 二※なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形	● 樹ふた用	○ 珪藻土	● あり	○ T-2用	※ 細目	※ 凹凸形	○ 嵩上げ用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6用			○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定※なし	● T-14用					● 図示	○ T-20用			8 断熱・防露改修工事 (9.5.2) ~ (9.5.3)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">材 料</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">断熱材 打込み工法</td> <td>○ 不燃性断熱材</td> <td rowspan="3">断熱材厚さ ○ mm 接着剤の材料名及び数量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____</td> </tr> <tr> <td>○ 難燃性断熱材</td> </tr> <tr> <td>○ 不燃性断熱材 (※ F☆☆☆☆ ○ )</td> </tr> <tr> <td>断熱材現場発泡工法 (難燃性を有するものとする)</td> <td>※ 種別 ○ _____ JIS A 9526</td> <td>吹付け厚さ ○ mm</td> </tr> </table>	材 料		そ の 他	断熱材 打込み工法	○ 不燃性断熱材	断熱材厚さ ○ mm 接着剤の材料名及び数量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____	○ 難燃性断熱材	○ 不燃性断熱材 (※ F☆☆☆☆ ○ )	断熱材現場発泡工法 (難燃性を有するものとする)	※ 種別 ○ _____ JIS A 9526	吹付け厚さ ○ mm	9 屋上緑化	③ コンクリート側溝 (22.9.2)	<p>鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ コンクリート形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm<sup>2</sup>) ○ 18 ○ 地盤の材料 標尺4.6.2(a) ○ C-40 ※ RC-40</p>	5 アスベスト含有保温材の除去 (9.1.4)	<p>処理を行う範囲 ※ 図示</p> <p>作業場の隔離 ※ 養生シート等により区画する。 ※ 掻き落とし・破砕・切断により除去する場合は改修仕様9.1.3(a)による隔離とする ○</p> <p>処理を行うアスベスト成形板の仕様</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>○ 化粧石膏ボード</td> <td>○ 9.5</td> <td>○ 石綿ロックウール</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ ビニル床タイル</td> <td>○ 2.0</td> <td>○ 石綿スレート(外装・内装)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 石綿保温材</td> <td>○</td> <td>○ 押出成形セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けいそう土保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 石綿セメントけい酸板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けい酸カルシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿けい酸板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 親水性パーライト保温材</td> <td>○</td> <td>○ 吸音穴あき石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)	○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○	○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○	○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○	○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○	○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸板	○	○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿けい酸板	○	○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○	○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○	6 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)	<p>処理を行う範囲 ※ 図示</p> <p>作業場の隔離 ※ 養生シート等により区画する。 ※ 掻き落とし・破砕・切断により除去する場合は改修仕様9.1.3(a)による隔離とする ○</p>
	材 種 (表21.2.1)	管 の 種 類	接 合 方 法																																																																																																																																																																																																					
	○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)	○ モルタル ○ 1端																																																																																																																																																																																																					
● 硬質塩化ビニル管	※ VP ○ VU	● 接着 ○ 1端																																																																																																																																																																																																						
	○ RS-VP ○ RS-VU																																																																																																																																																																																																							
○ 硬質塩化ビニル管継手	※ DV ○ VU継手																																																																																																																																																																																																							
種 類	適用荷重 (安全荷重)																																																																																																																																																																																																							
○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式	○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)																																																																																																																																																																																																							
○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式	○ T-20用 (5000)																																																																																																																																																																																																							
種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状																																																																																																																																																																																																			
○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 二※なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形																																																																																																																																																																																																			
● 樹ふた用	○ 珪藻土	● あり	○ T-2用	※ 細目	※ 凹凸形																																																																																																																																																																																																			
○ 嵩上げ用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6用																																																																																																																																																																																																					
○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定※なし	● T-14用																																																																																																																																																																																																					
		● 図示	○ T-20用																																																																																																																																																																																																					
測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備 考																																																																																																																																																																																																					
処理作業前	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点																																																																																																																																																																																																						
	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点																																																																																																																																																																																																						
処理作業中	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点																																																																																																																																																																																																						
	負圧粉じん装置の排出吹き出し口	吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点																																																																																																																																																																																																						
処理作業後	処理作業室外	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	作業中																																																																																																																																																																																																					
処理作業後	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	作業後																																																																																																																																																																																																					
処理作業後	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	1週間以降																																																																																																																																																																																																					
種 類	適用荷重 (安全荷重)																																																																																																																																																																																																							
○ 水封形 ○ 密閉形 (フタなし)形式	○ T-2用 (500) ○ T-6用 (11500)																																																																																																																																																																																																							
○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (フタ有)形式	○ T-20用 (5000)																																																																																																																																																																																																							
種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状																																																																																																																																																																																																			
○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 二※なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形																																																																																																																																																																																																			
● 樹ふた用	○ 珪藻土	● あり	○ T-2用	※ 細目	※ 凹凸形																																																																																																																																																																																																			
○ 嵩上げ用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6用																																																																																																																																																																																																					
○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定※なし	● T-14用																																																																																																																																																																																																					
		● 図示	○ T-20用																																																																																																																																																																																																					
材 料		そ の 他																																																																																																																																																																																																						
断熱材 打込み工法	○ 不燃性断熱材	断熱材厚さ ○ mm 接着剤の材料名及び数量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____																																																																																																																																																																																																						
	○ 難燃性断熱材																																																																																																																																																																																																							
	○ 不燃性断熱材 (※ F☆☆☆☆ ○ )																																																																																																																																																																																																							
断熱材現場発泡工法 (難燃性を有するものとする)	※ 種別 ○ _____ JIS A 9526	吹付け厚さ ○ mm																																																																																																																																																																																																						
種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																					
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○																																																																																																																																																																																																					
○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○																																																																																																																																																																																																					
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸板	○																																																																																																																																																																																																					
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿けい酸板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○																																																																																																																																																																																																					
11 舗装工事	① 路床 (22.2.3) (22.2.5)	<p>本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成22年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表2.1) 路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>地盤改良材 ( )</th> <th>高炉セメントB種</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 普通ポルトランドセメント</td> <td>○ 生石灰 1号</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ フライアッシュセメントB種</td> <td>○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号</td> </tr> </table> <p>添加量 ( kg/m<sup>3</sup>)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ● 行う ( ※ 乱した土 ○ 乱さない土 ) 路床締固め度の試験 ○ 行う ○ 行わない 砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない</p>	種 類	地盤改良材 ( )	高炉セメントB種		○ 普通ポルトランドセメント	○ 生石灰 1号		○ フライアッシュセメントB種	○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号	12 環境配慮改修工事	4 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)	<p>処理を行う範囲 ※ 図示</p> <p>作業場の隔離 ※ 養生シート等により区画する。 ※ 掻き落とし・破砕・切断により除去する場合は改修仕様9.1.3(a)による隔離とする ○</p> <p>処理を行うアスベスト成形板の仕様</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>種 類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>○ 化粧石膏ボード</td> <td>○ 9.5</td> <td>○ 石綿ロックウール</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ ビニル床タイル</td> <td>○ 2.0</td> <td>○ 石綿スレート(外装・内装)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 石綿保温材</td> <td>○</td> <td>○ 押出成形セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けいそう土保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 石綿セメントけい酸板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けい酸カルシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿けい酸板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 親水性パーライト保温材</td> <td>○</td> <td>○ 吸音穴あき石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)	○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○	○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○	○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○	○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○	○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸板	○	○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿けい酸板	○	○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○	○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○	7 一般事項 (9.1.1)	<p>○ アスベスト含有吹付け材処理工事 ○ 除去工法 ( ) ○ 封じ込め工法 ( ) ○ 囲い込み工法 ( )</p> <p>○ アスベスト含有保温材処理工事 ○ アスベスト含有成型板処理工事</p>	9 緑石 (22.10.2)	<p>歩車道境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ○ A ○ C ○ 砂利地業の厚さ ※ 100mm ○</p>	10 砂利敷き (22.11.1) (22.11.2)	<p>通 路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする</p>																																																																																																																																																
	種 類	地盤改良材 ( )	高炉セメントB種																																																																																																																																																																																																					
		○ 普通ポルトランドセメント	○ 生石灰 1号																																																																																																																																																																																																					
	○ フライアッシュセメントB種	○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号																																																																																																																																																																																																						
種 類	厚さ(mm)	種 類	厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																					
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○																																																																																																																																																																																																					
○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○																																																																																																																																																																																																					
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸板	○																																																																																																																																																																																																					
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿けい酸板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																					
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○																																																																																																																																																																																																					
② 路盤 (22.3.3) (22.3.5)	<p>材料 ※ 再生クラッシュラン (RC-40) ○ クラッシュラン (C-40) ○ クラッシュラン鉄鋼スラグ (CS-40)</p> <p>路盤締固め度の試験 ○ 行う</p>	1 一般事項 (9.1.1)	<p>○ アスベスト含有吹付け材処理工事 ○ 除去工法 ( ) ○ 封じ込め工法 ( ) ○ 囲い込み工法 ( )</p> <p>○ アスベスト含有保温材処理工事 ○ アスベスト含有成型板処理工事</p>	2 施工調査等 (9.1.1)	<p>施工調査 ○ 行う アスベストの処理に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。 調査箇所 ※ 図示 ○ 調査事項 ※ アスベスト使用部位の確認 ※ アスベスト層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない</p> <p>アスベスト含有分析 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと</p> <table border="1"> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> </table> <p>○ 行わない</p>	材 料 名	定性分析	定量分析		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																				
材 料 名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
③ アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	<table border="1"> <tr> <th>舗 装 の 種 類</th> <th>車道部基層</th> <th>カラー舗装の種類</th> </tr> <tr> <td>※ アスファルト舗装</td> <td>※</td> <td>※ 顔料混入加熱アスファルト混合物</td> </tr> </table> <p>アスファルト ※ 再生アスファルト ○ ストレートアスファルト</p> <p>再生加熱アスファルト混合物の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>※ 一般地域</th> <th>○ 寒冷地域</th> </tr> <tr> <td>表層</td> <td>※ 密粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 細粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td>基層</td> <td>※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> <td></td> </tr> </table> <p>シールコート ※ 行わない ○ 行う ( 施工範囲 ) アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない</p>	舗 装 の 種 類	車道部基層	カラー舗装の種類	※ アスファルト舗装	※	※ 顔料混入加熱アスファルト混合物	区分	※ 一般地域	○ 寒冷地域	表層	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)		○ 細粒度アスファルト混合物 (13)	○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)	基層	※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)		2 施工調査等 (9.1.1)	<p>施工調査 ○ 行う アスベストの処理に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。 調査箇所 ※ 図示 ○ 調査事項 ※ アスベスト使用部位の確認 ※ アスベスト層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない</p> <p>アスベスト含有分析 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと</p> <table border="1"> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> </table> <p>○ 行わない</p>	材 料 名	定性分析	定量分析		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																				
舗 装 の 種 類	車道部基層	カラー舗装の種類																																																																																																																																																																																																						
※ アスファルト舗装	※	※ 顔料混入加熱アスファルト混合物																																																																																																																																																																																																						
区分	※ 一般地域	○ 寒冷地域																																																																																																																																																																																																						
表層	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)																																																																																																																																																																																																						
	○ 細粒度アスファルト混合物 (13)	○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)																																																																																																																																																																																																						
基層	※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)																																																																																																																																																																																																							
材 料 名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
④ コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)	<p>早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する 注入材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ コンクリート版厚さの試験 ○ 行う ※ 行わない</p>	2 施工調査等 (9.1.1)	<p>施工調査 ○ 行う アスベストの処理に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。 調査箇所 ※ 図示 ○ 調査事項 ※ アスベスト使用部位の確認 ※ アスベスト層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない</p> <p>アスベスト含有分析 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと</p> <table border="1"> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> </table> <p>○ 行わない</p>	材 料 名	定性分析	定量分析		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																						
材 料 名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
5 カラー塗装 (22.6.3) ~ (22.6.6)	<table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>部 位</th> <th>配合その他</th> </tr> <tr> <td>※ 加熱系アスファルト混合物</td> <td>○ 車道部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石</td> <td>○ 歩道部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 )</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7mm混合物の抽出試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 適用する ※ 適用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車道部の基層</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 適用する ※ 適用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系樹脂系混合物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系ニート工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系塗布工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類	部 位	配合その他	※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車道部		添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 歩道部		結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 )			7mm混合物の抽出試験			○ 適用する ※ 適用しない			車道部の基層			○ 適用する ※ 適用しない			○ 常温系樹脂系混合物			○ 常温系ニート工法			○ 常温系塗布工法			2 施工調査等 (9.1.1)	<p>施工調査 ○ 行う アスベストの処理に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。 調査箇所 ※ 図示 ○ 調査事項 ※ アスベスト使用部位の確認 ※ アスベスト層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない</p> <p>アスベスト含有分析 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと</p> <table border="1"> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> </table> <p>○ 行わない</p>	材 料 名	定性分析	定量分析		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																					
種 類	部 位	配合その他																																																																																																																																																																																																						
※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車道部																																																																																																																																																																																																							
添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 歩道部																																																																																																																																																																																																							
結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 )																																																																																																																																																																																																								
7mm混合物の抽出試験																																																																																																																																																																																																								
○ 適用する ※ 適用しない																																																																																																																																																																																																								
車道部の基層																																																																																																																																																																																																								
○ 適用する ※ 適用しない																																																																																																																																																																																																								
○ 常温系樹脂系混合物																																																																																																																																																																																																								
○ 常温系ニート工法																																																																																																																																																																																																								
○ 常温系塗布工法																																																																																																																																																																																																								
材 料 名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																						





南団地1号棟

仮設駐車場

仮設駐車場



企業組合  
一級建築士事務所 **ひと村** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

特記

工事名称 5同人第3号  
井手町宮住宅南団地1号棟耐震補強工事

図面名称 付近見取図

DATE H25 7

SCALL --

Check

Charge Dr

D. C.

E. M.

No.

D-09 31

南団地1号棟

項 目	外部仕上表					そ の 他	屋 外
	腰	壁 (柱、梁型を含む)	軒 天	屋 根	バルコニー (北棟1~3階・南棟1~4階)		
現況・撤去	モルタル金コテ押え 一部 撤去	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去 コンクリート壁等 一部 撤去	モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去		縦樋: VP100φ 一部撤去 フロアドレイン: 鑄鉄製一部撤去 物干金物撤去 (改修後復旧) モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去 モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去	軒樋撤去 (改修後復旧)	インターロッキングブロック一部撤去 コンクリート縁石一部撤去 雨水排水柵・排水管一部撤去
改 修	外フレーム設置 (耐震補強) 防水系複層塗材 E	外フレーム設置 (耐震補強) 防水系複層塗材 E 防水系複層塗材 E	スラブ設置 (耐震補強) 外装薄塗材 E		縦樋: VP100φ 新設 ベランダスラブ穿孔の上 鑄鉄製中継ドレイン設置100φ ベランダ排水勾配改修 物干金物復旧 耐震壁設置 (耐震補強) 外装薄塗材 E 耐震床設置 (耐震補強) 外装薄塗材 E	耐震補強スラブにフロアドレイン65φ設置 呼び樋VP65φ設置 軒樋復旧 新設壁・梁の開口及び配管類の貫通補強	インターロッキングブロック舗装 コンクリート縁石設置 雨水排水柵・管新設 汚水・雑排水管盛り替え改修 電気設備配線・配管盛り替え改修 仮設駐車場の整備 (位置は付近見取り図による)



企業組合 **ひとみ** 設計  
一級建築士事務所

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

特 記

工事名称 5 同人第3号  
井手町営住宅南団地1号棟耐震補強工事

DATE H25 7

Check

D. C.  
E. M.

図面名称 改修仕上表

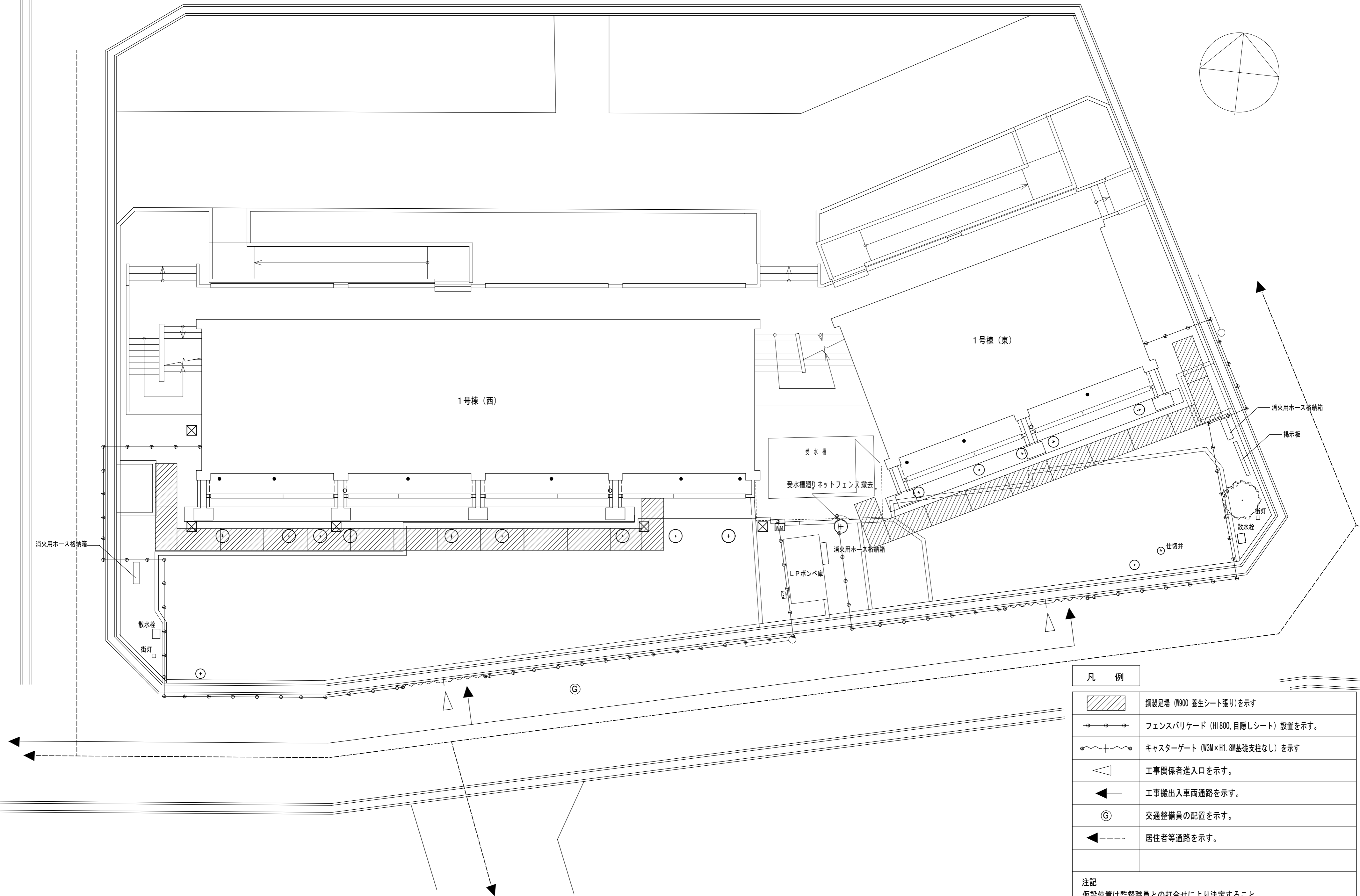
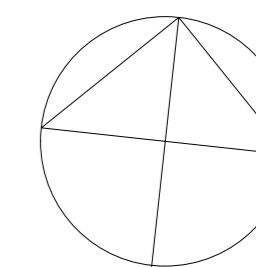
SCALL --

Charge

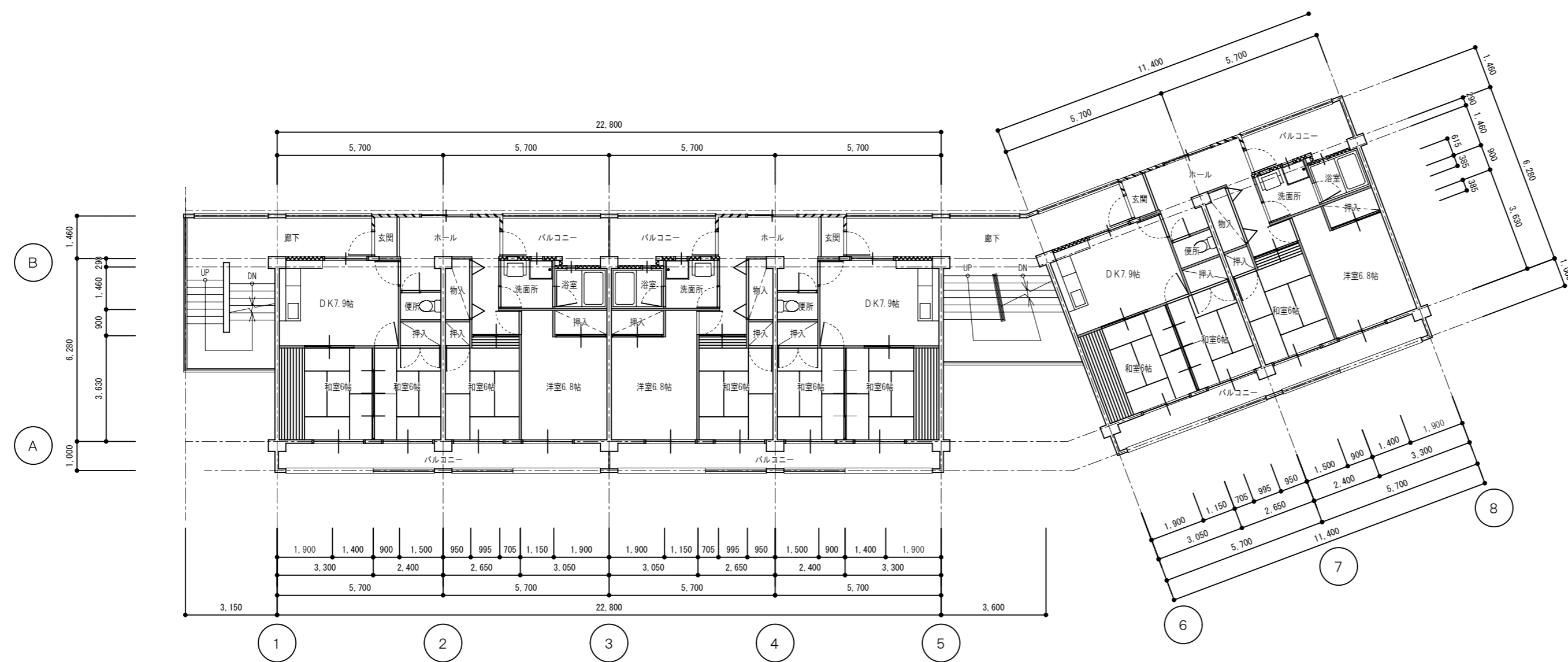
Dr

No.

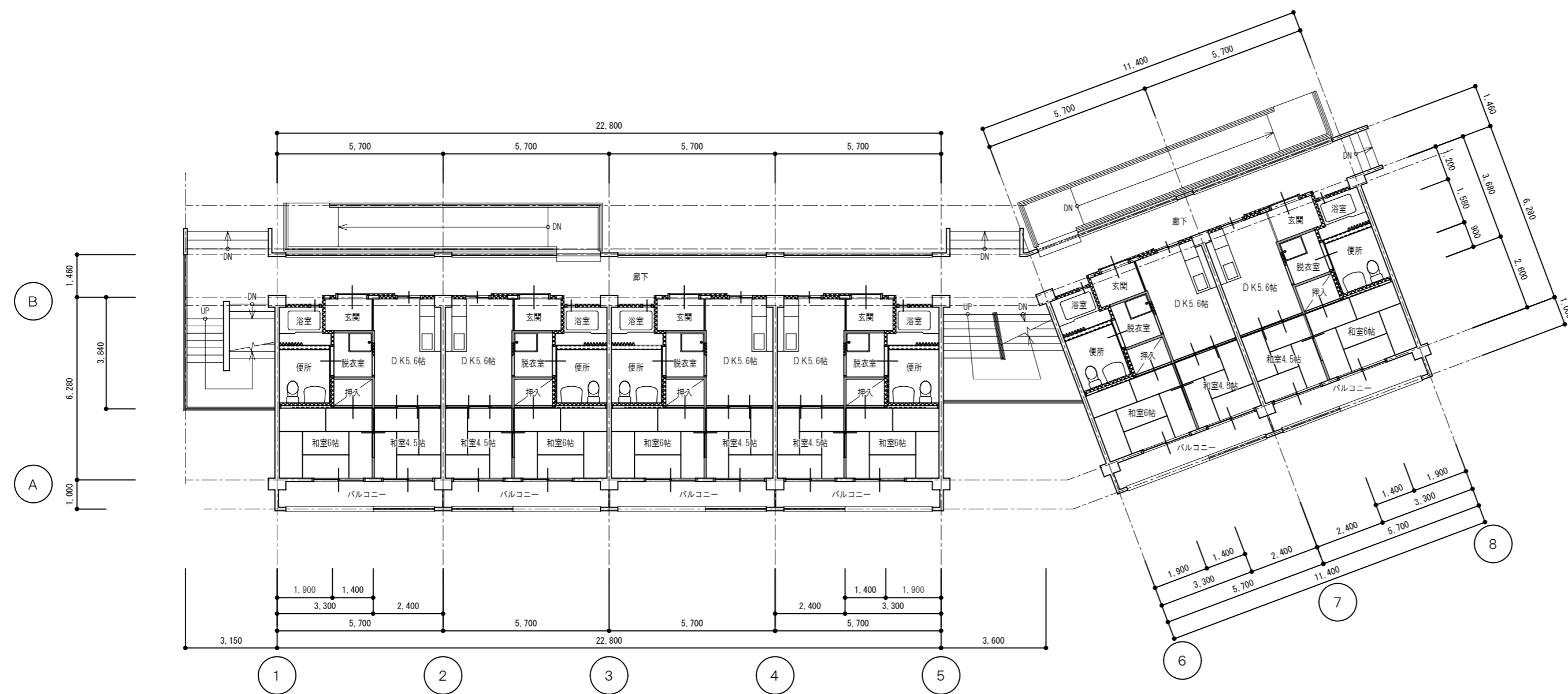
D-10 / 31



凡 例	
	鋼製足場 (W900 養生シート張り) を示す
	フェンスパリケード (H1800, 目隠しシート) 設置を示す。
	キャスターゲート (W3M x H1.8M 基礎支柱なし) を示す
	工事関係者進入口を示す。
	工事搬出入車両通路を示す。
	交通整備員の配置を示す。
	居住者等通路を示す。
注記 仮設位置は監督職員との打合せにより決定すること。	



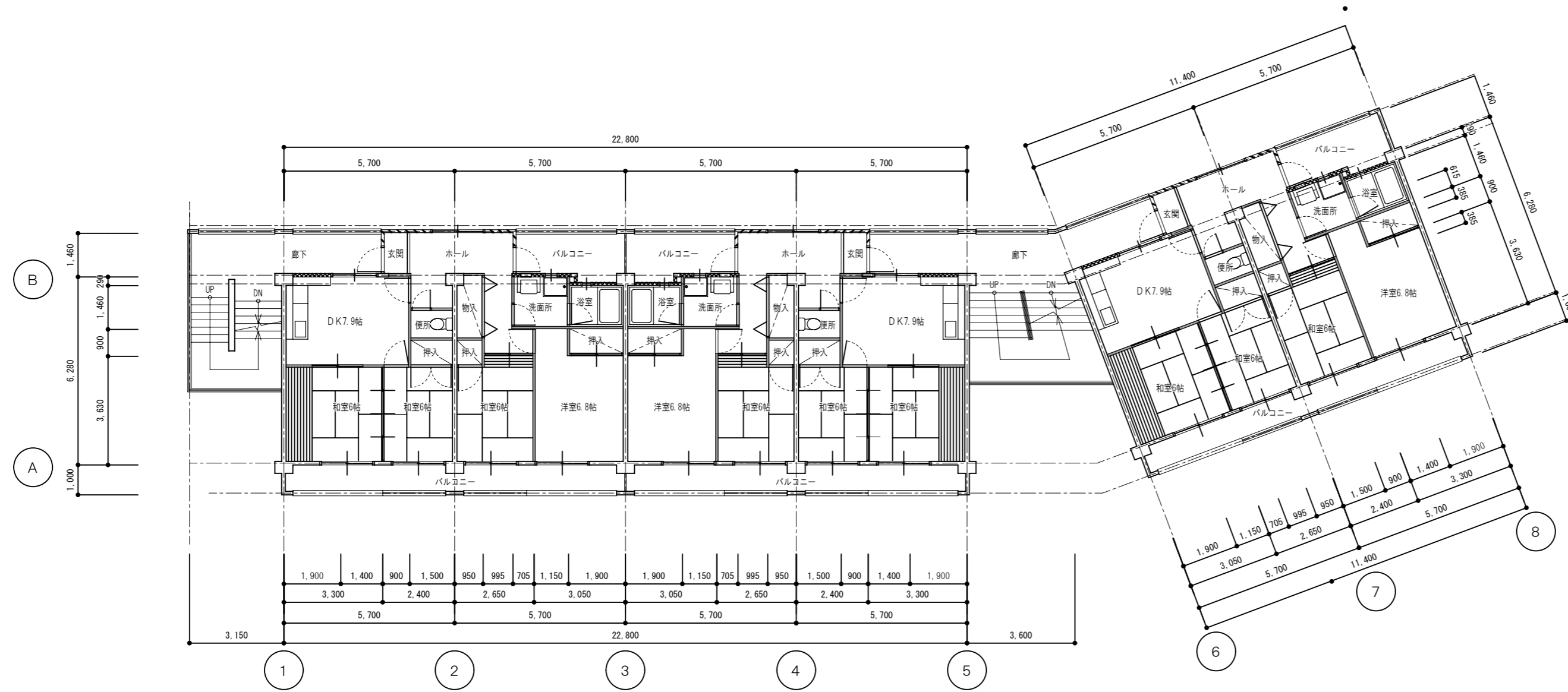
2階平面図 S=1:150



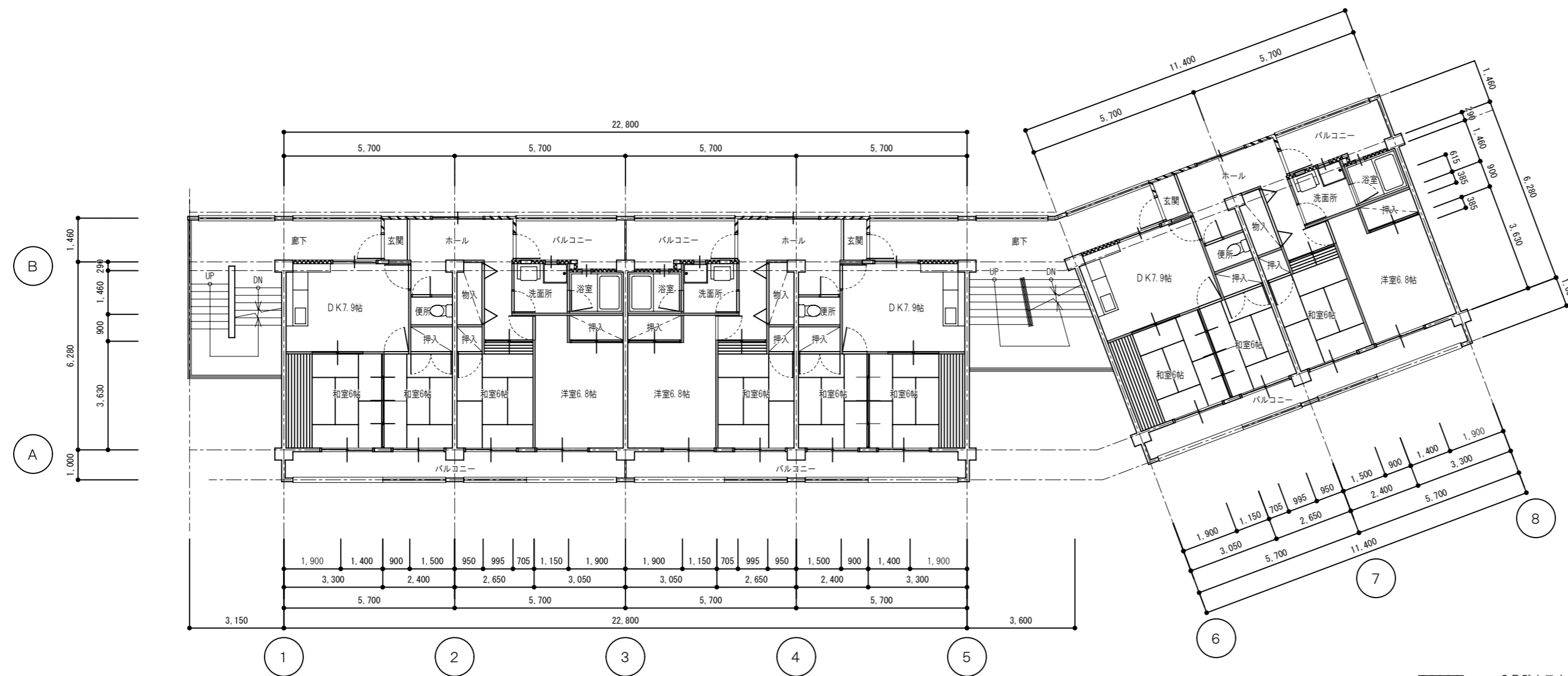
1階平面図 S=1:150

- ▨ CB壁を示す
- ▨ ALC壁を示す
- ▬





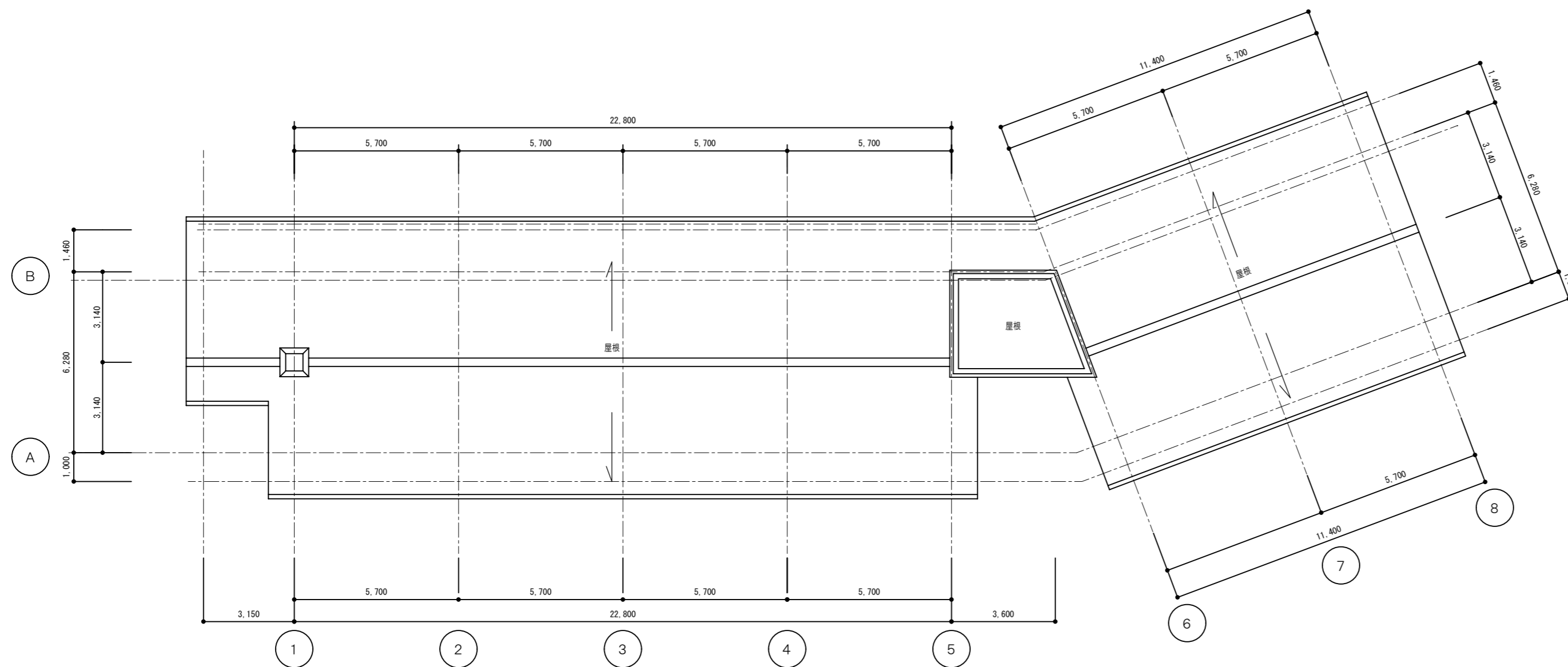
4階平面図 S=1:150



3階平面図 S=1:150

- CB壁を示す
- ALC壁を示す
- 乾式壁を示す



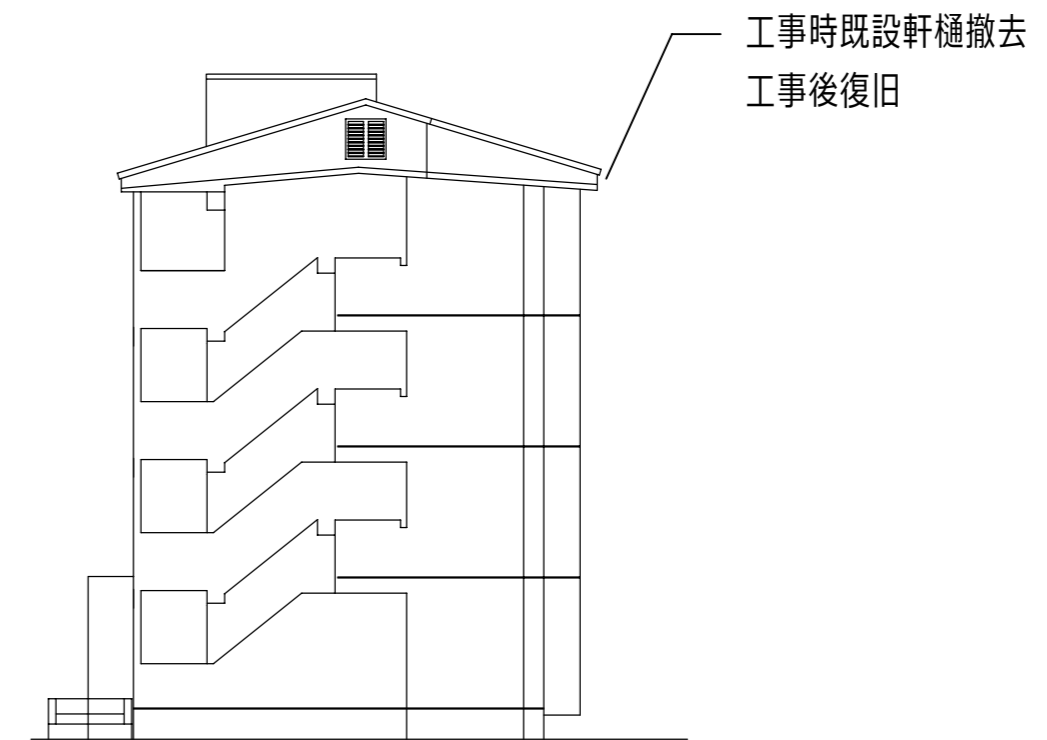


R階平面図 1/150





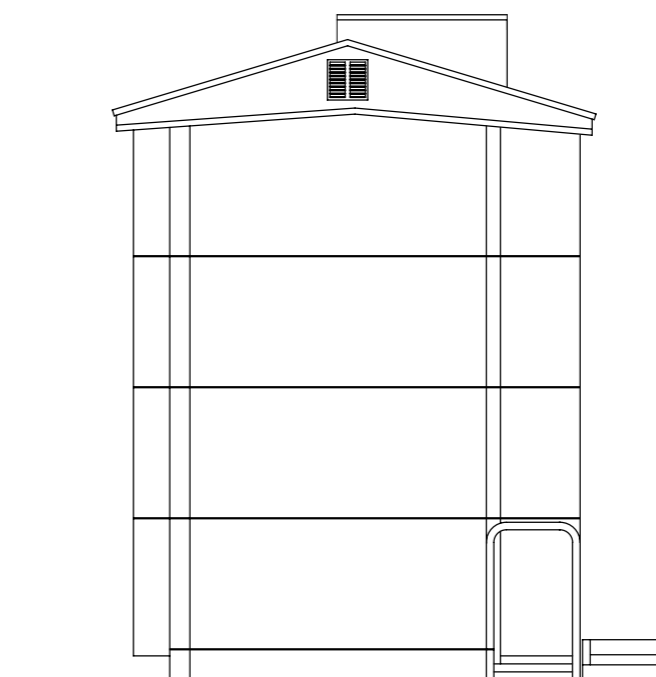
南側現況立面図



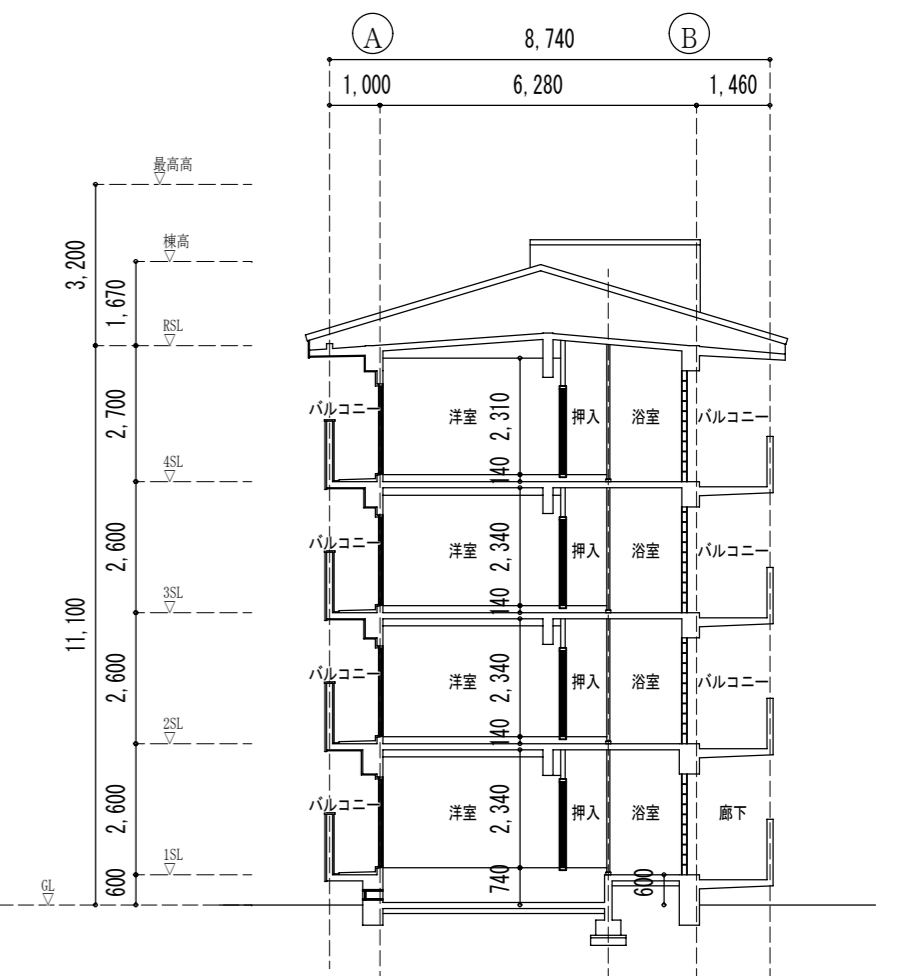
西側現況立面図



北側現況立面図

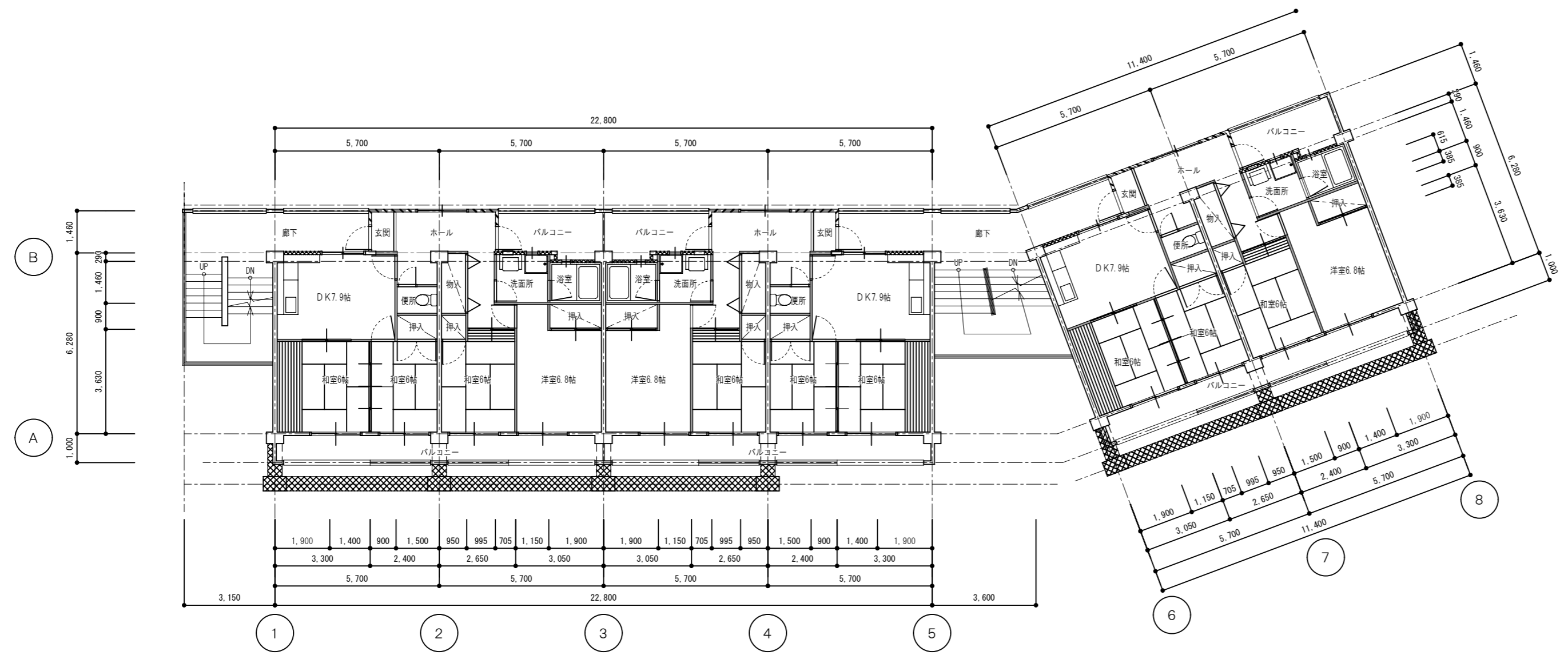


東側現況立面図

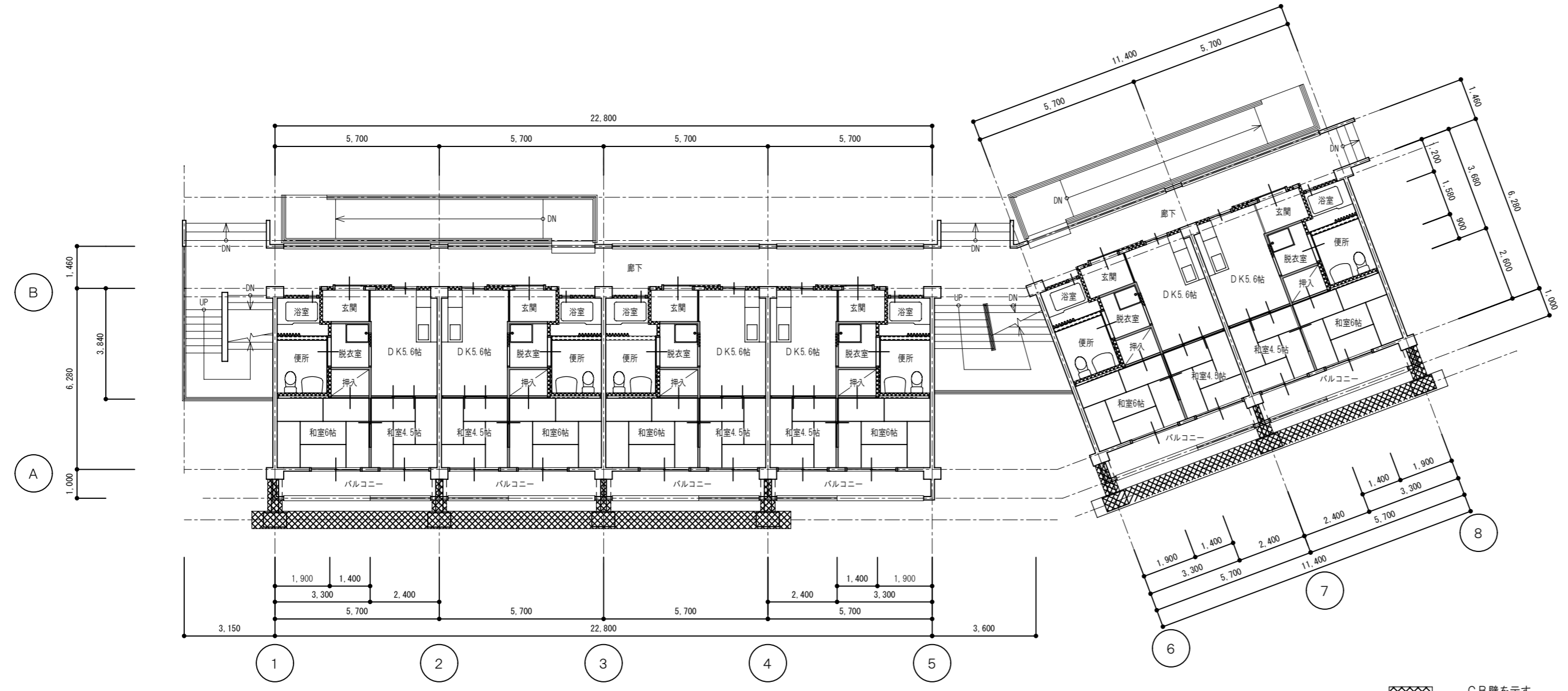


現況断面図





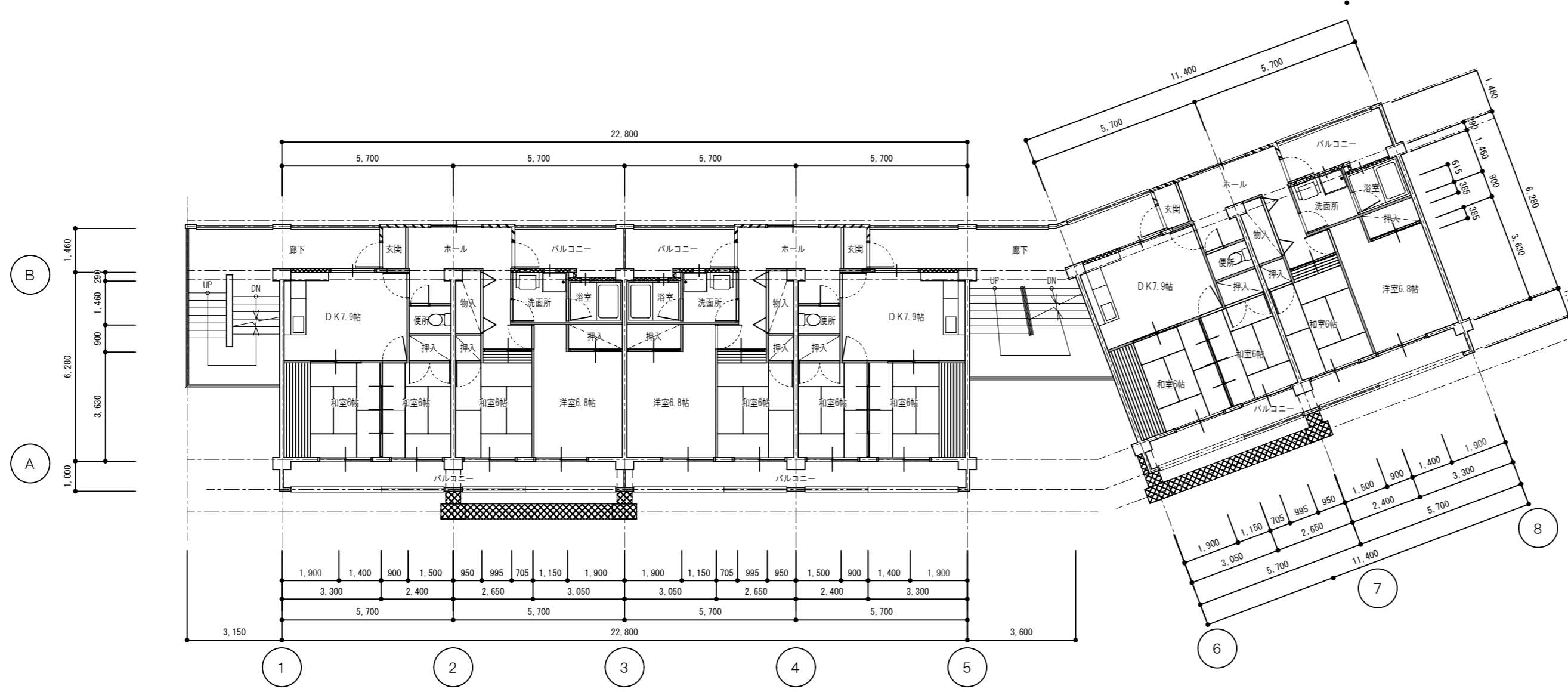
2階平面図 S=1:150



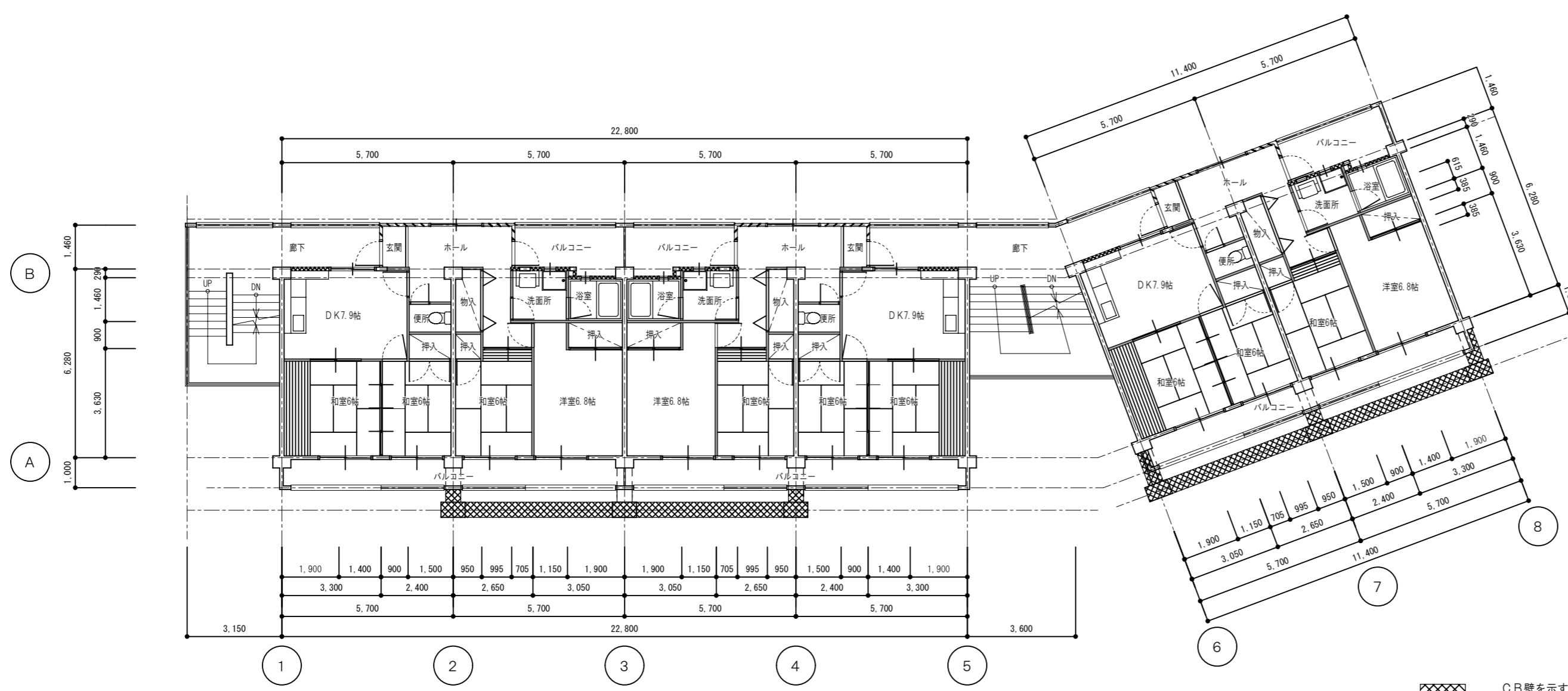
1階平面図 S=1:150







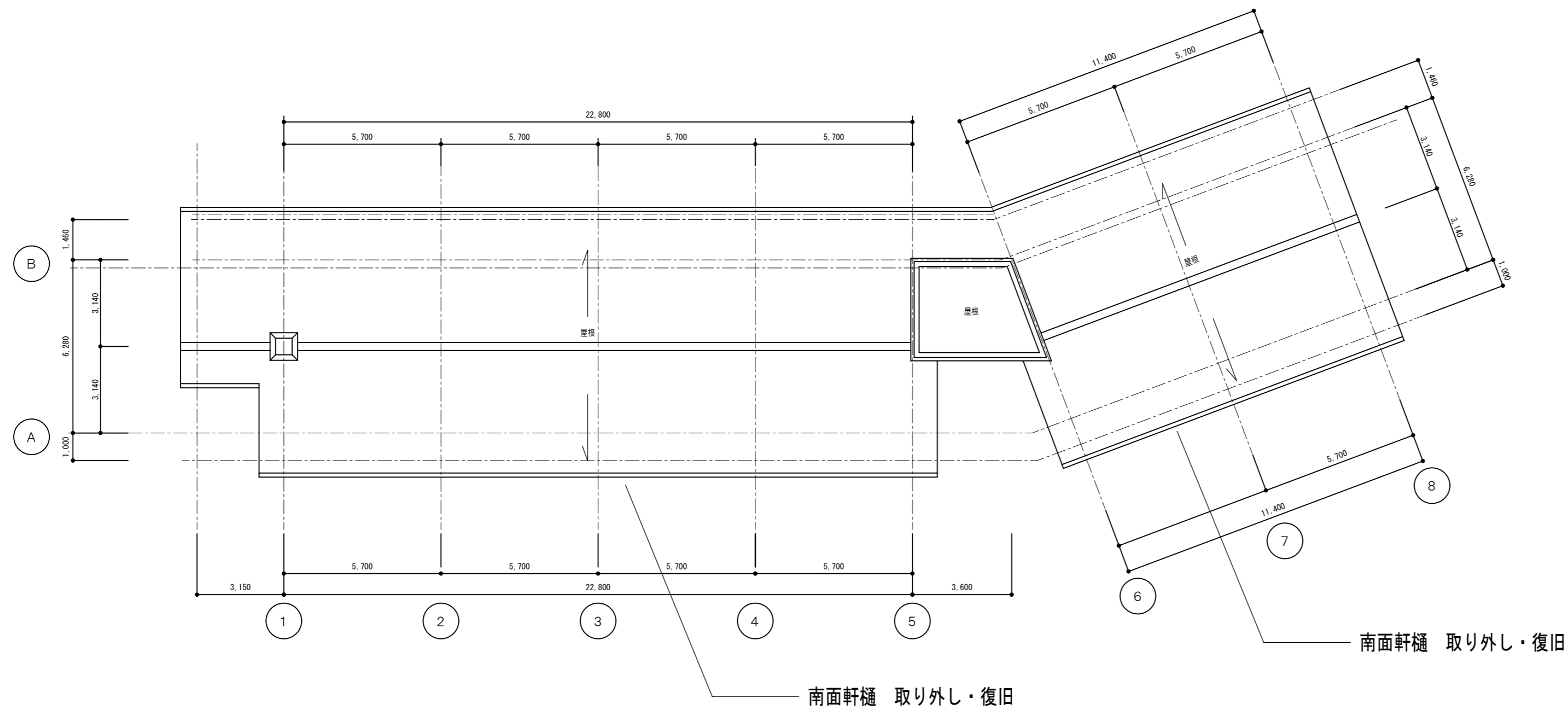
4階平面図 S=1:150



3階平面図 S=1:150

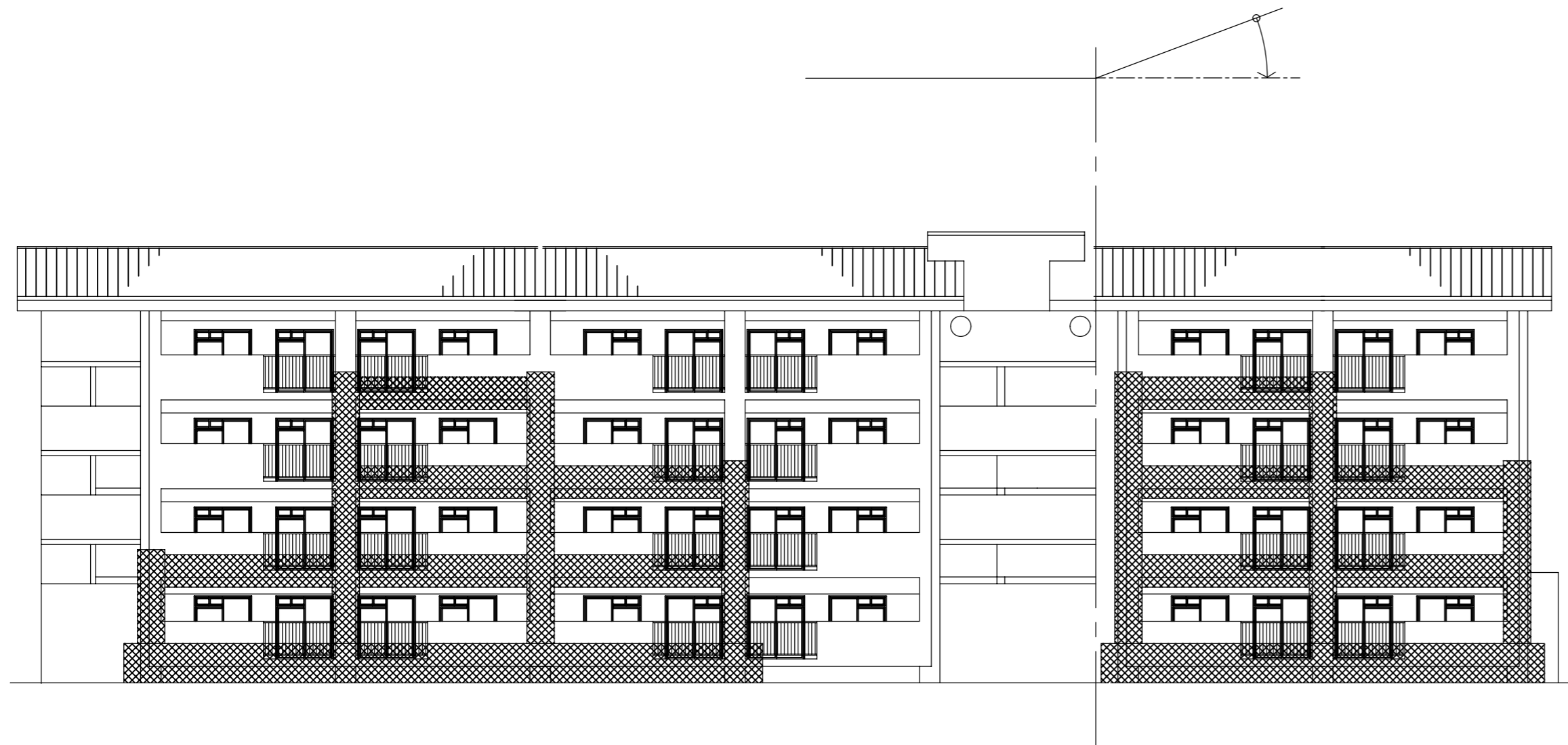
- CB壁を示す
- ALC壁を示す
- 乾式壁を示す



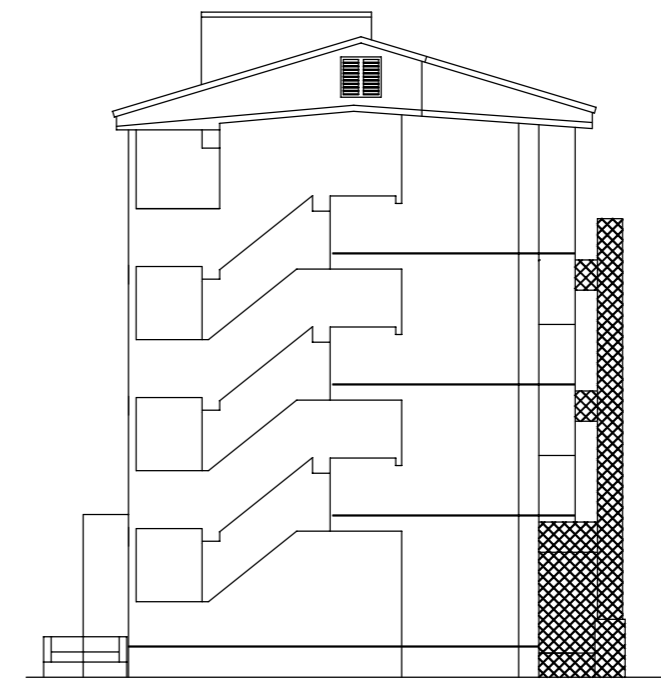


R階平面図 S=1:150





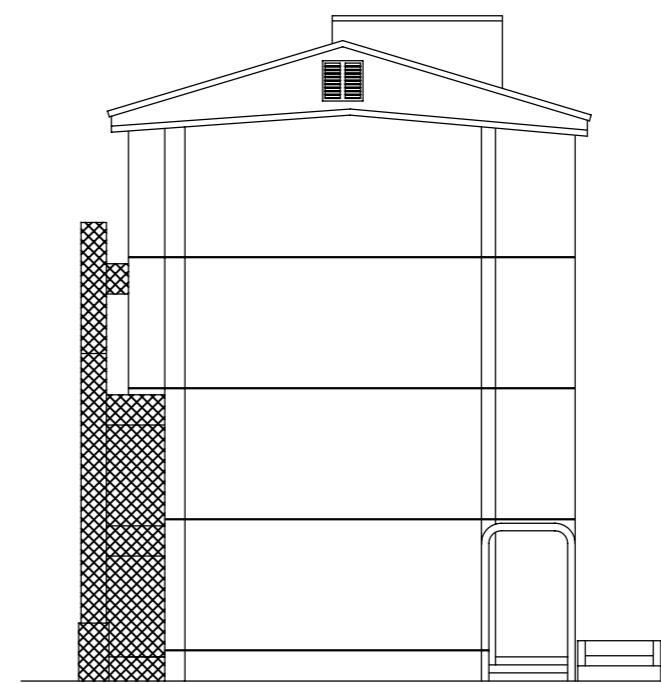
南側現況立面図



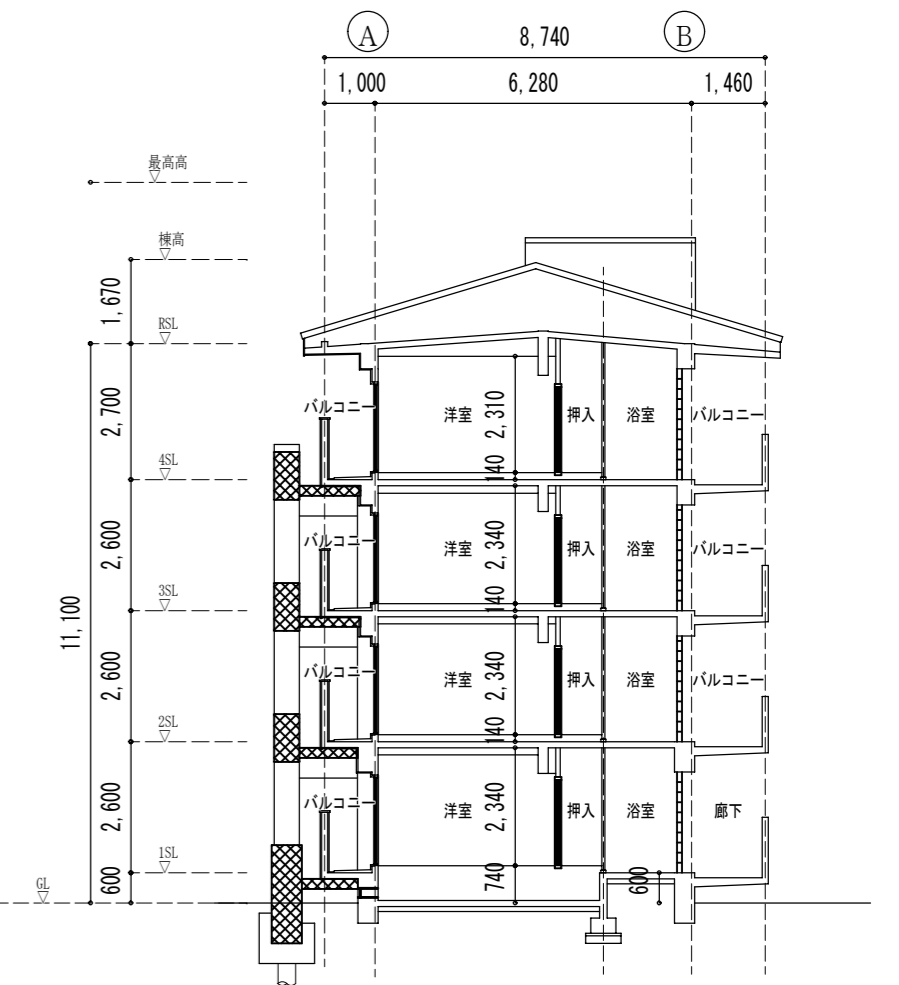
西側現況立面図



北側現況立面図



東側現況立面図



現況断面図



企業組合  
一級建築士事務所 **心と手** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

特記

工事名称 5 同人第3号  
井手町営住宅団地1号棟耐震補強工事

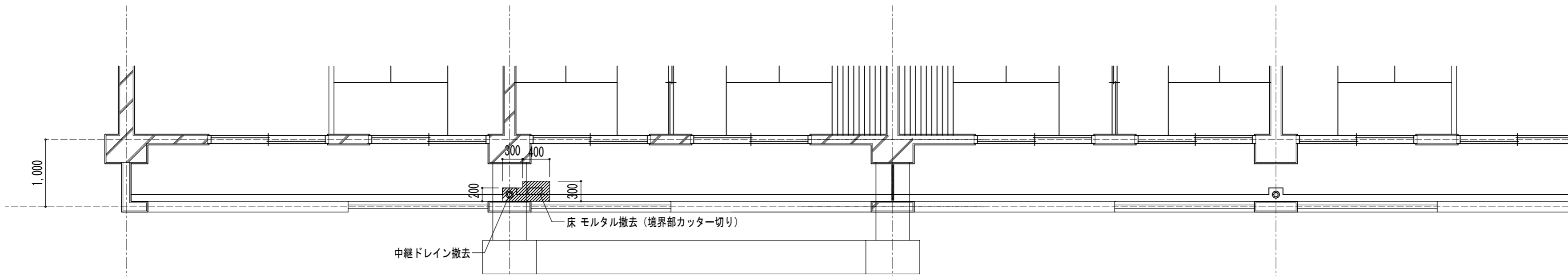
図面名称 立面図・断面図

DATE H25 7  
SCALL 1/150

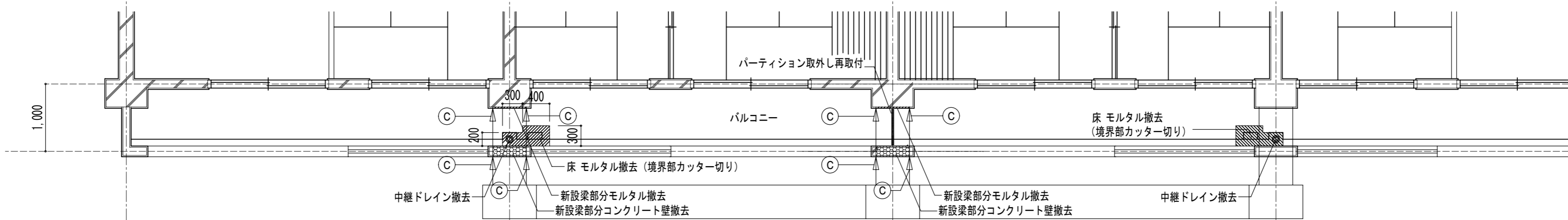
Check  
Charge Dr

D. C.  
E. M.  
No. D-19 / 31

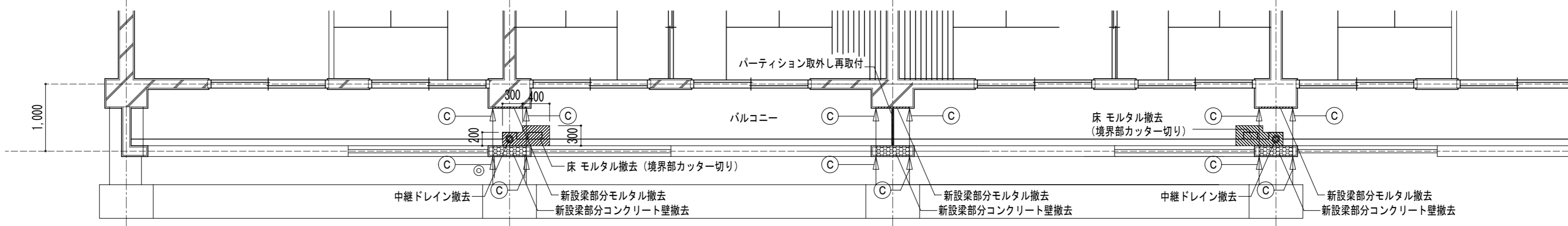
4階



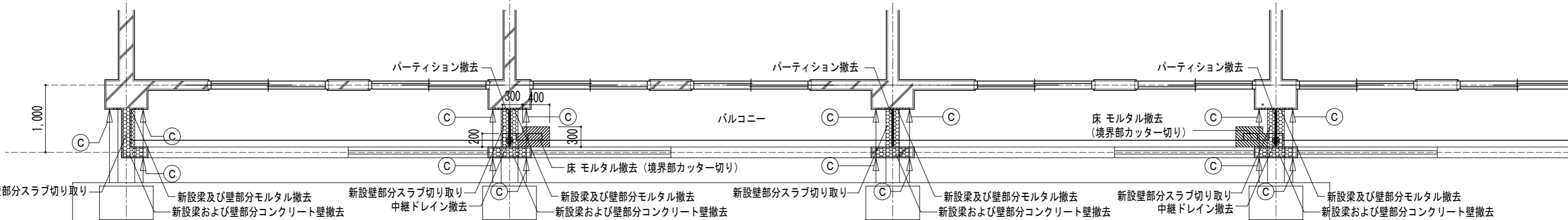
3階



2階



1階



5,700

5,700

5,700

5,700

①

②

③

④



企業組合 **ひとまち** 設計  
一級建築士事務所

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

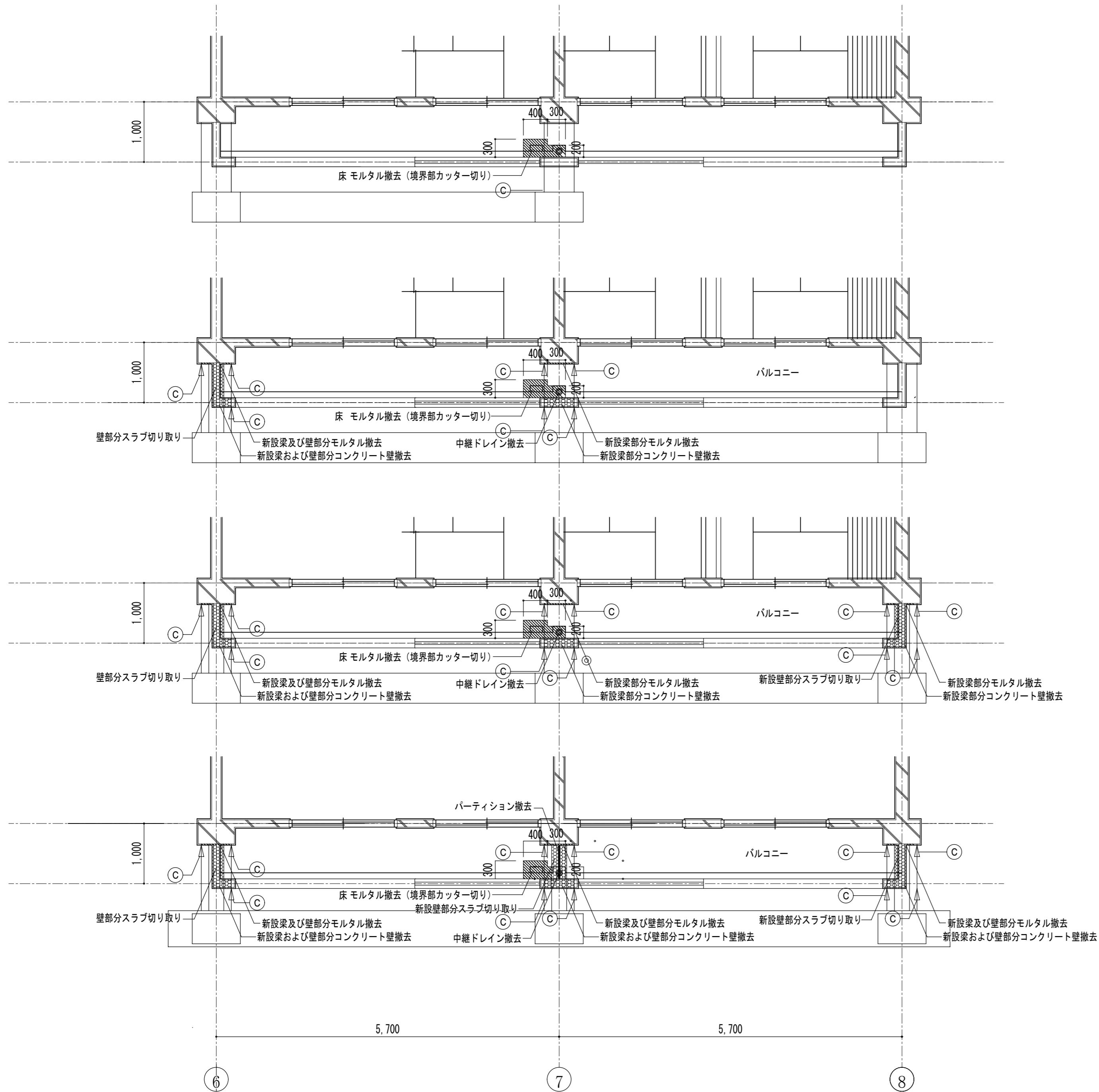
特記

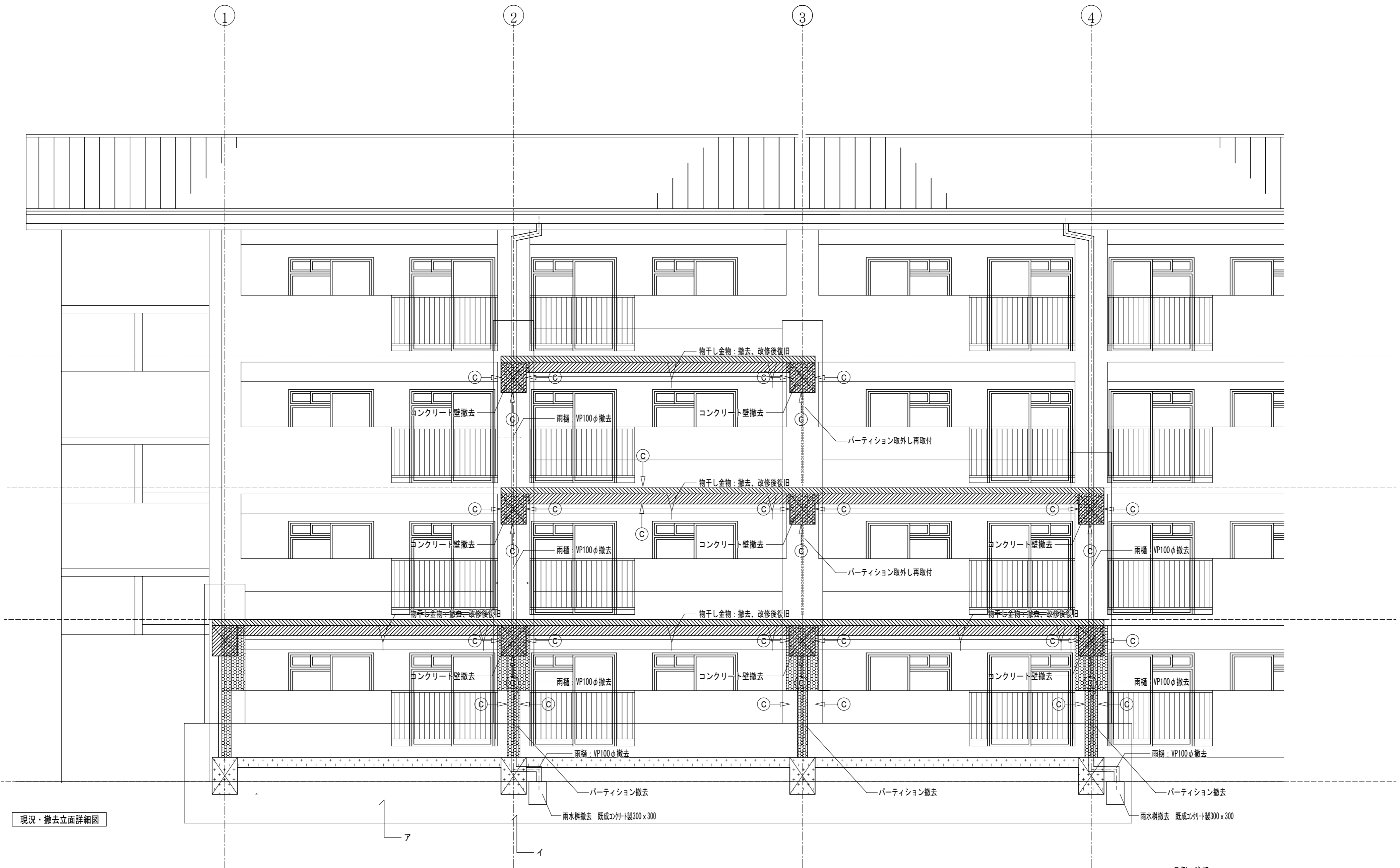
工事名称 5 同人第3号  
井手町宮住宅南団地1号棟耐震補強工事  
図面名称 現況・撤去詳細図 (西棟平面)

DATE H25 7  
SCALL 1/50

Check  
Charge Dr

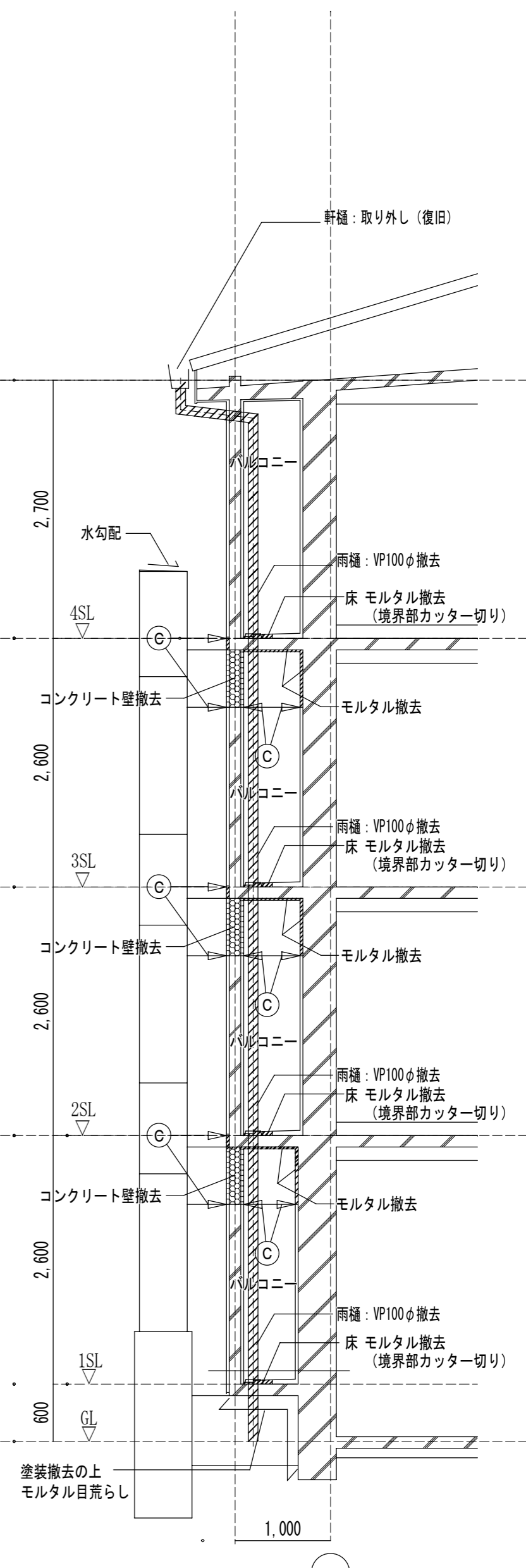
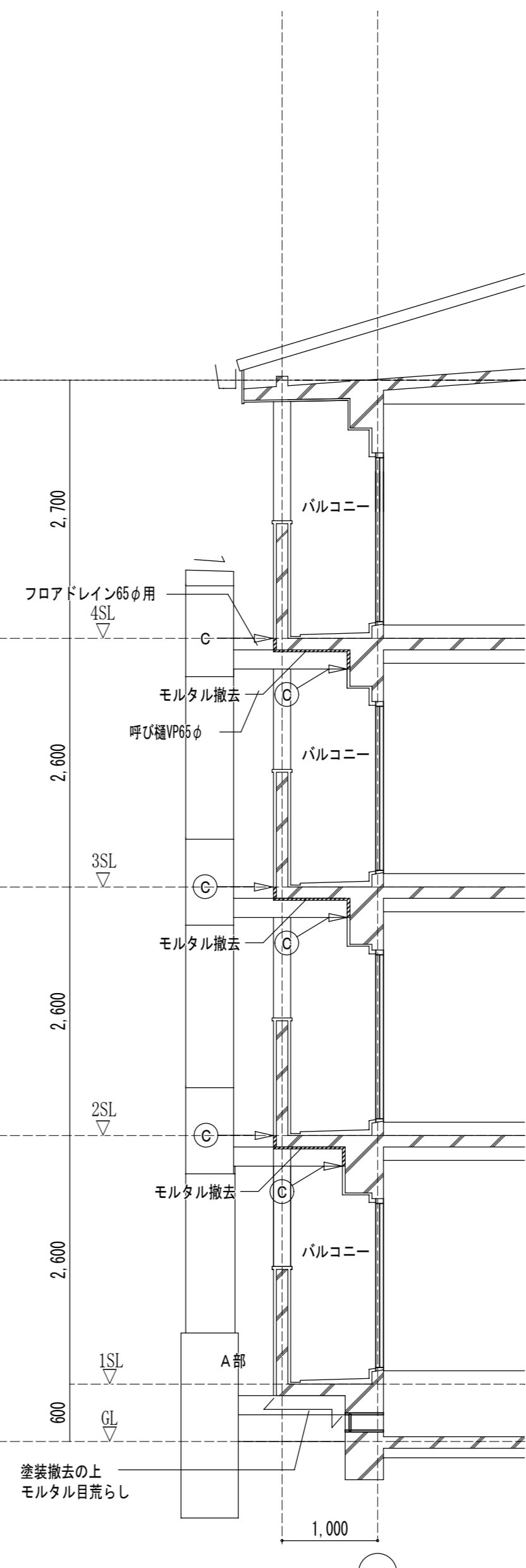
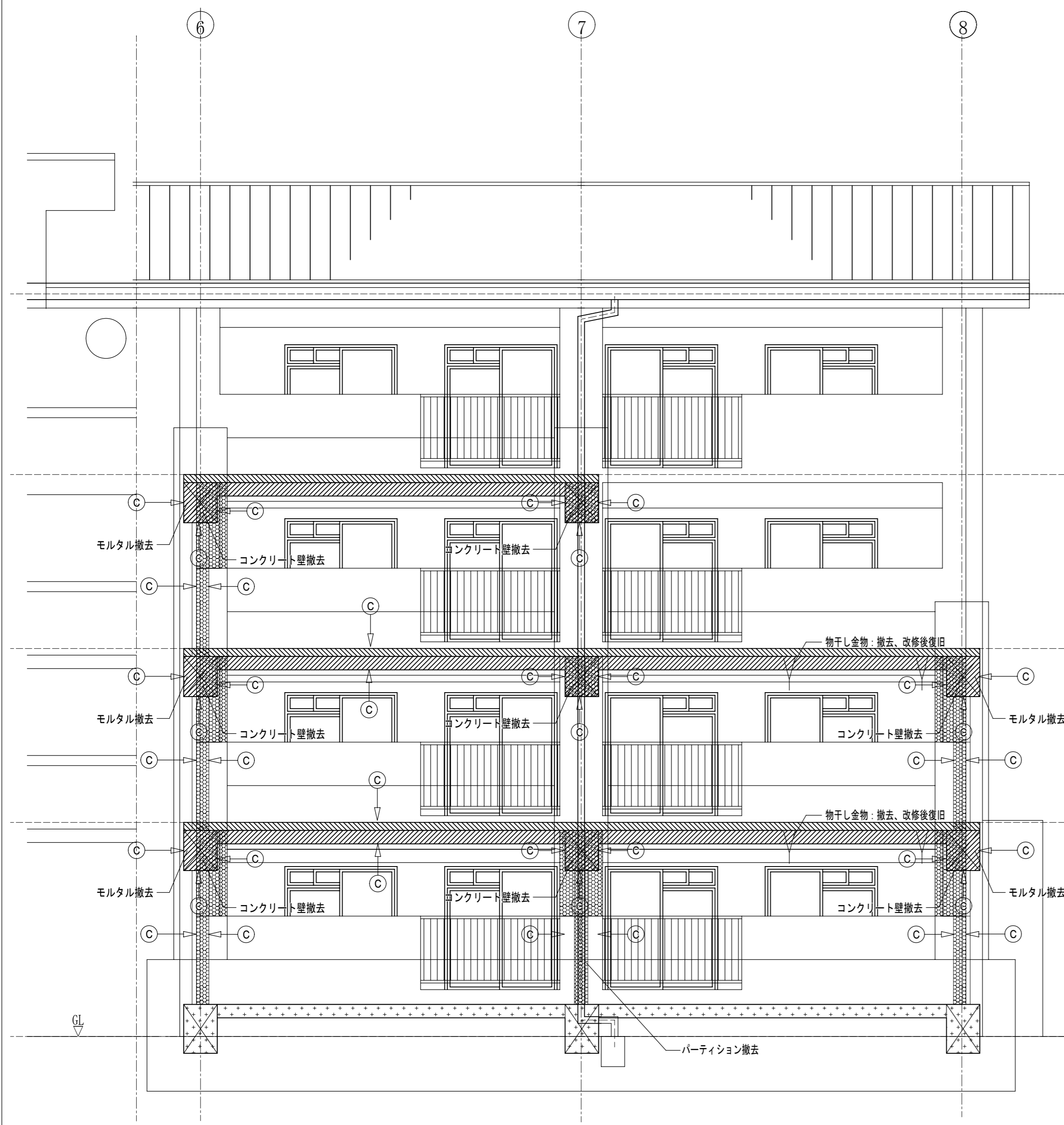
D. C. E. M.  
No. D-20/31





現況・撤去立面詳細図

- 凡例・注記
- モルタル撤去を示す
  - コンクリート壁等撤去を示す（鉄筋は存置すること）
  - 塗装撤去の上目荒し
  - カッター切りを示す



- 凡例・注記
- モルタル撤去を示す
  - コンクリート壁等撤去を示す (鉄筋は存置すること)
  - 塗装撤去の上目荒し
  - カッター切りを示す

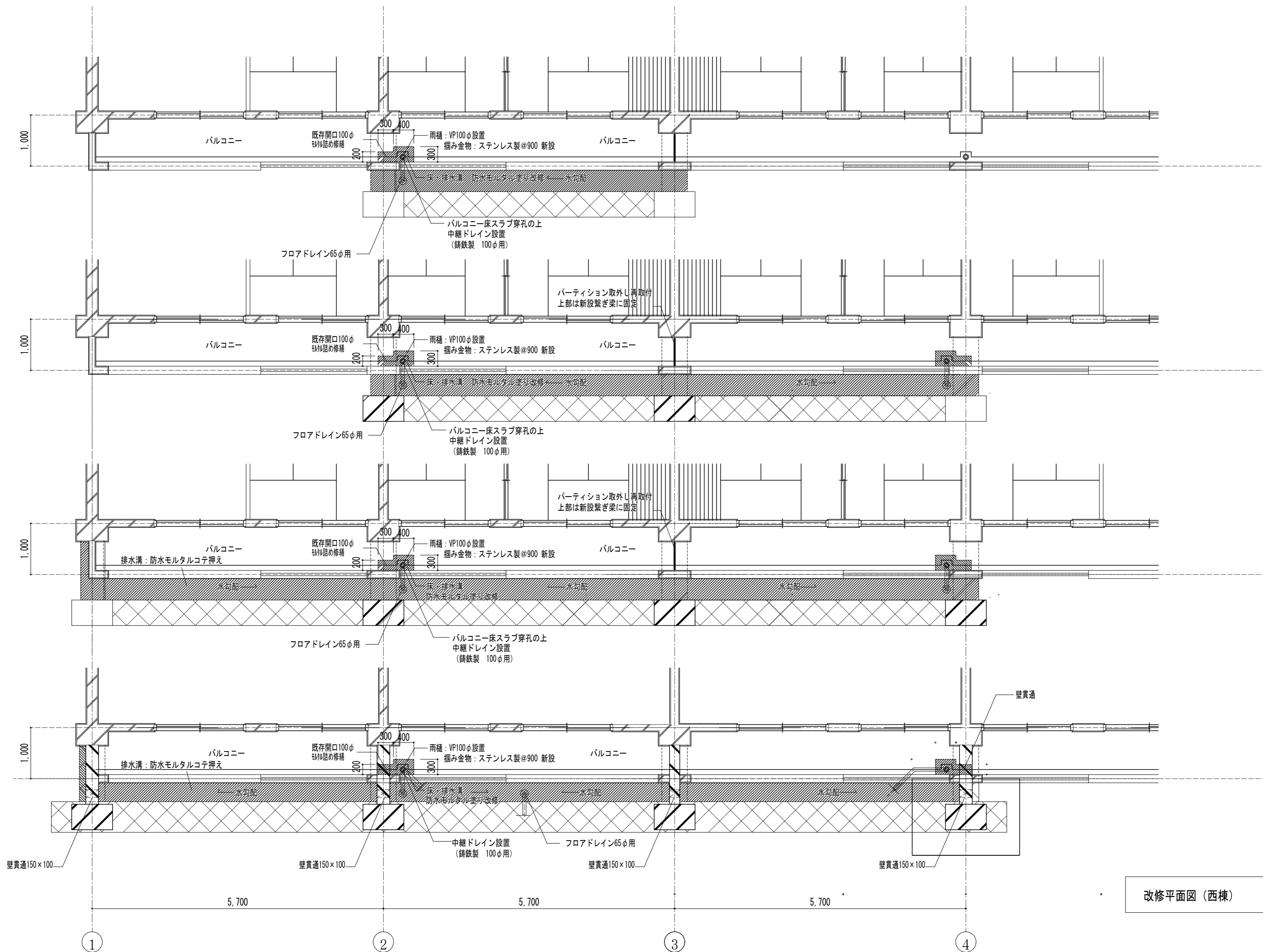
— カッター切りを示す <math>C-C</math>

4階

3階

2階

1階



改修平面図 (西棟)



企業組合 一級建築士事務所 **ひとみ** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (ZZA) 第00282号

特記

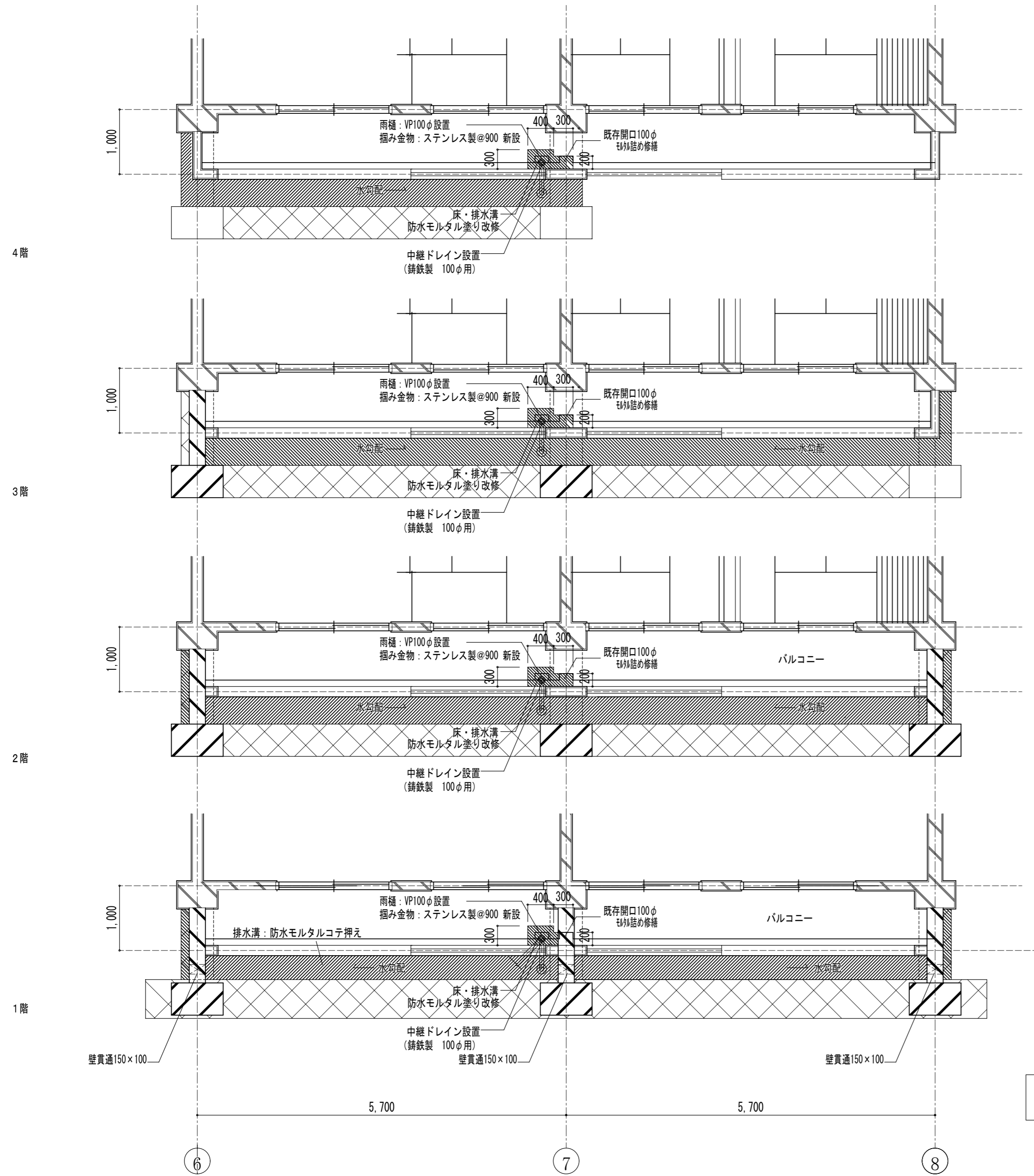
工事名称 5同人第3号 井手町営住宅南団地1号棟耐震補強工事  
図面名称 改修詳細図(西棟平面)

DATE H25 7  
SCALL 1/50

Check  
Charge Dr

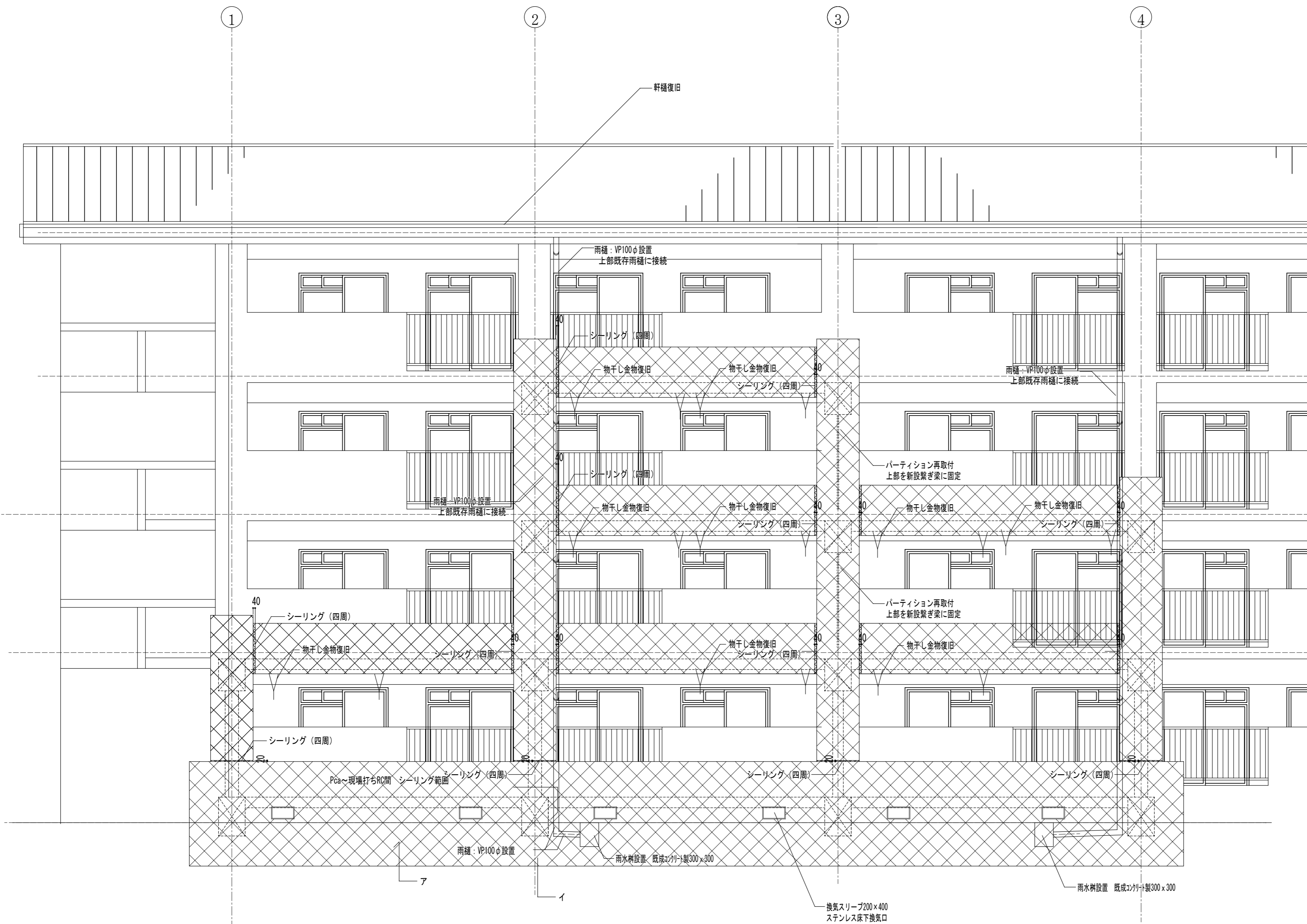
D. C. E. M.  
No. D-24 / 31



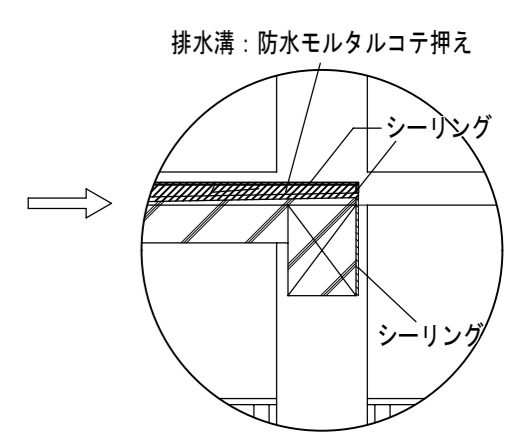


改修平面図 (東棟)

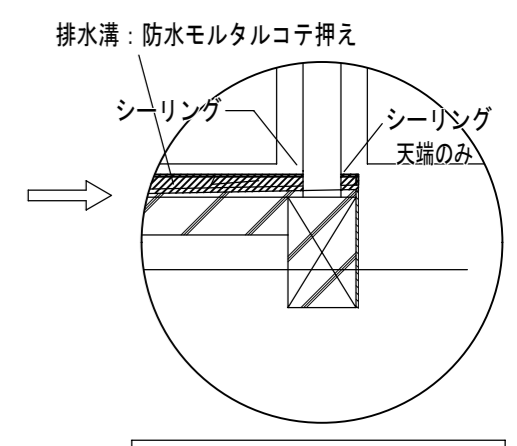




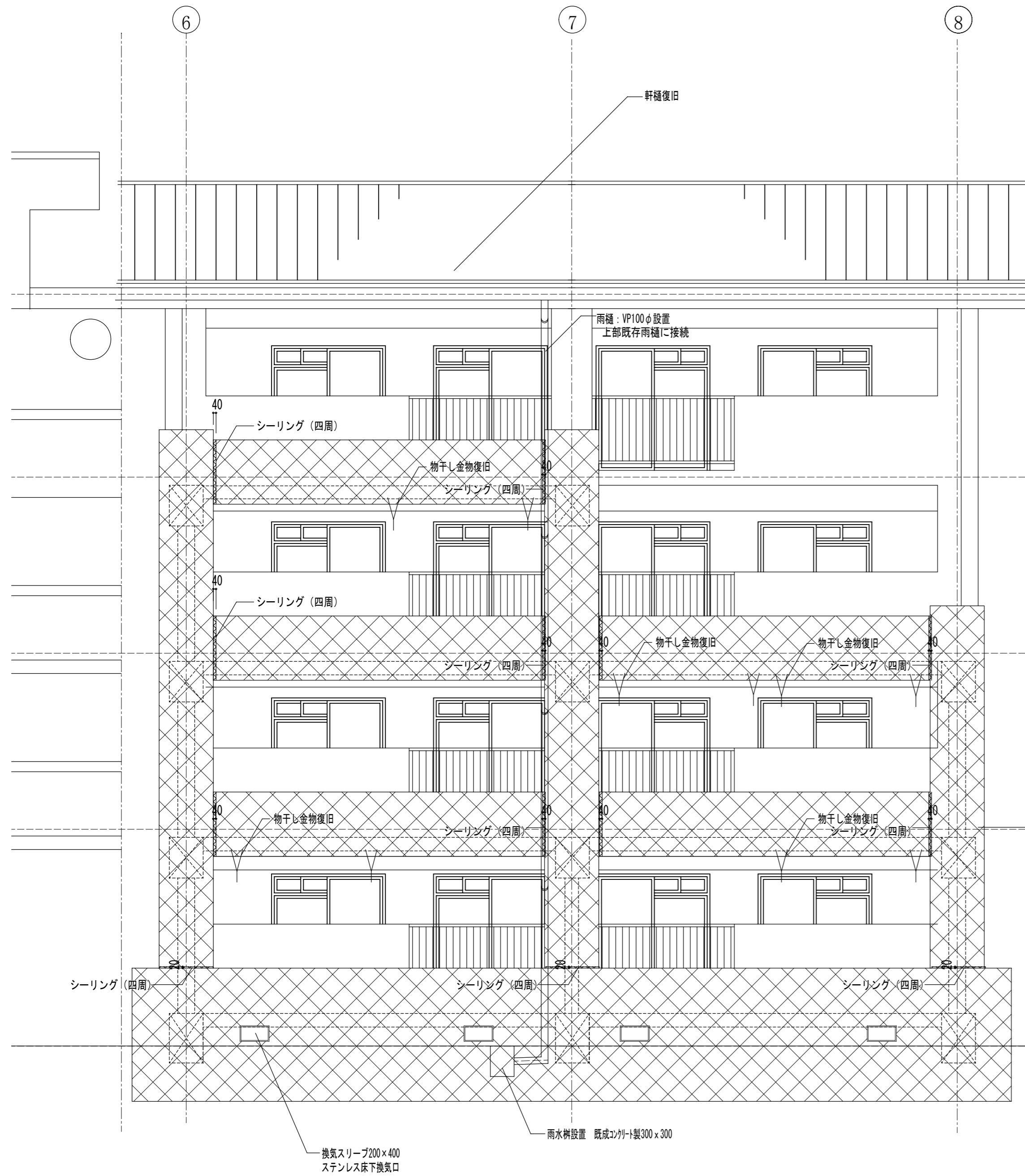
南側改修立面図 (西棟)



バルコニー前面部詳細  
※壁なし部分共通

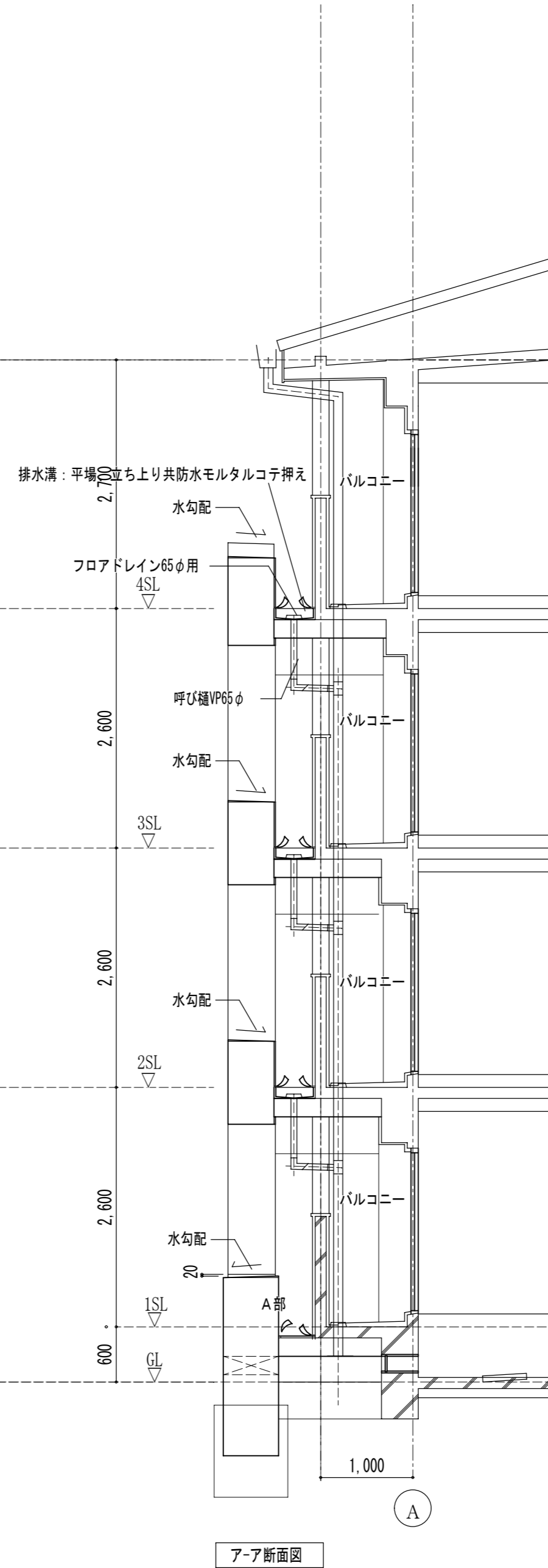


バルコニー前面部詳細  
※壁新設部分共通

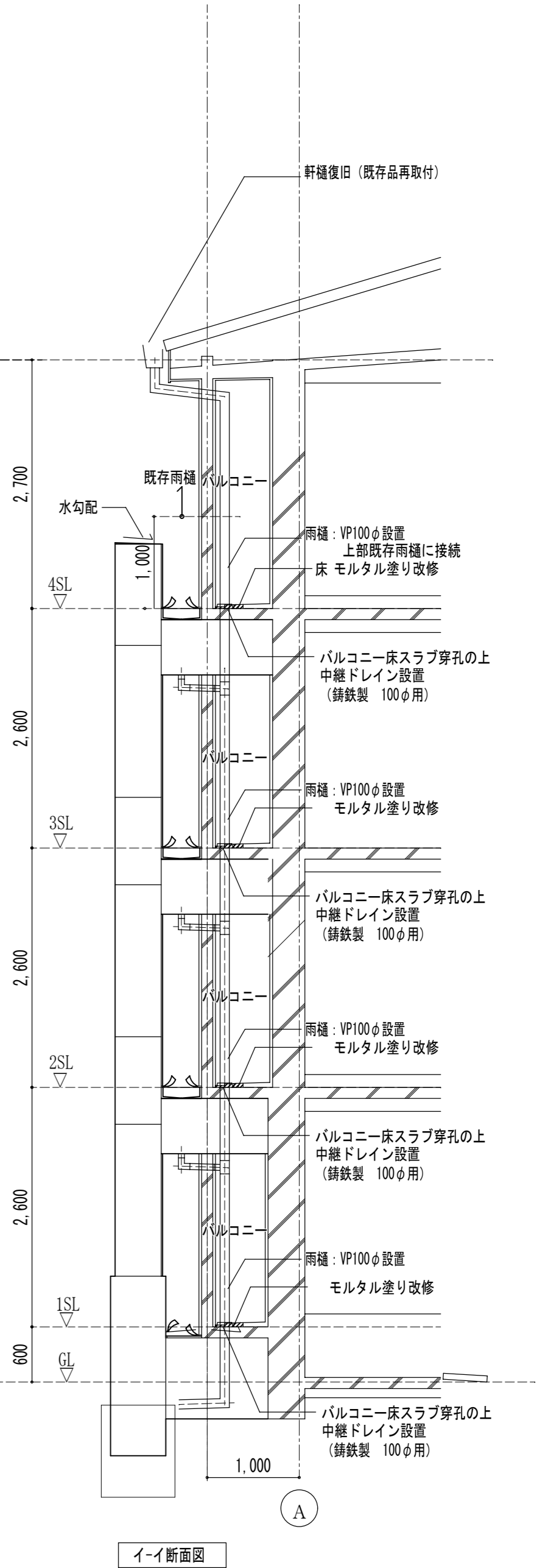


南側改修立面図 (東棟)

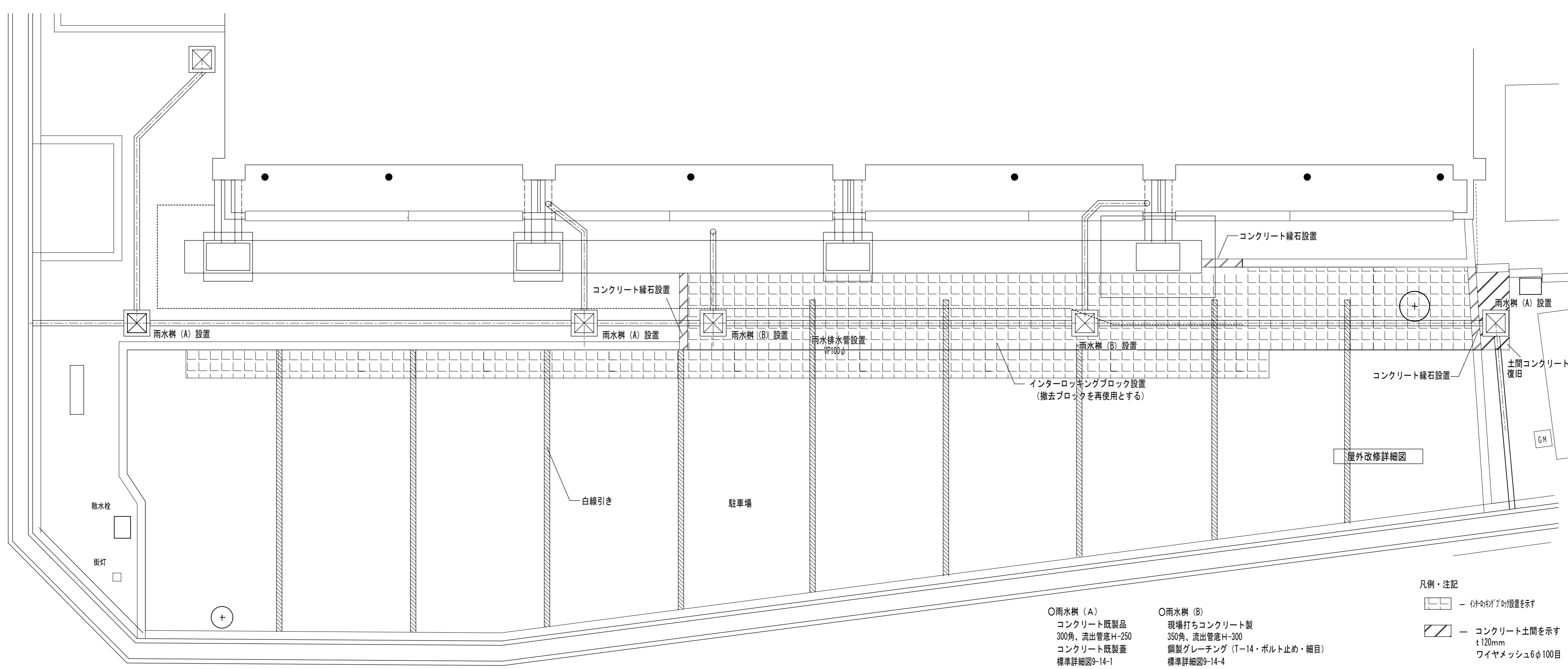
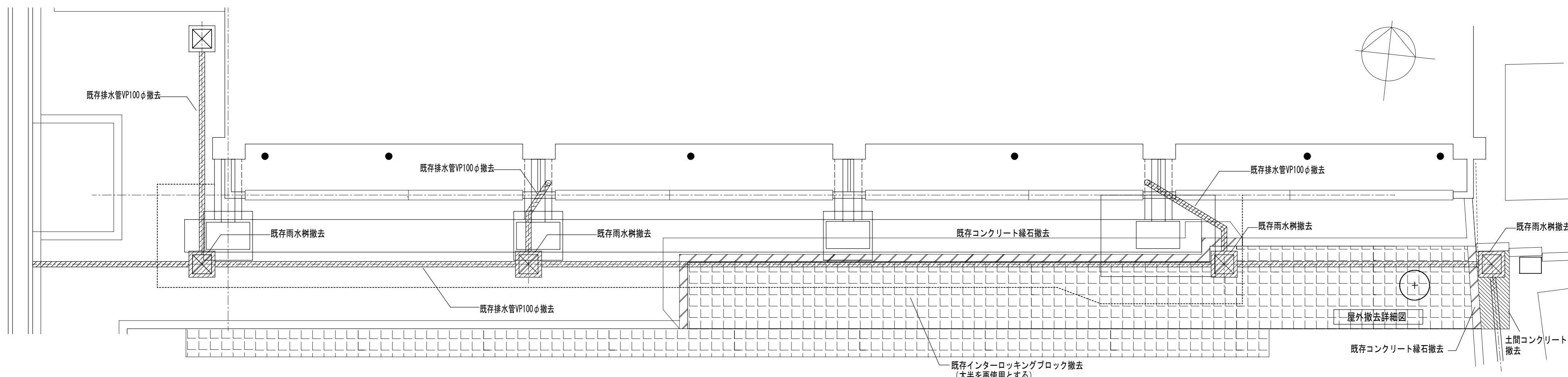
- 耐震フレーム設置を示す
- モルタル塗り改修を示す
- ※ モルタル塗り改修後の仕上げは
- ※ バルコニー既存物干金物 (軒裏タイプ) 取り外し取付あり



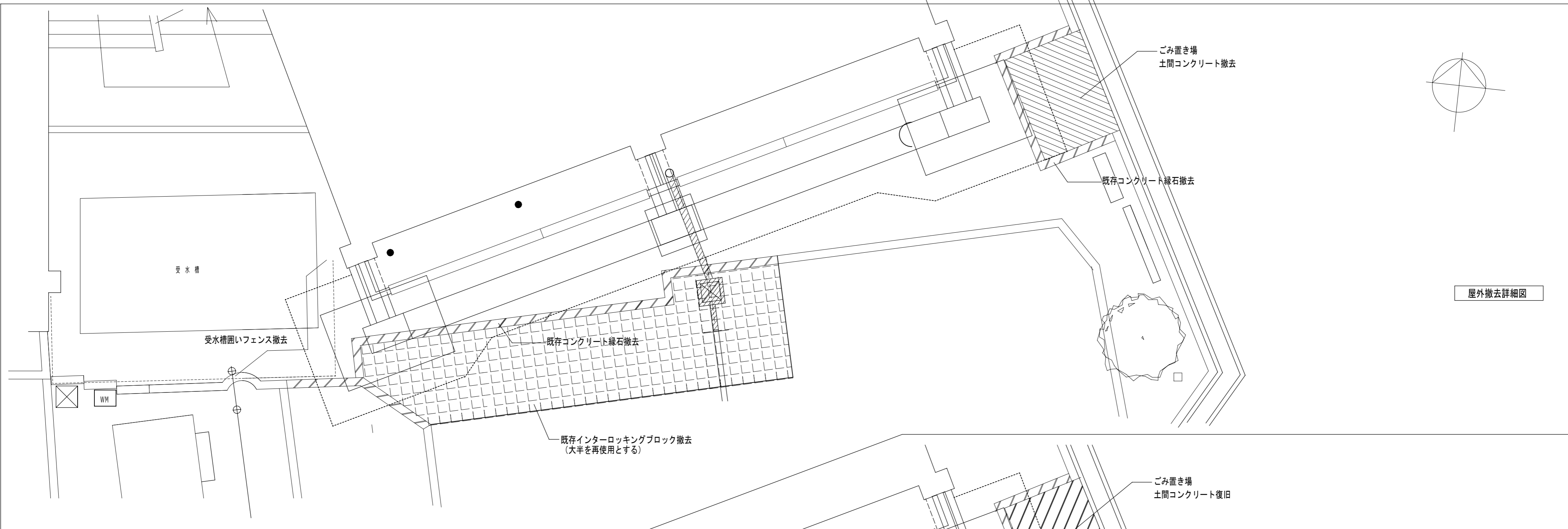
A-A断面図



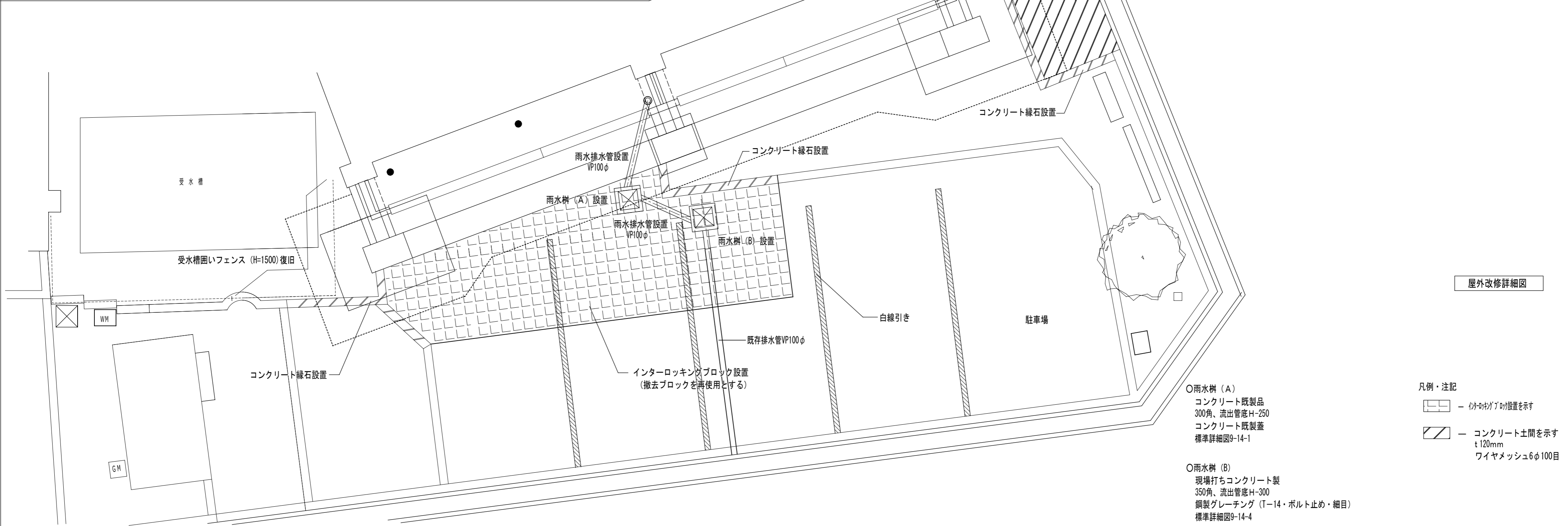
I-I断面図



- 凡例・注記
- 雨水樹 (A)  
コンクリート既製品  
300角、流出管底H-250  
コンクリート既製蓋  
標準詳細図9-14-1
  - 雨水樹 (B)  
現場打ちコンクリート製  
350角、流出管底H-300  
鋼製グレーティング (T-14・ボルト止め・細目)  
標準詳細図9-14-4
  - 1/4寸角の丁設置を示す
    - コンクリート土間を示す t120mm
    - ワイヤメッシュφ6φ100目



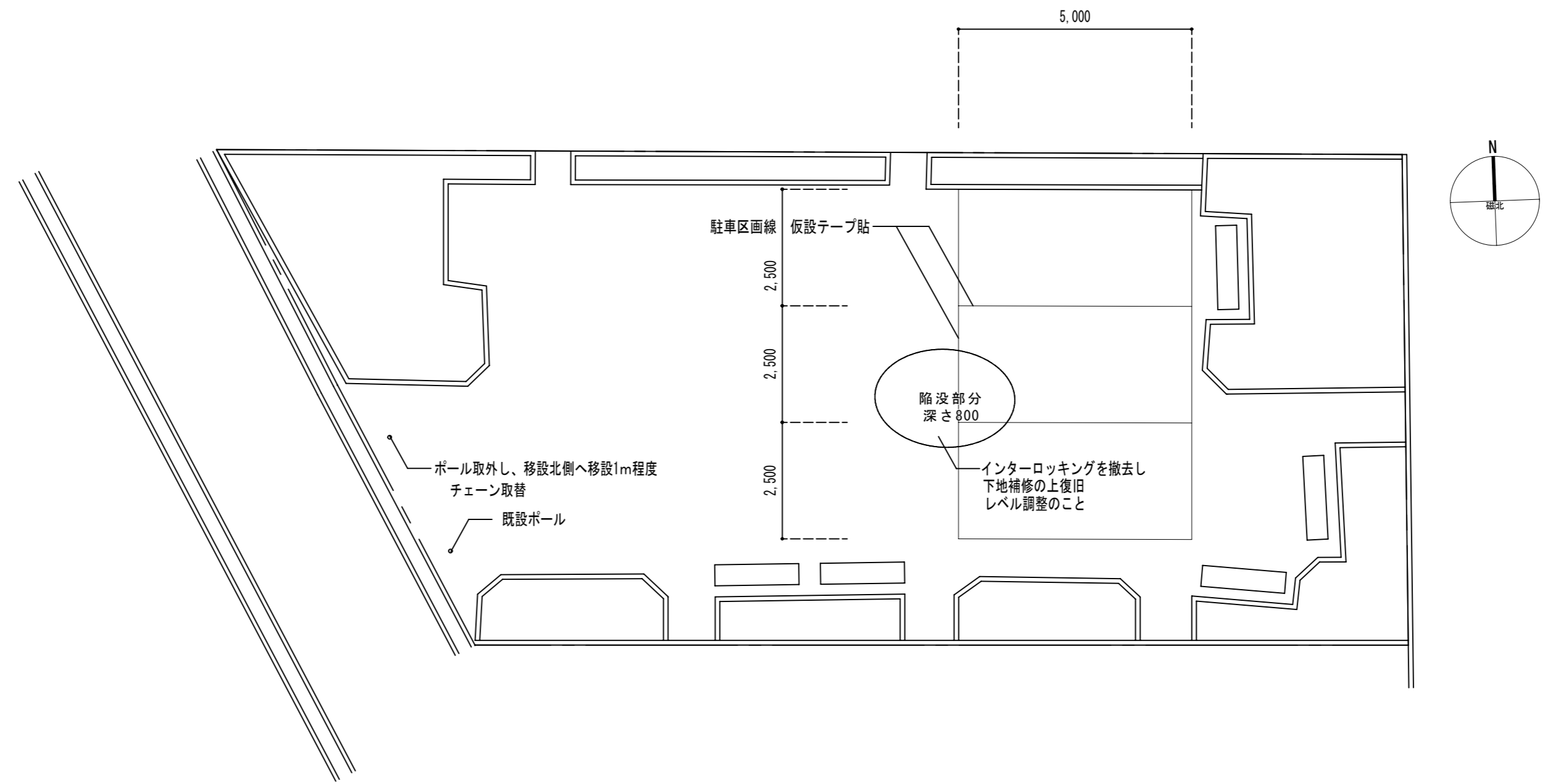
屋外撤去詳細図

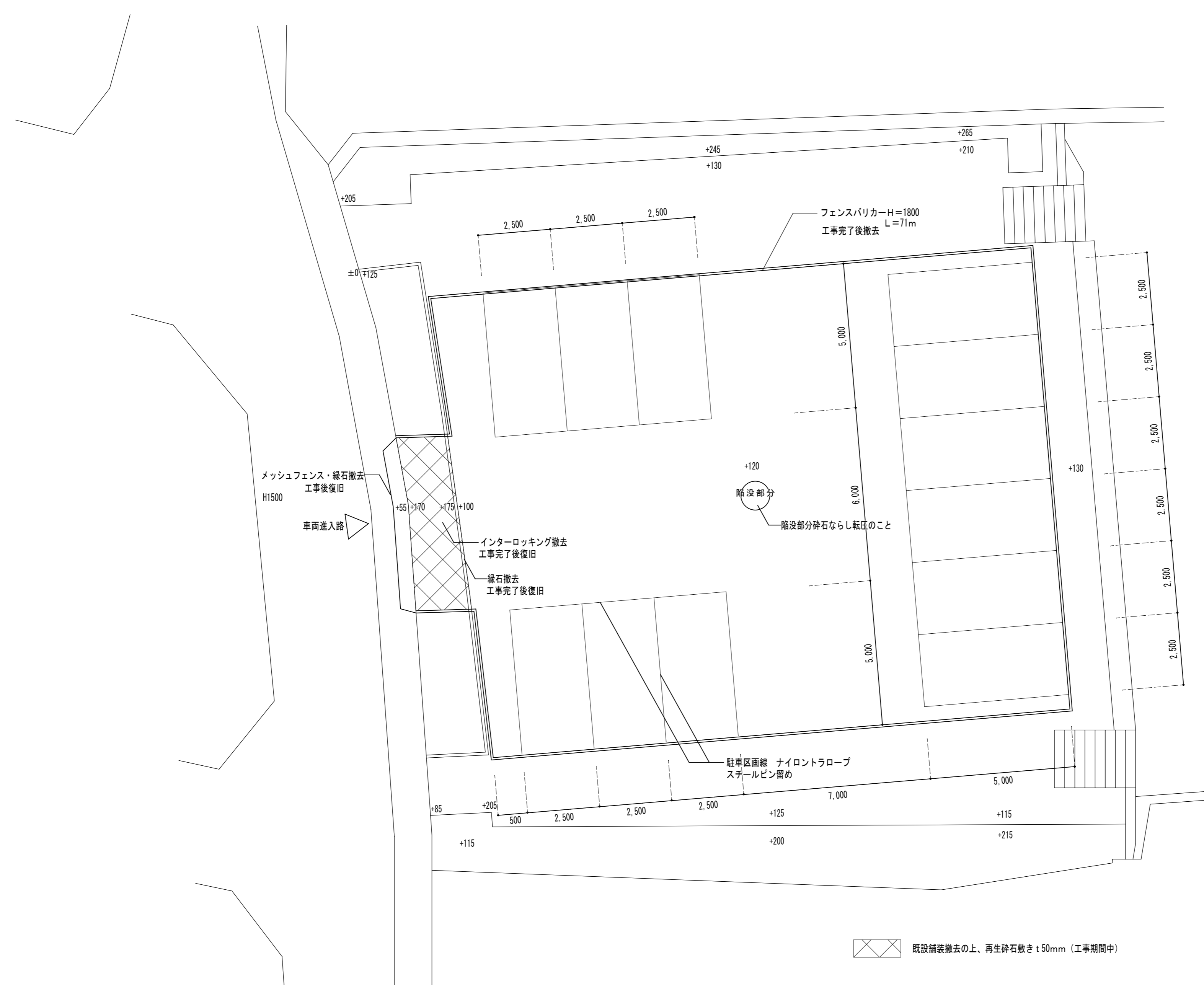
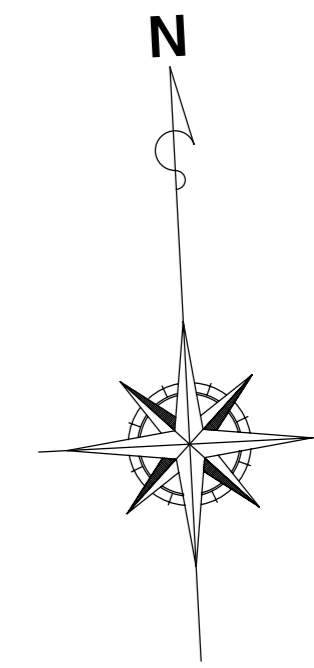


屋外改修詳細図

- 雨水樹 (A)  
 コンクリート既製品  
 300角、流出管底H-250  
 コンクリート既製蓋  
 標準詳細図9-14-1
- 雨水樹 (B)  
 現場打ちコンクリート製  
 350角、流出管底H-300  
 鋼製グレーチング (T-14・ボルト止め・細目)  
 標準詳細図9-14-4

- 凡例・注記
- 雨水樹の設置を示す
  - コンクリート土間を示す  
t 120mm  
ワイヤメッシュφ6φ100目





既設舗装撤去の上、再生砕石敷き t50mm (工事期間中)





鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2013年度版

§1 一般事項

1-1 基本事項

- 1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

2-1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

Table with columns for記号 (Symbol), 呼び径 d (Nominal diameter), and 最外径 D (Outer diameter) for various reinforcement grades like SD295, SD345, etc.

- フックのない場合
○ フックのある場合
○ 本数に差がある場合
○ 機械式継手表示
○ 溶接継手表示

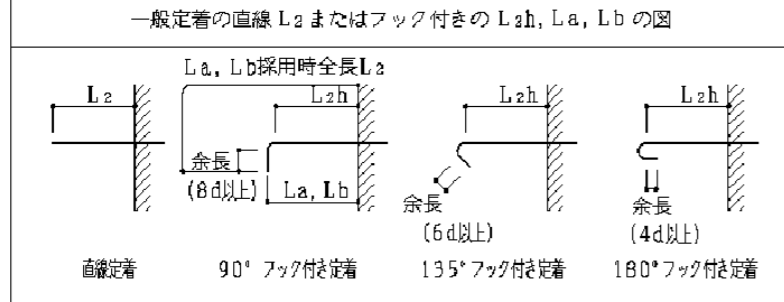
2-2 鉄筋の折り曲げ

Table showing reinforcement bending angles (180, 135, 90 degrees) and their corresponding development lengths (余長) and hook lengths (フック長).

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5 (2009)」(改訂版)

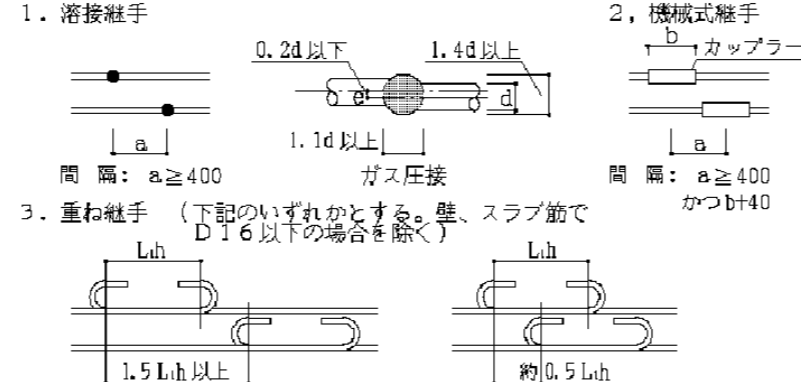
Large table detailing the development length (定着の長さ) and lap length (重ね継手の長さ) for different reinforcement types and concrete strengths (fck).



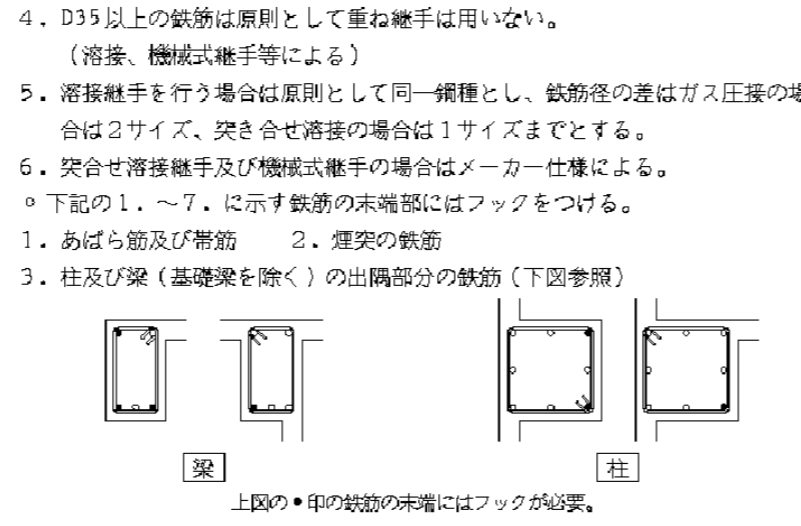
- 1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのLshは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手 一般

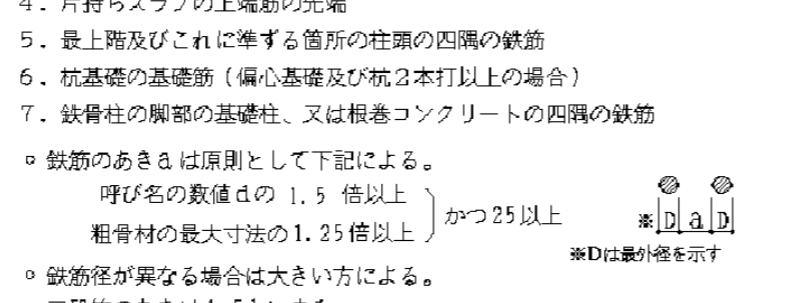
- 3. 構造特記仕様書2-2で取第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表L1かつ40d (軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。
4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2009)、RC標準2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計者の指示による。
1. 溶接継手
2. 機械式継手
3. 重ね継手



2-5 鉄筋のフック



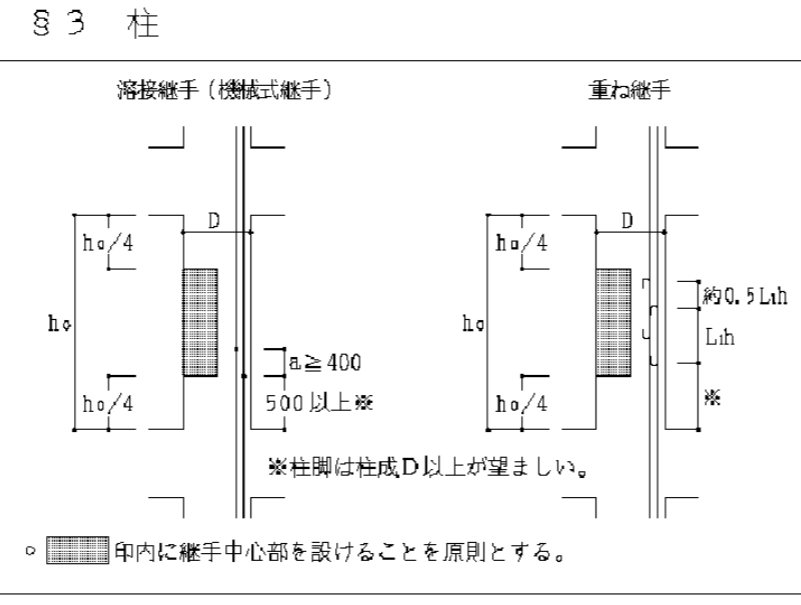
2-6 鉄筋のあき



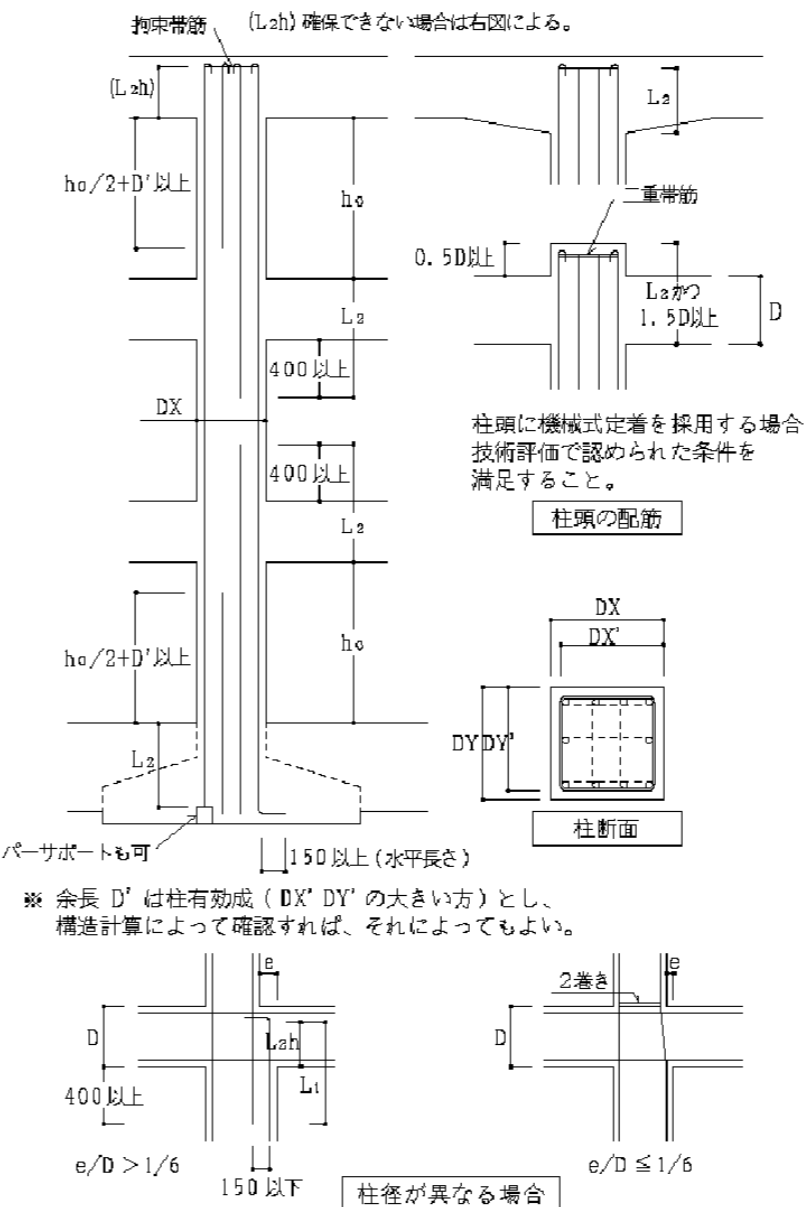
2-7 かぶり厚さ

Table detailing the required concrete cover (かぶり厚さ) for different reinforcement parts and structures, such as roof slabs, exterior walls, and foundations.

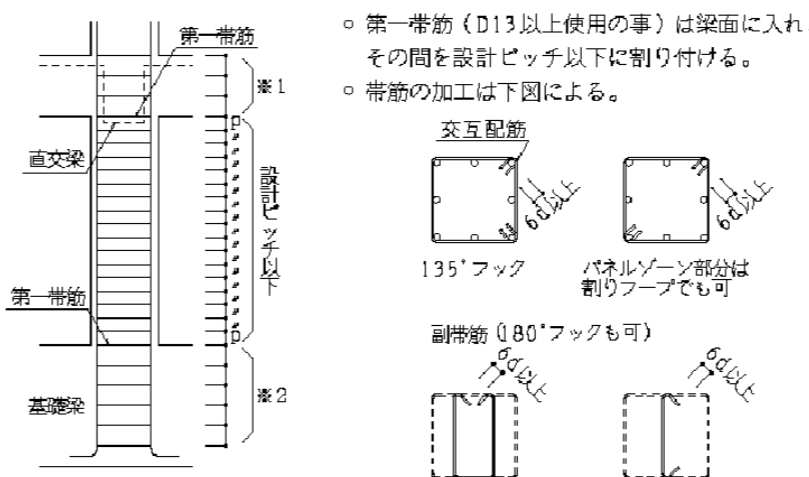
3-1 主筋の継手



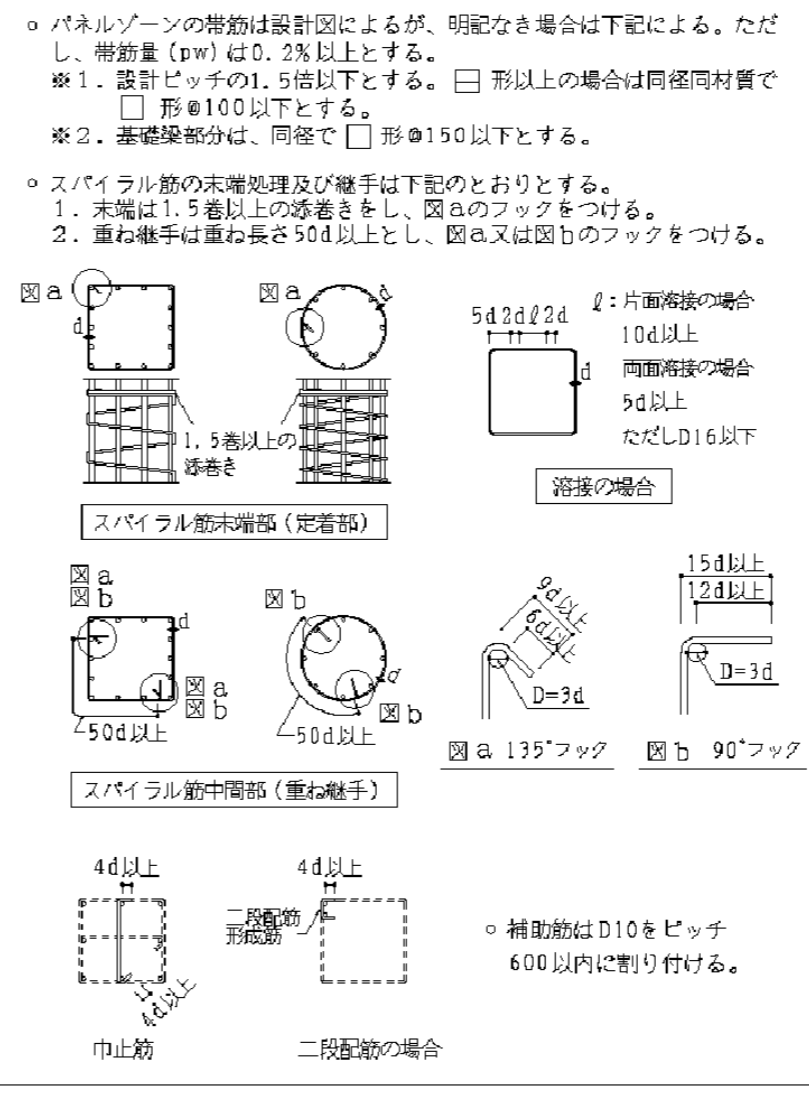
3-2 主筋の定着



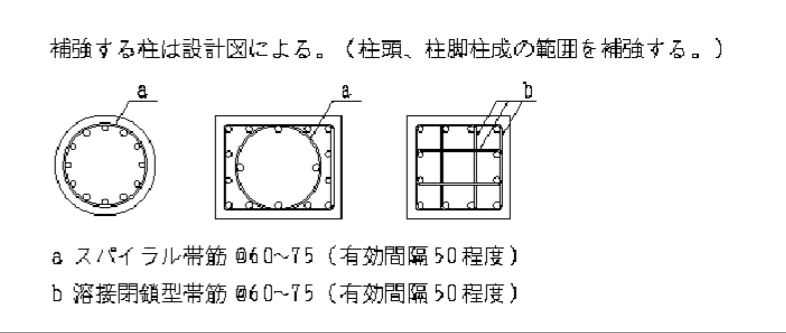
3-3 帯副帯筋



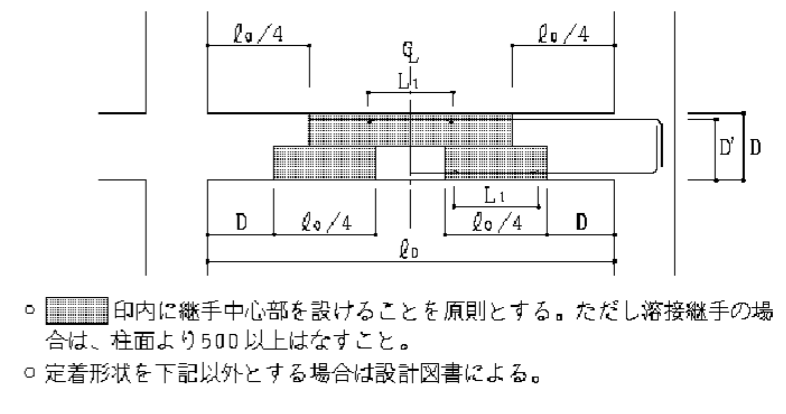
3-4 補助筋



3-5 柱のコンファインド補強



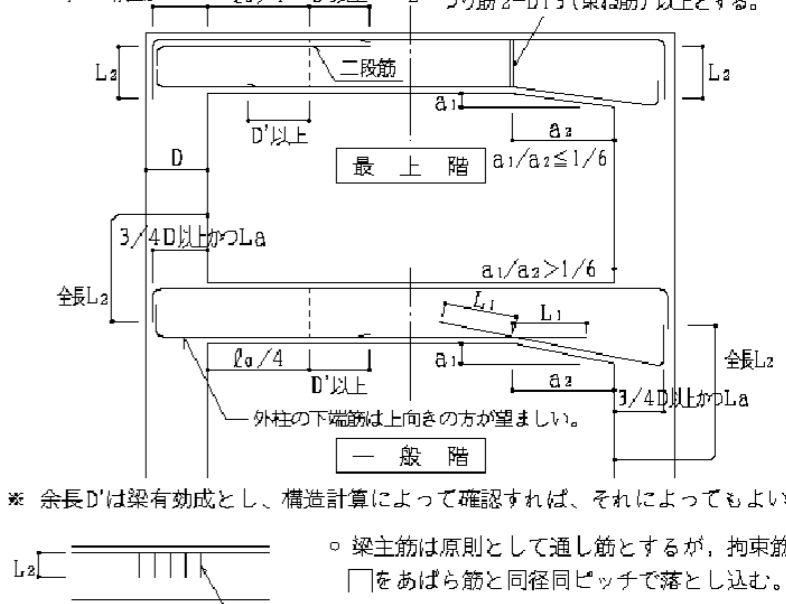
4-1 主筋の継手



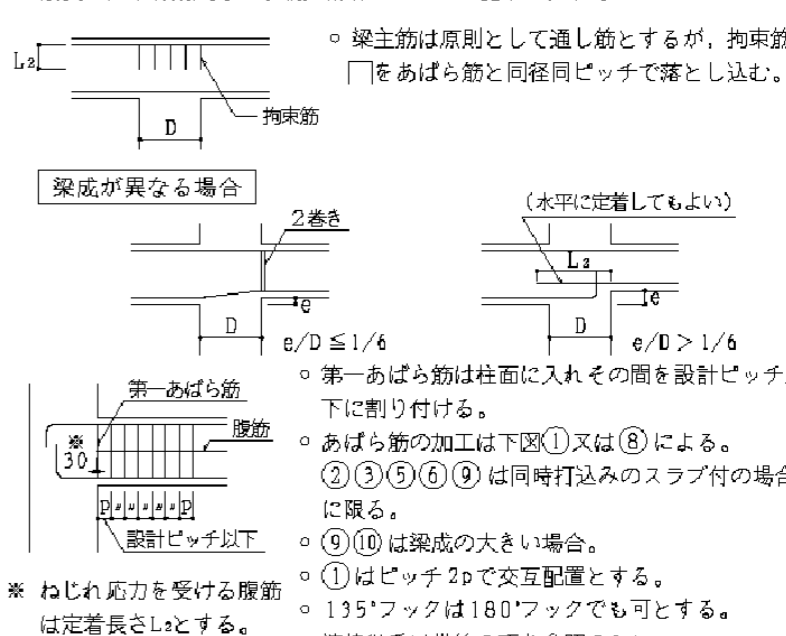
4-2 主筋の定着及び余長

補強する柱は設計図による。(柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。)

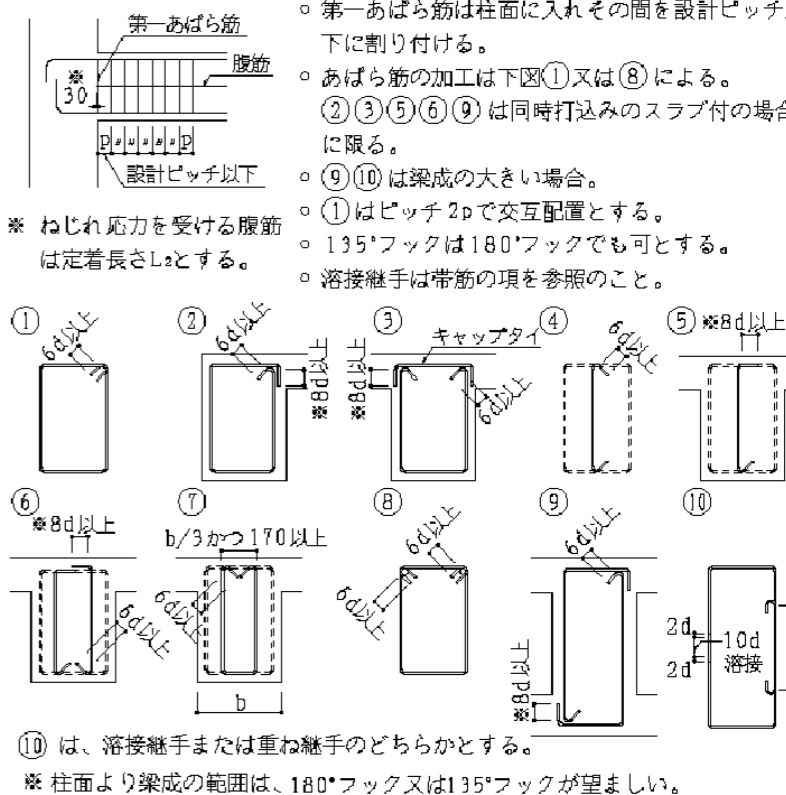
外柱



中柱



4-3 あばら筋副あばら筋



### 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2013年度版

#### §1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

#### §2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	×	○	◎	⊗	⊕	⊖	⊙	⊚	⊛		
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合  
○ フックのある場合  
○ 本数に差がある場合  
○ 機械式継手表示  
○ 溶接継手表示  
(ガス圧接、突き合せ溶接)

2-2 鉄筋の折り曲げ

折り曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋 あばら筋 スライブラ筋	SD295	D16以下	3d以上
135°		スラブ筋 壁筋	SD345	D19~D41	4d以上
90°			SD390	D41以下	5d以上
			SD490	D25以下	5d以上
				D29~D41	6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手の長さ		定着の長さ	
		上端 長さ L <sub>2</sub>	下端 フック付き L <sub>2h</sub>	上端 長さ L <sub>a</sub>	下端 フック付き L <sub>b</sub>
SD295 SD345 (1)はSD345を示す	18	45d(50d)	40d	15d	
	21	35d	30d	20d	
	24~27	40d(45d)	35d		
	30~36	30d	25d	15(20)d	
	39~45	35d(40d)	30d(35d)	20d(25d), 15(20)d	
	48~60	25d	20d	15d	
SD390 (-)は適用外	21	50d(-)	40d(-)	20d	
	24~27	35d(-)	30d(-), 20d(-)	(-)	
	30~36	45d(55d)	40d(45d)		
	39~45	40d(50d)	35d(40d)	15d	
SD490 (-)は適用外	21	45d(55d)	40d(45d)		
	24~27	30d(35d)	25d(30d), 20(25)d		
	30~36	40d(50d)	35d(40d)	15d	

一般定着の直線 L<sub>2</sub> またはフック付きの L<sub>2h</sub>, L<sub>a</sub>, L<sub>b</sub> の図

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折り曲げ起点間の距離、又、フック付きの L<sub>2h</sub> は仕口面から鉄筋の折り曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。  
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般

1. 溶接継手
2. 機械式継手

3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表L<sub>1</sub>かつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。

4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2009)、RC標準2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計者の指示による。参考値として左下表JASS5(2009)にL<sub>1</sub> L<sub>2</sub>を示す。

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

#### §3 柱

3-1 主筋の継手

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

§4 梁

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

4-3 あばら筋副あばら筋

一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL(06)6763-8205 FAX(06)6763-8206 http://www.kse-web.com/

2013年2月1日版 (不許複製)

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

4-3 あばら筋副あばら筋

5 同人第3号 井手町住宅南団地1号棟耐震補強工事

図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋要領図(2)

DATE H25. 7

SCALL -

Check Dr

No. S-03/15

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋副帯筋

3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

4-3 あばら筋副あばら筋

5 同人第3号 井手町住宅南団地1号棟耐震補強工事

図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋要領図(2)

DATE H25. 7

SCALL -

Check Dr

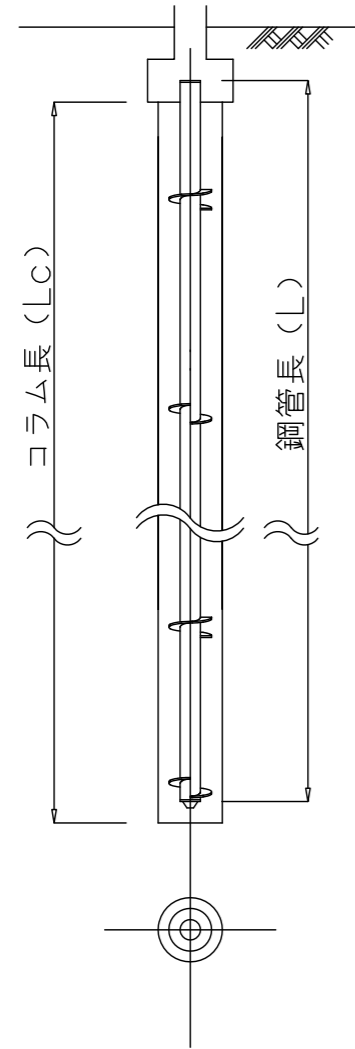
No. S-03/15

ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭回転埋込み工法 - 特記仕様書 -

(ATTコラム工法 ; 認定番号 TACP-0165, 0166, 0167)

1. 工法の概要

ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭は、原位置土とスラリー状のセメントミルクを「土の共回り防止翼付き攪拌混合装置」を用いて機械的に攪拌混合し、その後、築造されたコラム体に杭先端および軸部に複数枚のらせん状羽根を有する鋼管を回転埋設して築造する杭です。



	杭仕様①	杭仕様②
D <sub>o</sub> ; 杭本体径	φ267.4 mm	
D; 羽根径	φ500 mm	
D <sub>c</sub> ; コラム径	φ700 mm	
L; 鋼管長	L = 6.0 m	
	上杭	中下杭
鋼管材質	STK490	
t <sub>s</sub> ; 鋼管厚	12.7 mm	
鋼管長	6.0 m	
本数	10本	

2. 共通事項

- 杭径(杭本体径、羽根径、コラム径)、杭長(鋼管長、コラム長)、板厚、耐力及び本数は、設計図( )による。
- 本杭の施工に先立ち、試験杭の施工を行う。

3. 施工計画

- 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。

2) 施工計画書

本杭の施工に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。なお、施工計画書には、次の事項を明記する。

- 杭施工業者及び杭施工責任者
- 施工機械、設備の種類
- 工事期間及び工程
- 工事要領(固化材の種類、配合条件、オーガーの昇降速度、吐出量等)
- 各種作業に従事する主たる人員の組織表
- 施工記録の方法
- 安全対策

4. 施工

- 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- 基本的な施工手順を以下に示す。施工に障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
  - コラムを築造する。
  - 攪拌混合装置を回転軸より取外し、鋼管埋設用回転キャップを取付ける。
  - らせん状羽根を有する鋼管を建込み、コラムの中心にセットする。
  - コラムの鉛直性を確認したら、回転軸を正回転させて、らせん状羽根を有する鋼管を埋設する。
  - 所定の深さまで埋設したら、鋼管埋設用回転キャップを取外して杭の造成を完了する。
- 本工事により排出される発生土は、場内処理とする。
- 施工に対して疑義が生じた場合は、監督員と協議し、監督員の指示を受ける。

5. 施工機械

- 攪拌混合装置は、土の共回り防止翼を装着したものをを用いる。
- 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いる。
- 施工機本体は、本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- プラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

6. 配合

- 固化材はセメント系固化材とする。
- W/C = 80 ~ 100%、固化材添加量  $\alpha = 250 \sim 300 \text{ kg/m}^3$  とする。

7. 杭材料

杭本体部の材料は、JIS G 3444一般構造用炭素鋼管のSTK400及び490とする。  
杭先端部および中間部の羽根の材料は、JIS G 3101一般構造用圧延鋼材SS400及びJIS G 3106溶接構造用圧延鋼材SM490Aとする。

8. 施工管理

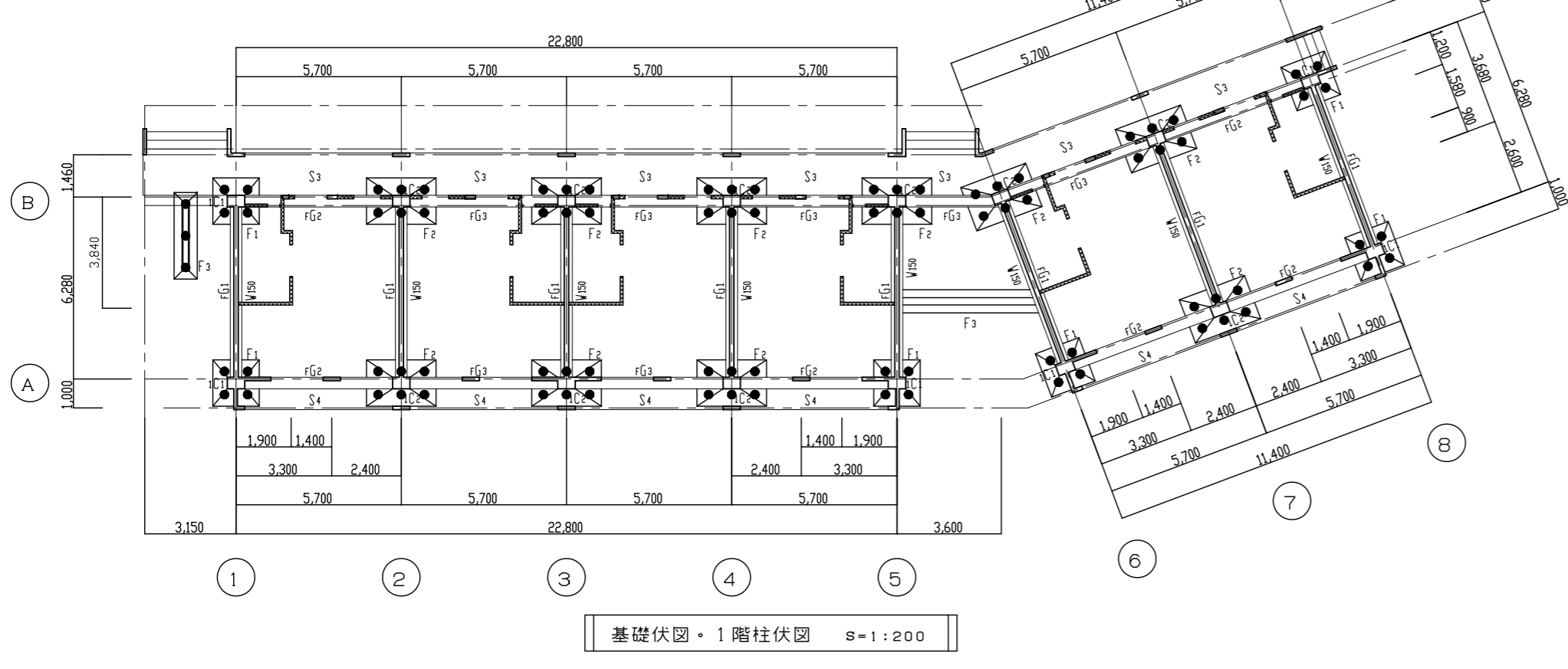
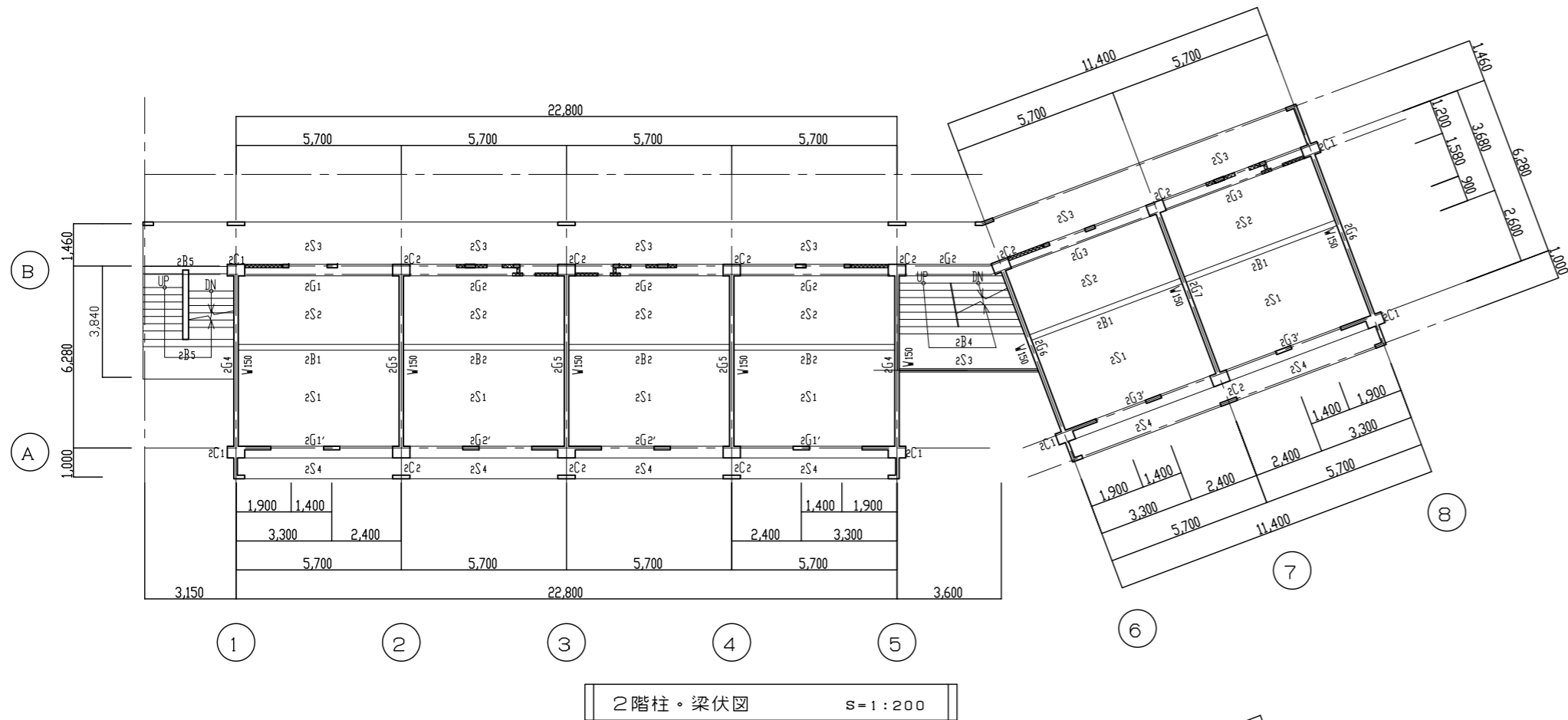
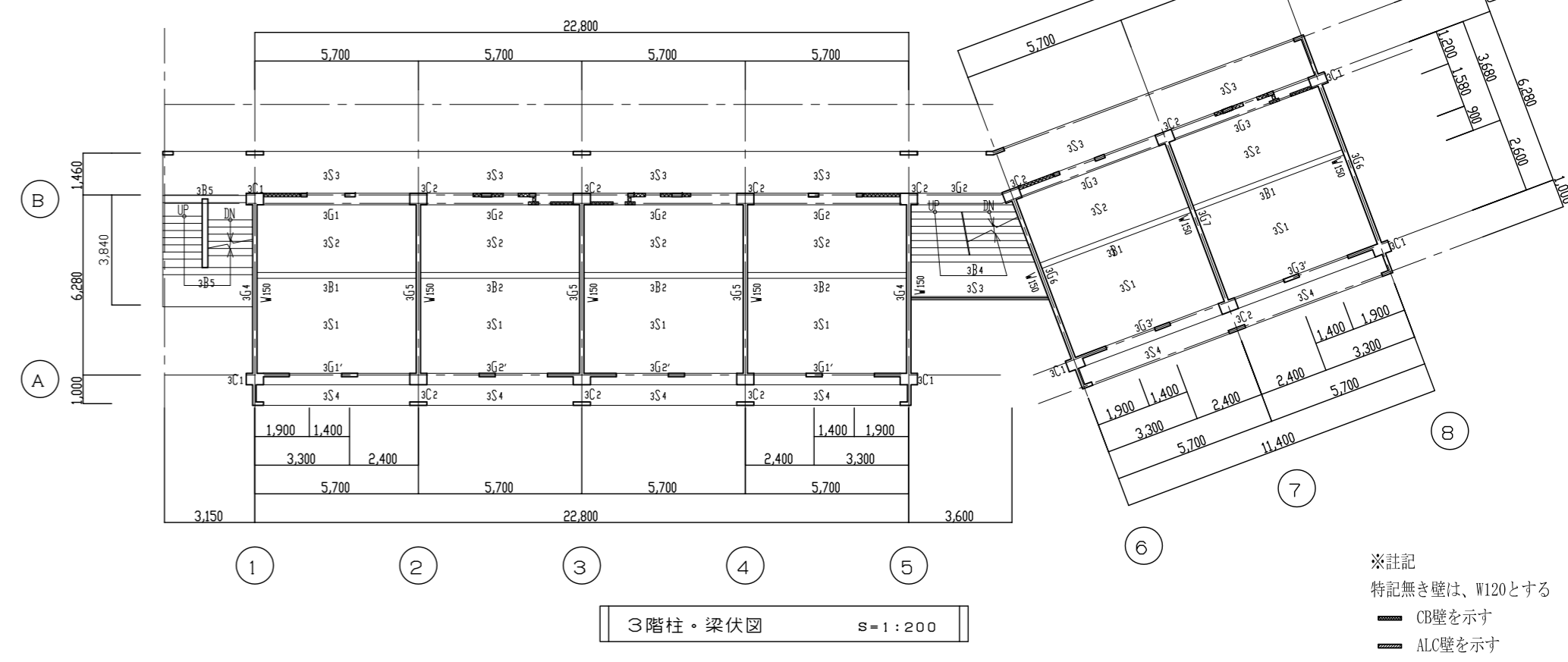
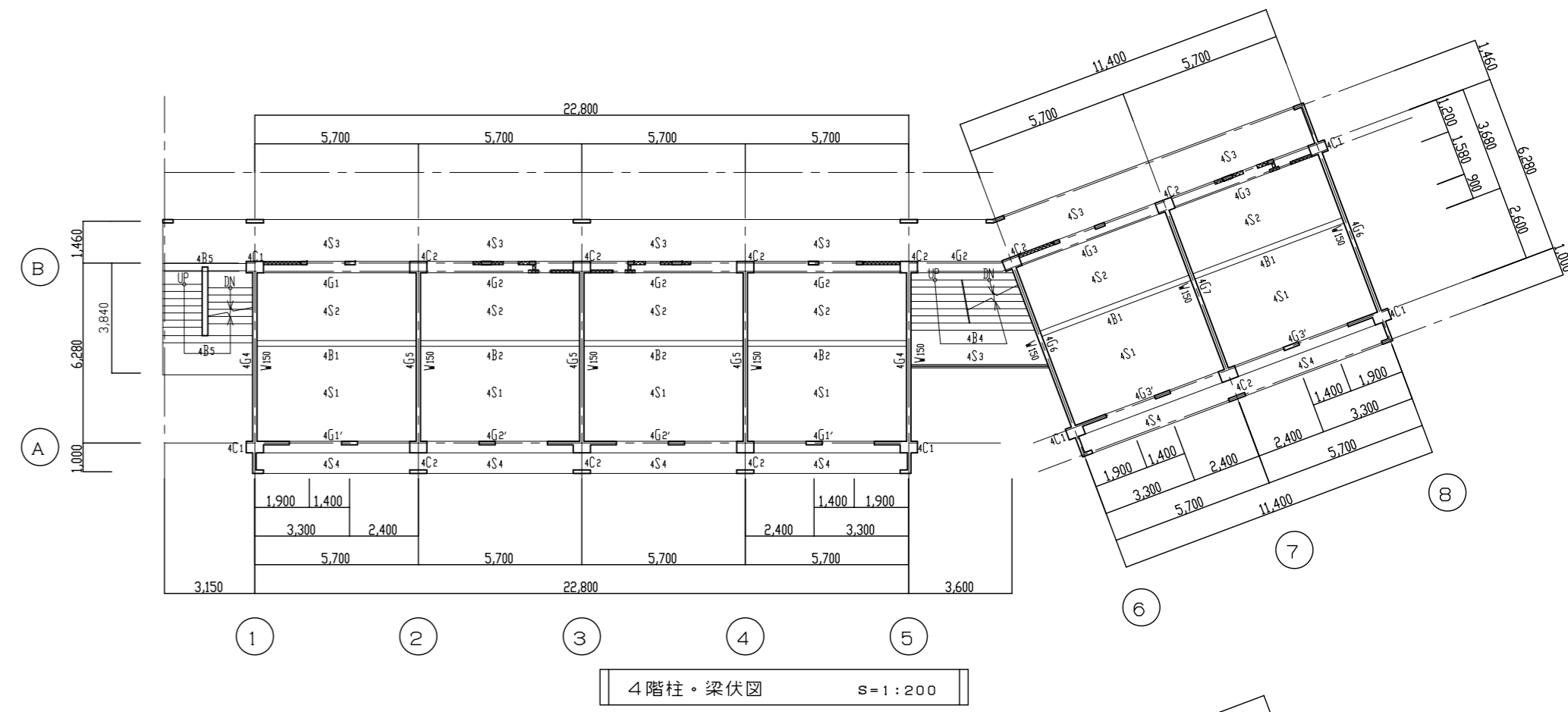
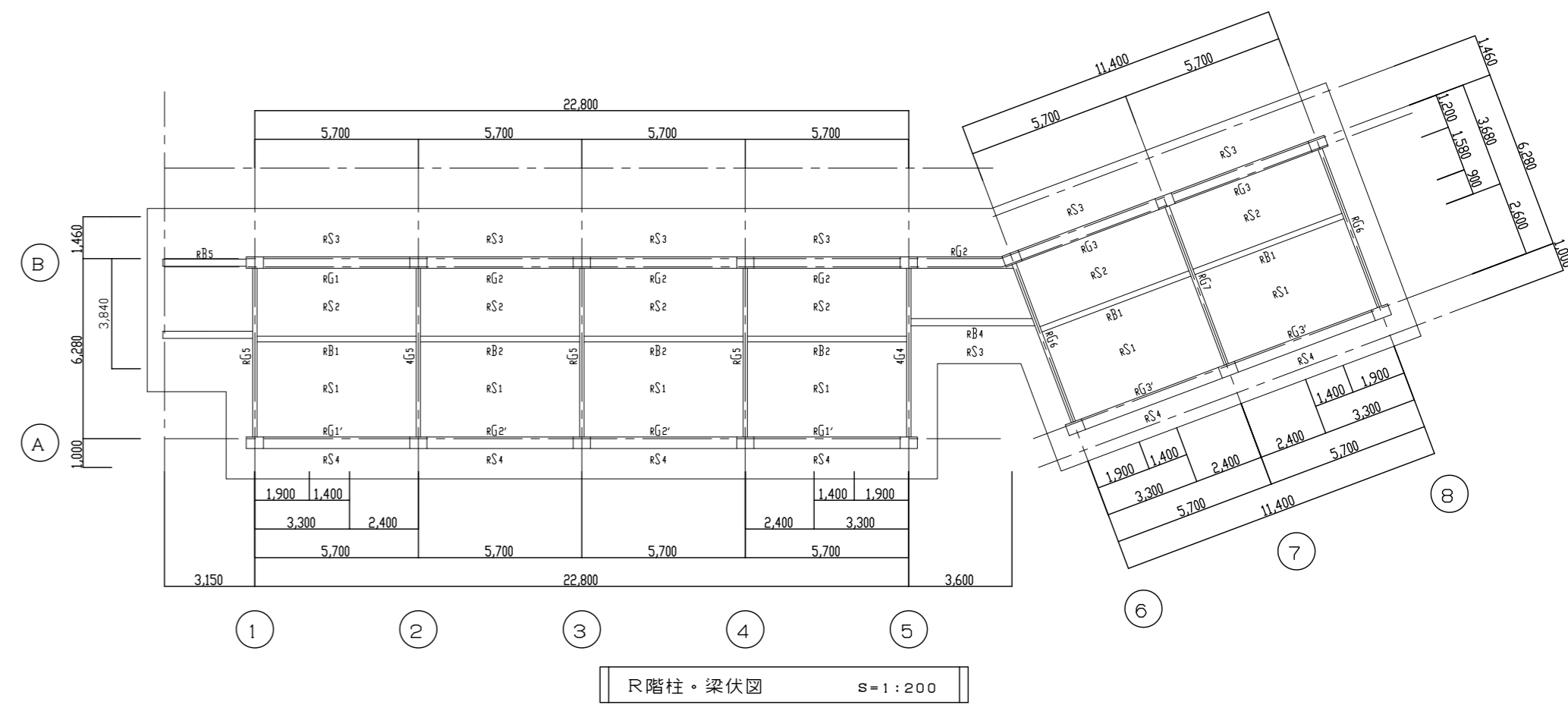
- 施工の安定性を確保するため、下記に示す項目について施工管理する。
  - 形状・寸法 :
    - 【鉛直性】 施工機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
    - 【杭芯】 事前に杭芯にマークを設ける。
    - 【掘削深度】 深度計で計測し記録する。
    - 【コラム径】 攪拌混合装置の形状・寸法を計測する。
  - 固化材 :
    - 【材料計量】 水、固化材の重量を計測する。
    - 【セメントミルク比重】 比重計等による。
    - 【吐出量】 流量計で計測し記録する。
  - ソイルセメント :
    - 【圧縮強度】 1箇所/100セット(3本/1箇所, 28日材齢)で強度試験を行う。

9. 報告

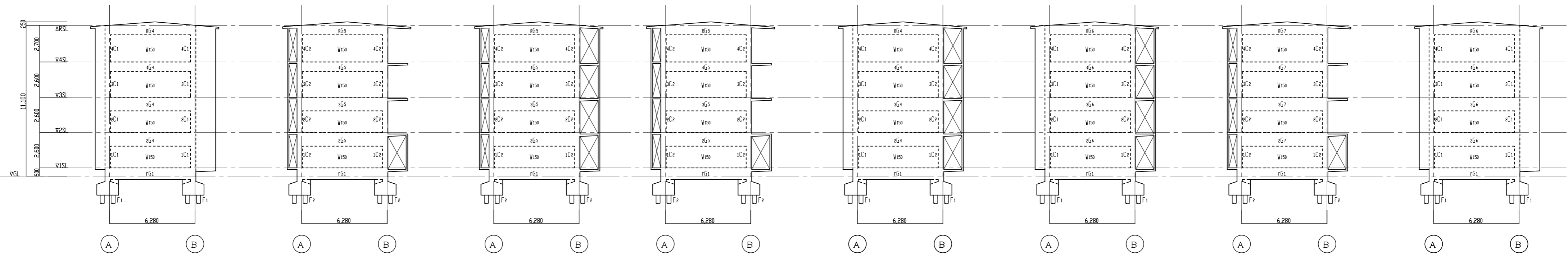
工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- 杭番号
- 施工年月日
- 杭径(杭本体径、羽根径、コラム径)、杭長(鋼管長、コラム長)
- 施工記録(攪拌混合装置の昇降速度、深度、セメントミルクの吐出量)
- セメントミルクの配合と固化材の使用量

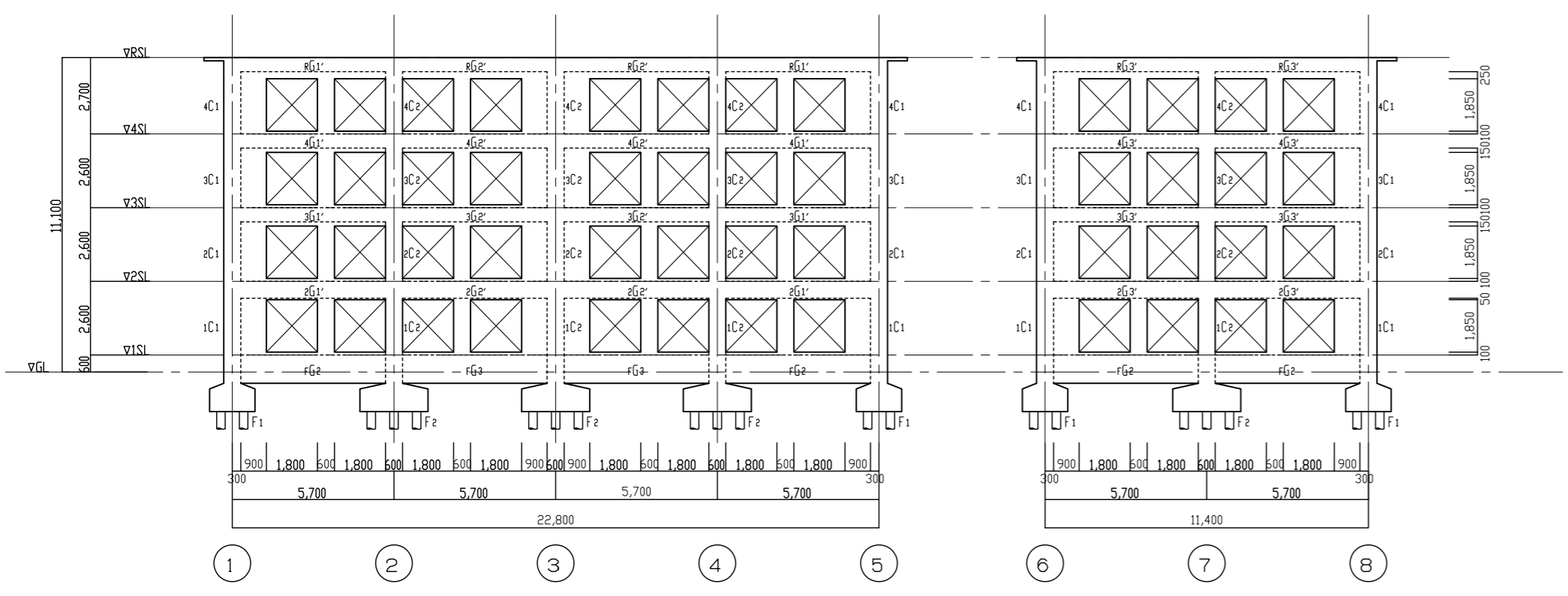




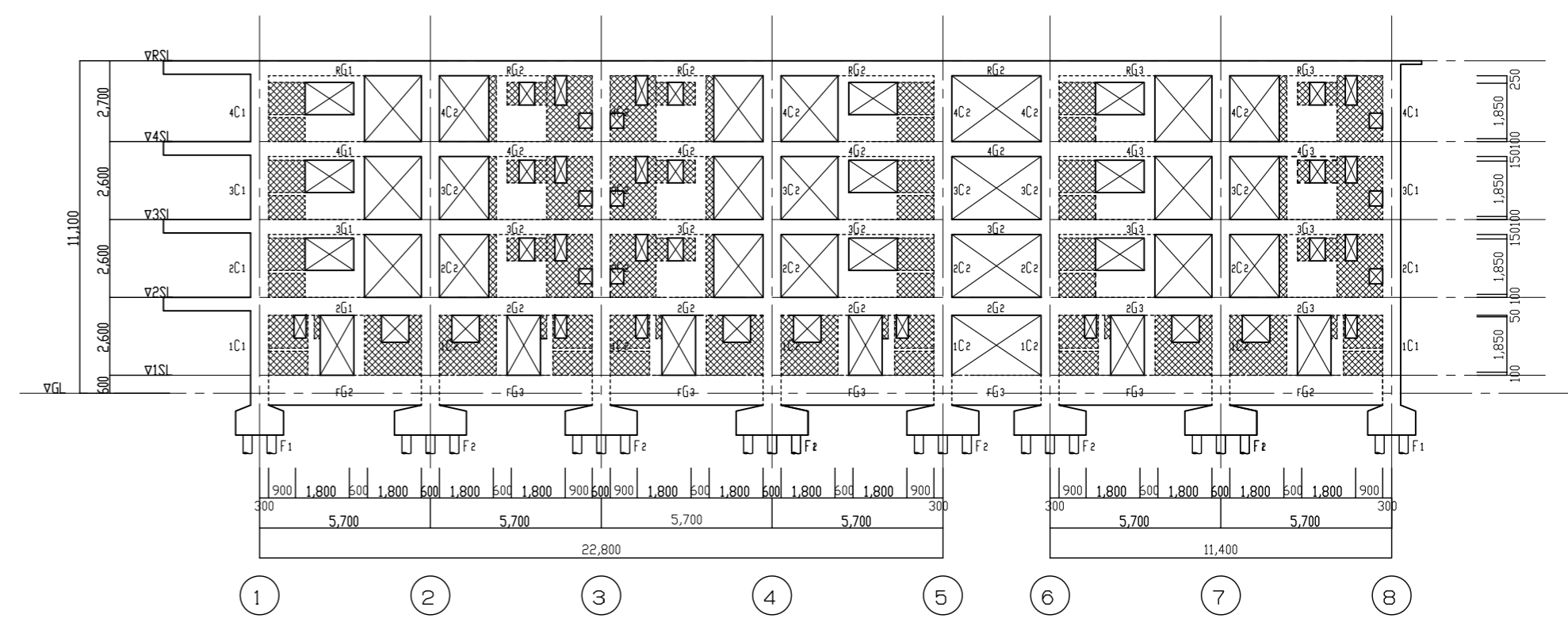
※註記  
 特記無き壁は、W120とする  
 — CB壁を示す  
 — ALC壁を示す



1通軸組図 s=1:200    2通軸組図 s=1:200    3通軸組図 s=1:200    4通軸組図 s=1:200    5通軸組図 s=1:200    6通軸組図 s=1:200    7通軸組図 s=1:200    8通軸組図 s=1:200



A通軸組図 s=1:200



B通軸組図 s=1:200

※註記  
特記無き壁は、W120とする  
CB壁を示す

# PCa外フレーム工事 特記仕様書

## 1. 一般事項

1) 適用の範囲  
本仕様は、プレキャスト部材(以下PCa部材)、PC鋼材の緊張工事及びそれらに付随する部分について適用する。本仕様書、並びに設計図書に指示されていない事項は、建築基準法、日本建築学会「建築工事標準仕様書鉄筋コンクリート工事(JASS5)」、「プレキャスト鉄筋コンクリート工事(JASS10)」、「プレストレストコンクリート設計施工規準」、日本建築防災協会「耐震改修設計指針同解説」、プレストレスト・コンクリート建設業協会「PCグラウトマニュアル建築編」による。また、これらに指示されていない事項は、監理者の指示による。

2) PC施工方式  
プレキャストプレストレストコンクリート製品(以下PCa柱・PCa梁)は、工場製作鉄筋コンクリート造とする。また、製品の運搬・架設後、現場施工ポストテンション方式のプレストレス導入力等により架構を完成する。

3) 施工業者  
PCa部材(製品)の製作～現場取り付け(架設・緊張)の一連の工事は、下記の専門業者の内いずれか一社による責任施工とする。  
オリエンタル白石(株)  
(株)建研  
(株)ピーエス三菱  
上記以外の施工会社を選定する際は、当該工事と同様な補強工法の技術評価あるいは性能証明を保有し、かつ同補強工法の10件以上の施工実績を有することを選定条件とする。

## 2. 材料

1) セメント  
JIS R 5210によるポルトランドセメントを原則とする。

2) 混和剤  
コンクリート中に混和剤を用いる場合は、その品質、使用量等について監理者の承認を得ること。

3) 鉄筋  
異形鉄筋はJIS G 3112の規格に適合するものを使用し、下記による。  
鉄筋径 | 鋼材種別  
D10~D16 | SD295A  
D19~D25 | SD345  
D29以上 | SD390  
※あと施工アンカーは、D16以上をSD345とする。

4) PC鋼材  
PC鋼材は有害な傷のないもので、下記による事原則とする。  
PC鋼材 | 適用  
PC鋼より線 | JIS G 3536  
PC鋼棒 | JIS G 3109  
高強度せん断補強筋 | JIS G 3137(相当品)

5) コンクリート及び目地モルタル  
コンクリートの品質は下表を標準とする。  
使用場所 | 設計基準強度 | 導入時圧縮強度 | 単位  
PCa柱 PCa梁 | 50.0 | 36.0 | N/mm<sup>2</sup>  
目地モルタル | 50.0 | 20.0 |  
場所打ち部 | 24.0 | 20.0 |

PCa部コンクリートの調査は試し練りにより決定することを原則とする。但し、監理者の承認がある場合は、製造工場の実績によることができる。

無収縮モルタルの施工  
a) PCa部材相互の目地には無収縮モルタルを隙間なく充填すること。  
b) 注入作業は、充填性と漏れの確認をするため、位置毎に予め注入量を求めておき、注入される量との確認をすること。

## 3. 型枠工事

a) PCa部材の型枠は、木製及び鋼製型枠とする。尚、振動打ちを行うので、これに耐えるよう十分に留意すること。

b) 型枠セパレータ等の配置については、PC鋼材に当たらないように注意すること。

## 4. 鉄筋工事

a) 鉄筋は正確な配置をし、コンクリート打設時に崩れないよう強固に組み立てなければならない。  
b) 柱帯筋のフラッシュ溶接箇所等、所定のかぶりを確保できない場合は、溶接部分に防錆処理を行うものとする。

## 5. PC鋼材の配置

a) PC鋼材の配置は正確強固に行い、コンクリート打設時に移動しないこと。また、シースの配置の許容誤差はJASS5による。

b) PC鋼材の加工・組立を行う場合は、加熱または溶接を行わないこと。

## 6. コンクリート

a) コンクリート打設にあたっては、次のことに注意すること。  
① PC鋼材、鉄筋、型枠が移動、損傷しないように注意すること。  
② PC鋼材にはパイプレーターが直接触れないように細心の注意を払わなければならない。

## 7. 検査

a) 材令28日の圧縮強度が試験の結果、所定の強度に達していない部材については不合格とする。  
b) PCa部材の検査は、型枠寸法及び外観について行い、検査の結果、製品の不良箇所では修正可能と認められたときは必要な補修を行い、再検査を受けることができる。修正不可能なときは、取り替えを命ずることができる。  
c) 寸法の許容誤差は、長さ±10mm、断面寸法+5mm、-3mmとする。

## 8. 運搬・搬入

PCa部材の運搬は、部材に有害な荷重が作用しないよう注意し、安全に行わなければならない。

## 9. 施工計画

工事着手前に運搬・ストック等の順序及び、部材取付モルタル充填・緊張作業に用いる仮設足場などの方法と工程等について現地調査の上、施工計画書を作成し、監理者の承認を得ること。

## 10. 事前準備(既設)

a) 外フレームと既設建物を介する場所打ちコンクリート等と取り合う既設建物表面は、仕上げ(モルタル共)を撤去し目荒らし処理をすること。  
b) 外フレームが配置される空間に位置する雨樋・換気口等の障害物は、配置以前に撤去・移設を行うこと。

## 11. PC鋼材の保護

柱頭PC鋼棒の屋外側の定着端は、防錆・耐久性から垂鉛メッキ塗料を塗布後、モルタル又はコンクリート等にて保護しなければならない。

## 12. 緊張工事

a) 施工計画書の中で、各PCa部材の緊張計算を行い、管理方法等については監理者の承認を受けることとする。  
b) 緊張機器は、事前にキャリブレーションを行うこと。  
c) プレストレス導入の時期は、コンクリートの圧縮強度が導入時圧縮強度以上に達したことを確認した後に行うものとする。

d) 緊張力の管理は、ポンプの圧力計の示度(ロードセル等)を測定しながら行い、PCa部材に所定の緊張力が導入されるようにする。

e) 施工緊張力を下表に示す。

使用場所	使用鋼材	施工緊張力
PCa梁	3-SWPR7BL φ15.2	546.0 kN/c
PCa柱	SBPR1080/1230 φ23	357.0 kN/c

## 13. グラウチング

グラウト用混和剤	ノンフリージング型 (混和剤タイプ、プレミックスタイプ)
4週圧縮強度	30 N/mm <sup>2</sup> 以上

b) グラウトの配合・使用セメントは、使用するグラウト用混和剤の仕様による。

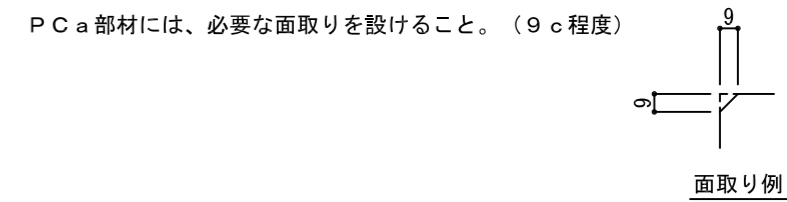
c) グラウトの練り混ぜは、電動ミキサーを用い、その時間及び材料の投入順序は、使用するグラウト用混和剤の仕様に準ずるものとする。

d) シース内の閉塞の有無を確認する。

e) グラウトの注入は、グラウチングポンプを用い、シース内に空隙を残さないように入念に作業を行うこと。

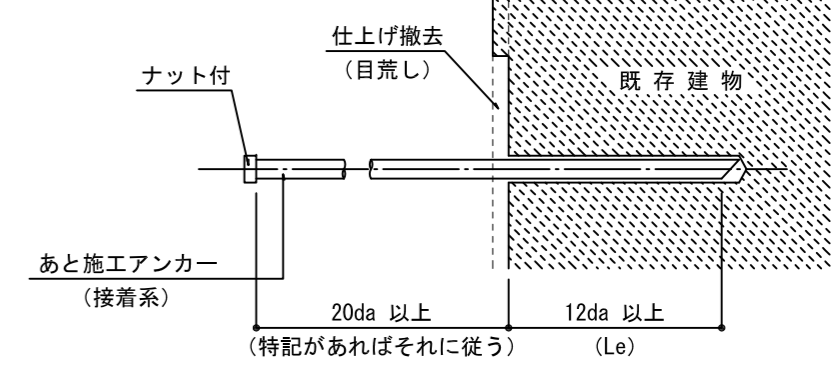
f) グラウトは、シース内をゆるやかな流速で流れるよう一定の圧力で継続して注入し、流出口のグラウト濃度が同一であることを確認後、流出口を閉じ注入作業を終ること。

## 14. 面取り加工



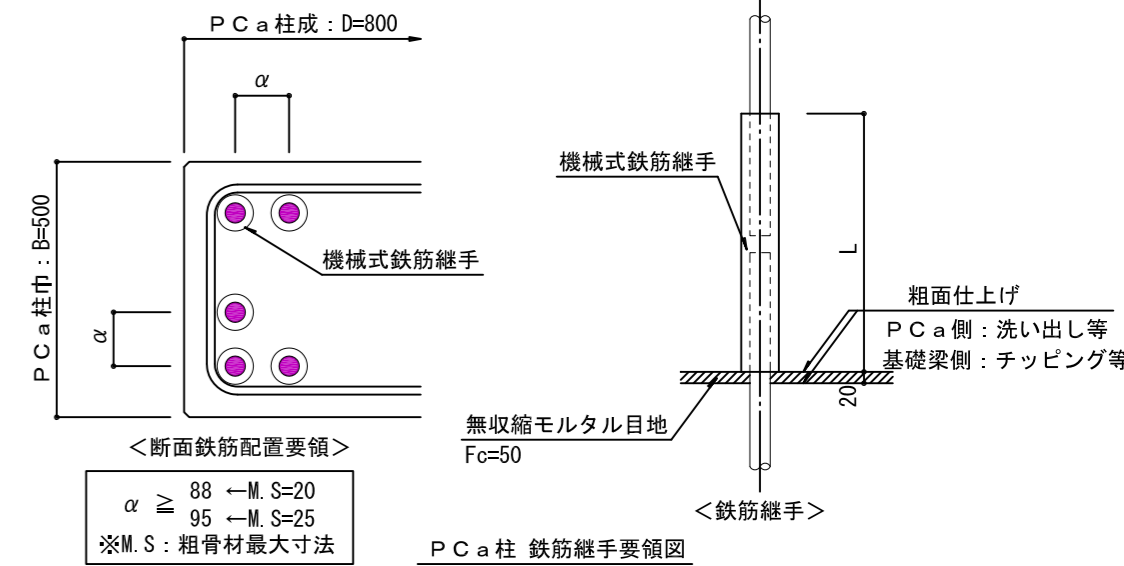
## 15. あと施工アンカー

特記無き限り本工事に使用するあと施工アンカー仕様は以下とする。  
a) 仕様書に記載無き事項は、「外側耐震改修マニュアル(日本建築防災協会)」による。  
b) あと施工アンカーは「接着系あと施工アンカー」とする。  
c) あと施工アンカーの有効埋め込み長さ(Le)は、12da以上とする。但し、D19以下のせん断アンカーは、10da以上とする。  
d) あと施工アンカーを取り付ける既存躯体表面は、仕上げ撤去および十分な目荒し処理を施す。



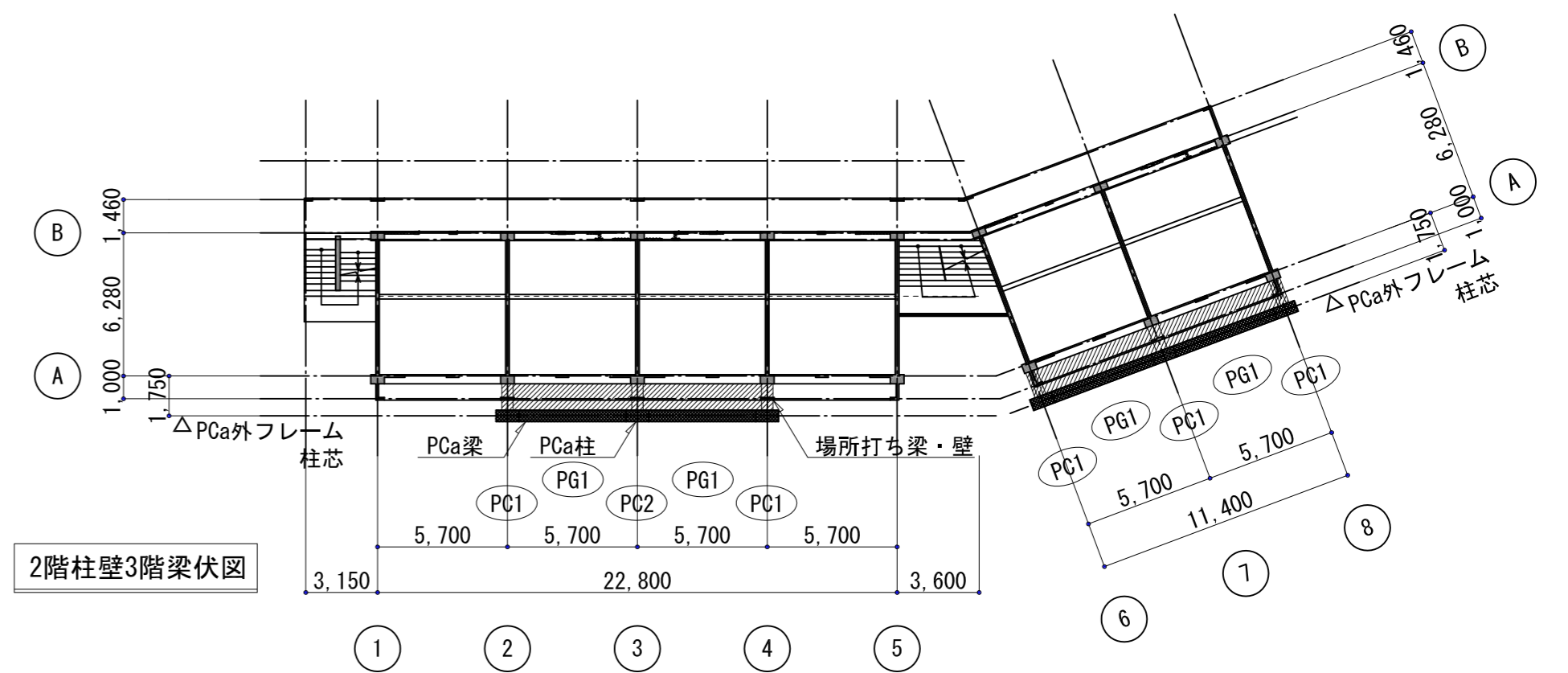
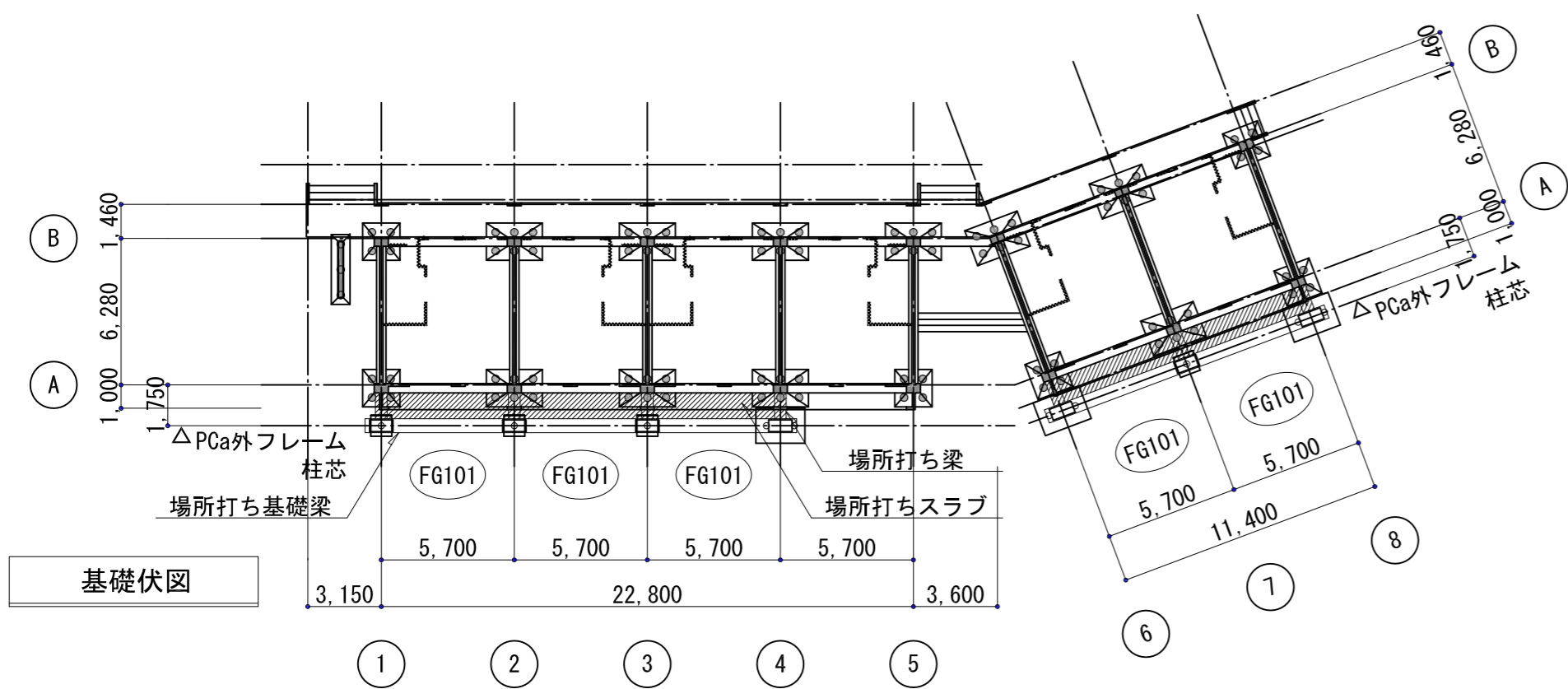
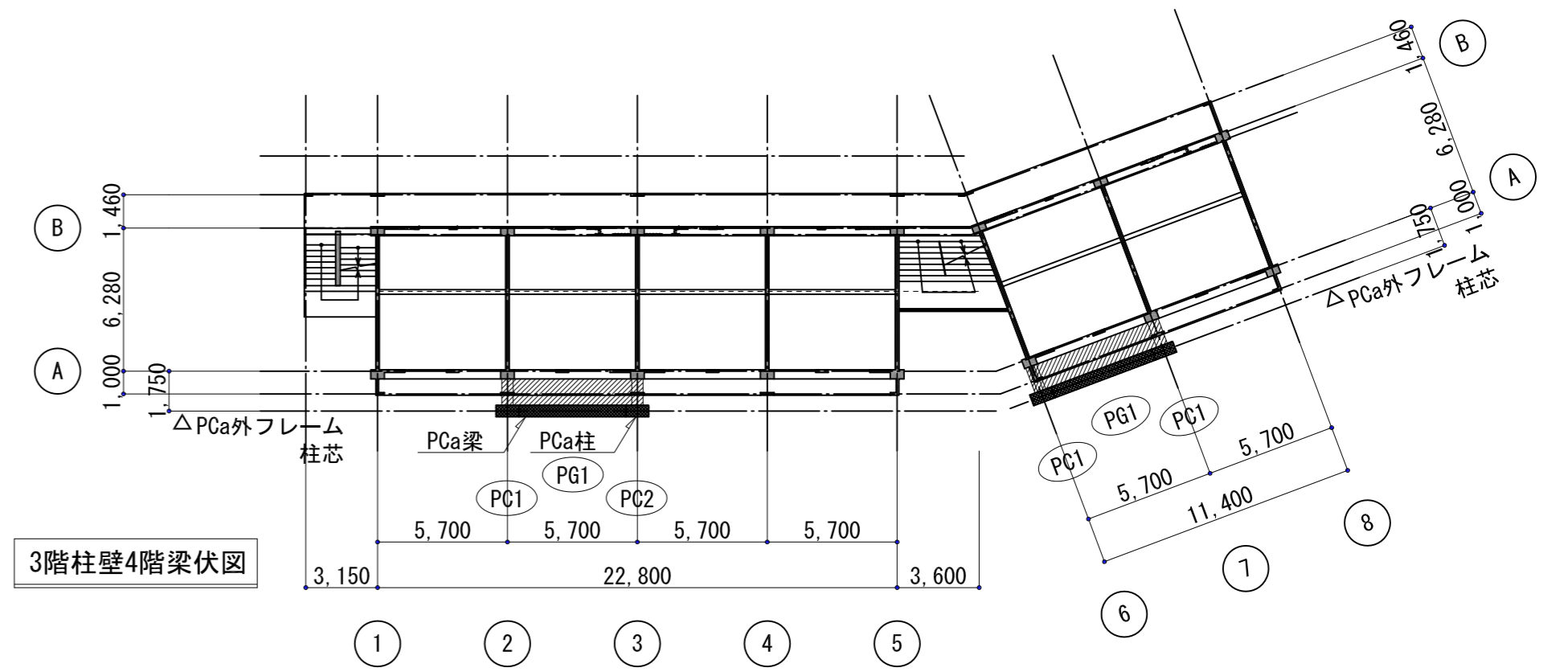
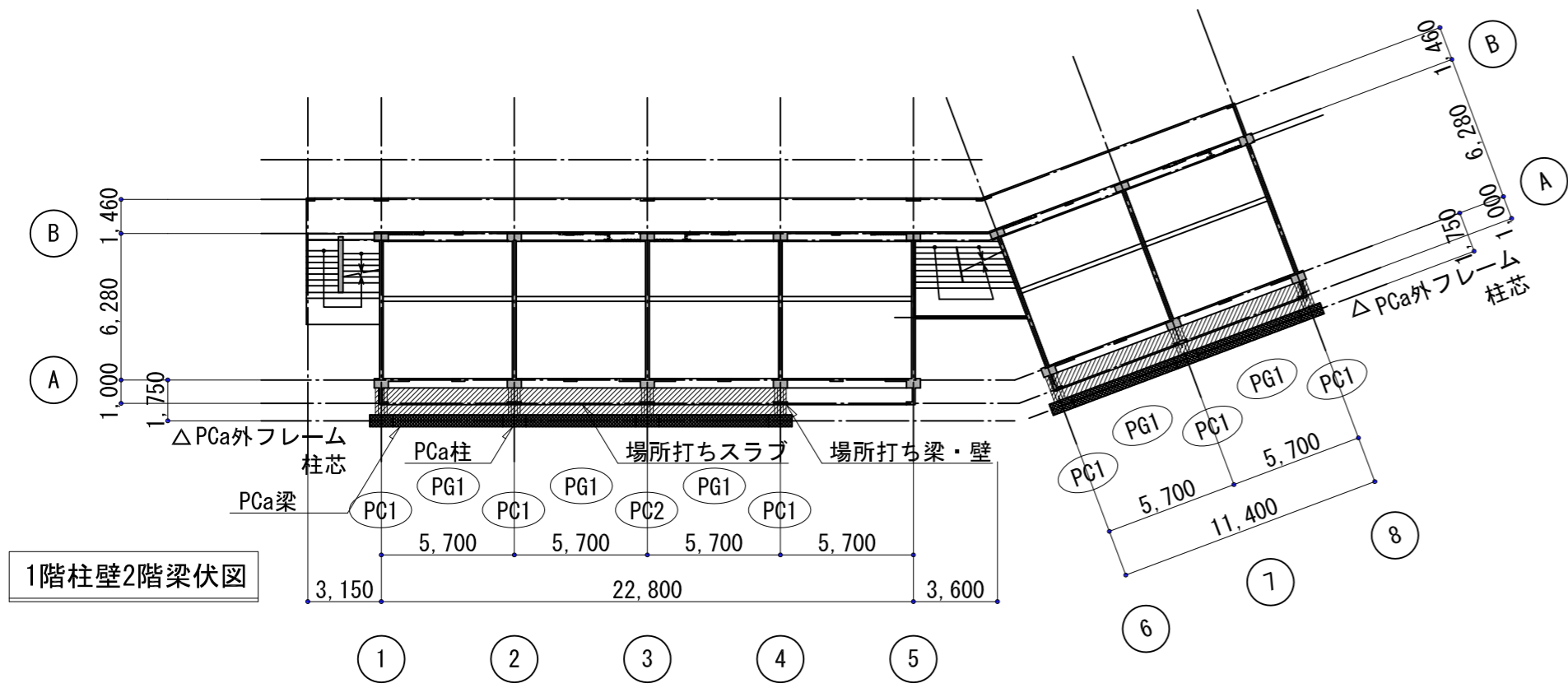
## 16. 機械式鉄筋継手

a) 本工事に使用する機械式鉄筋継手は、「鉄筋継手性能判定基準」でA級のモルタル充填式鉄筋継手とする。



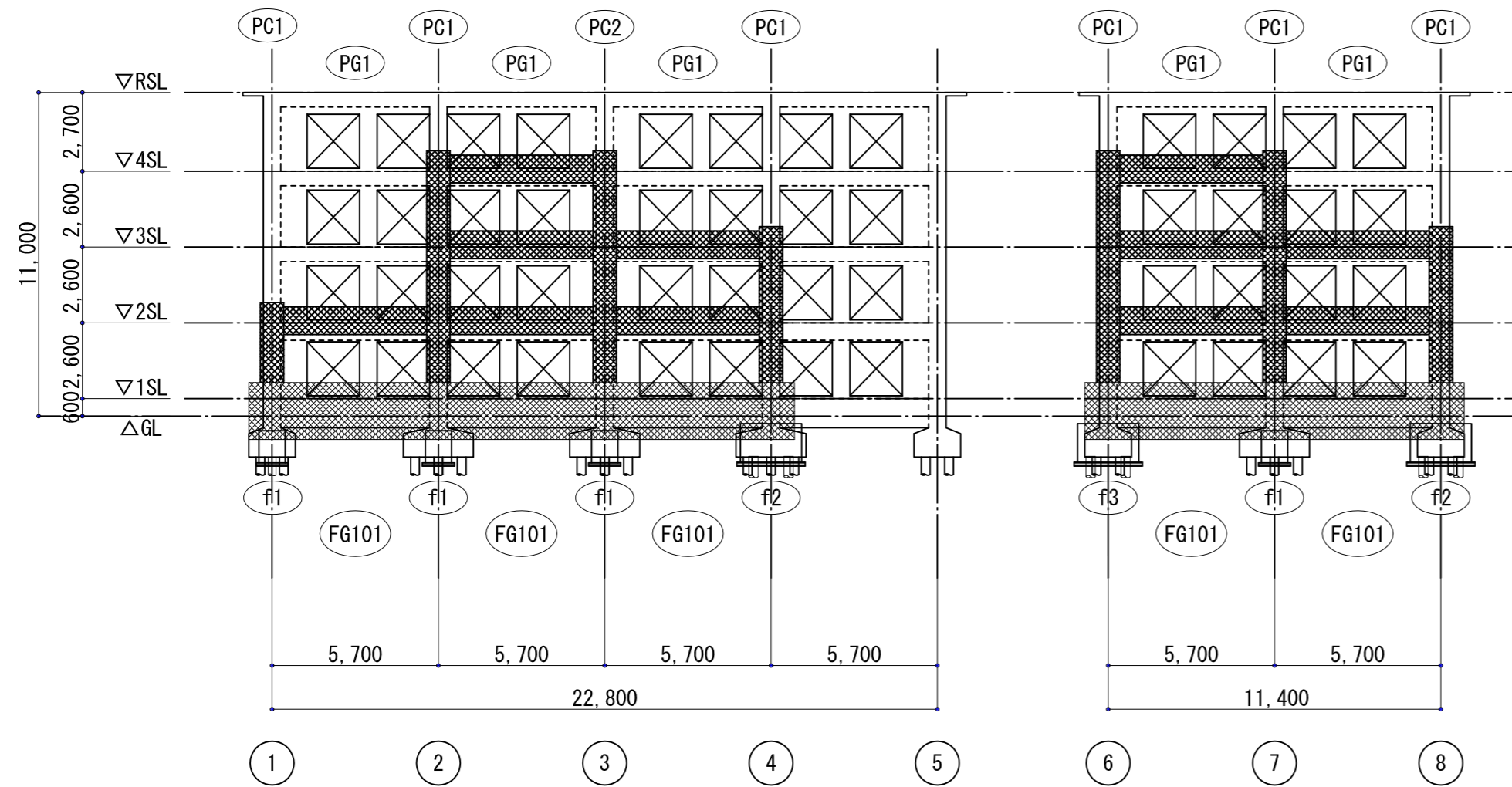
## 17. その他

現地既存建物を測量調査の上、PCa部材寸法などを決定すること。

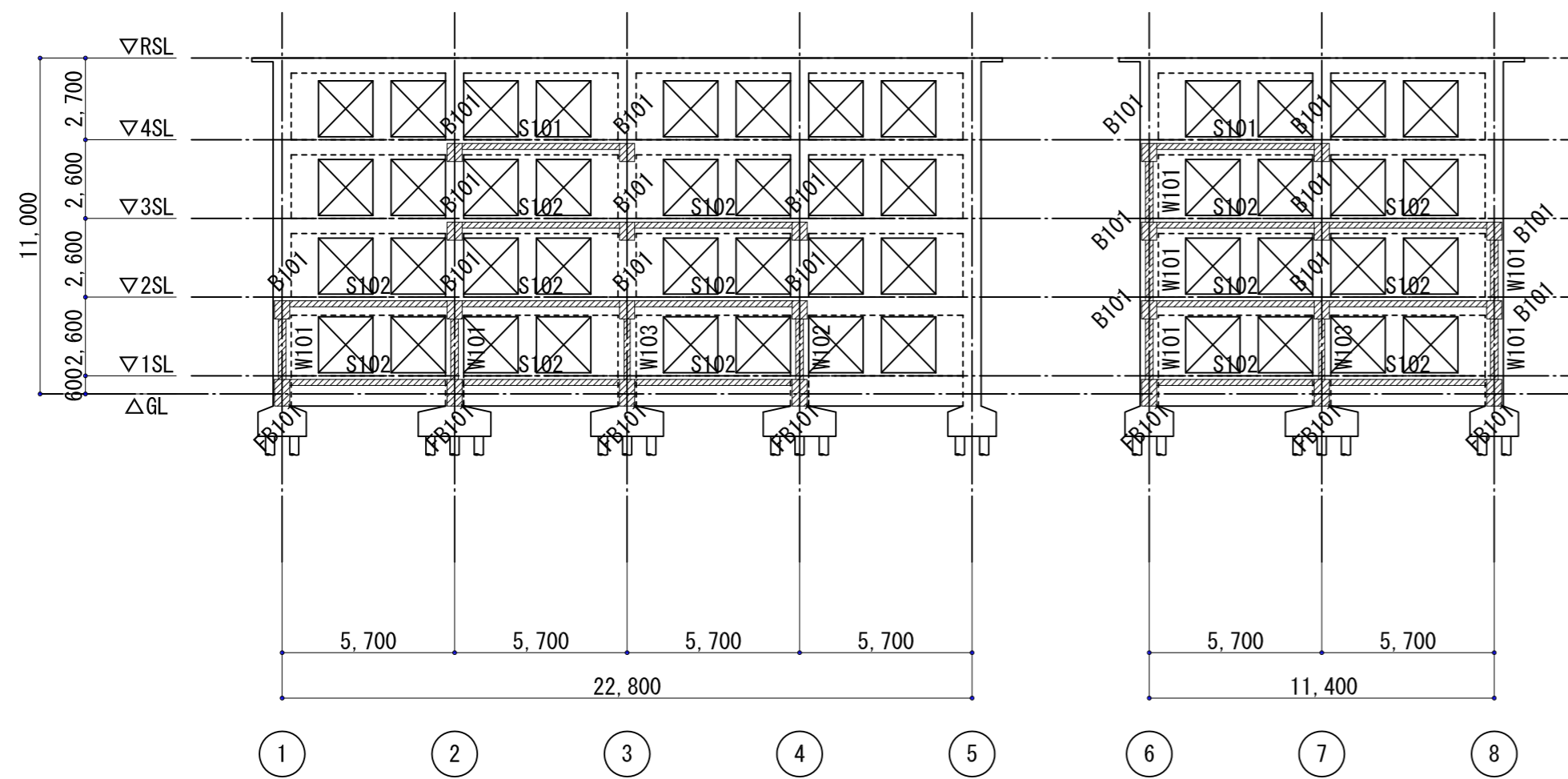


PCa外フレーム平面配置図 1/400

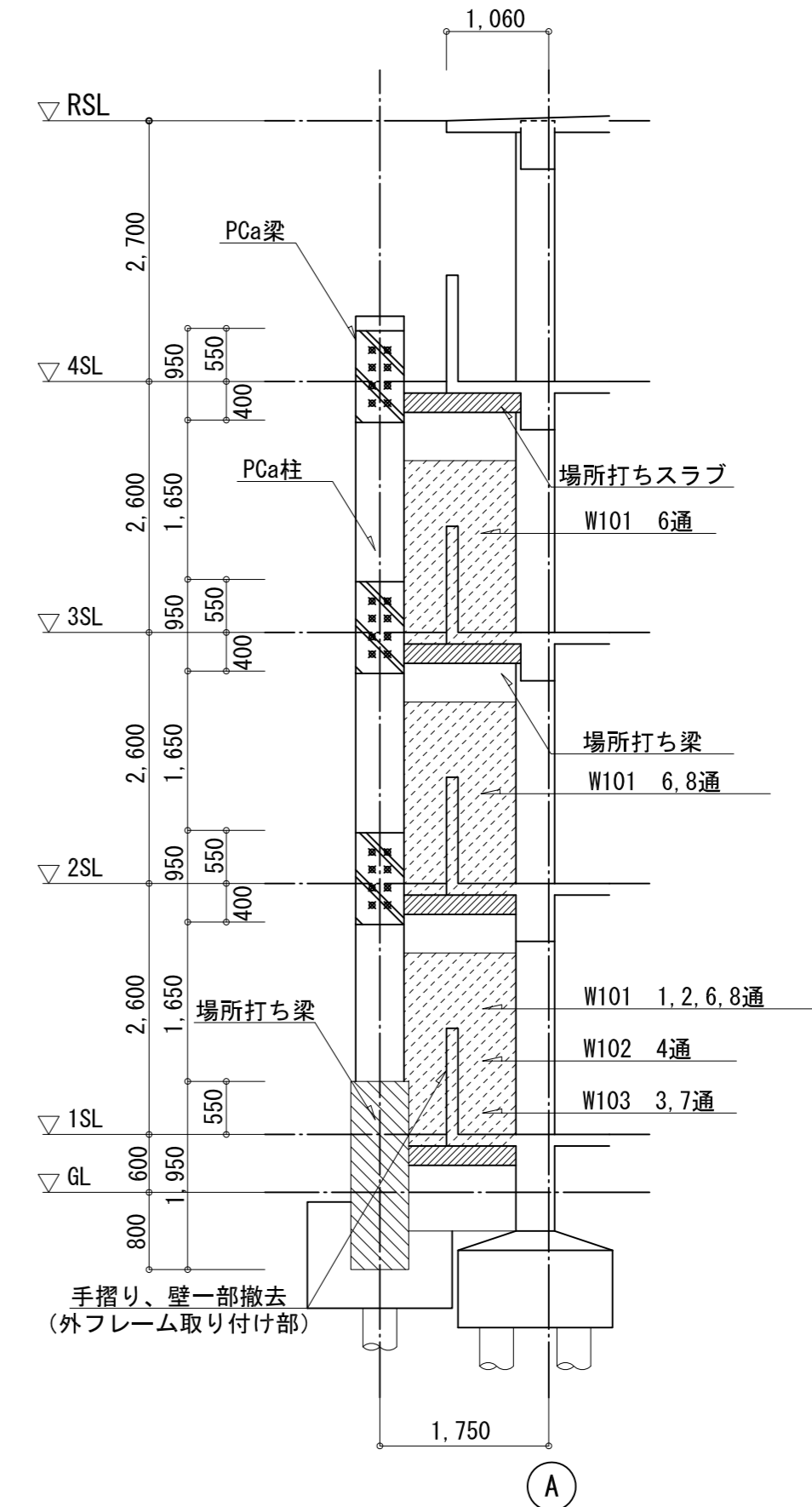




PCa外フレーム立面配置図 1/300



新設スラブ・壁・直交梁 A通軸組配置図 1/300



PCa外フレーム断面配置図 1/100

プレストレストコンクリート特記事項

1. コンクリート		
位置	PCa部材	場所打ち部
設計基準強度	50 N/mm <sup>2</sup>	24 N/mm <sup>2</sup>
プレ導入時強度	36 N/mm <sup>2</sup>	20 N/mm <sup>2</sup>
2. PC鋼材		
位置	PCa梁	PCa柱
使用鋼材	3-SWPR7BL φ15.2	SBPR1080/1230 φ23
施工緊張力	546 kN / ケーブル	357 kN / ケーブル
導入時許容緊張力	567 kN / ケーブル	381 kN / ケーブル
緊張方向	片引き	柱頭からの片引き
備考	-	-





PCa柱リスト 1:50

- ※ 巾止め筋は、D10@600 以下とする。
- ※ Hoop筋U10.7, U12.6 は、溶接閉鎖型とする。
- ※ 柱・梁仕口部 Hoop筋 は、定着具との取合いを考慮して、平均配置間隔 150mm 以下とする。
- ※ 柱脚部の接合面からD/2の区間は、ダブルフープ配筋またはダブルフープ配筋と同程度の鉄筋量となるよう配筋する。
- ※ 柱頭・柱脚部接合部断面には、目粗し施工するものとする。

階	符号	PC1	PC2
3F	位置	柱頭・柱脚	柱頭・柱脚
	断面		
	B x D	800 x 500	800 x 500
	主筋	6 - D29 (SD390)	6 - D29 (SD390)
	補助筋	2 - D29 (SD390)	2 - D29 (SD390)
	Hoop筋	□ - U10.7 @100	□ - U10.7 @100
	PC鋼材	SBPR1080/1230 φ23	SBPR1080/1230 φ23
2F	位置	柱頭・柱脚	柱頭・柱脚
	断面	同上	
	B x D	800 x 500	800 x 500
	主筋	6 - D29 (SD390)	10 - D29 (SD390)
	補助筋	2 - D29 (SD390)	2 - D29 (SD390)
	Hoop筋	□ - U10.7 @100	□ - U12.6 @100
	PC鋼材	SBPR1080/1230 φ23	SBPR1080/1230 φ23
1F	位置	柱頭・柱脚	柱頭・柱脚
	断面	同上	
	B x D	800 x 500	800 x 500
	主筋	6 - D29 (SD390)	6 - D29 (SD390)
	補助筋	2 - D29 (SD390)	2 - D29 (SD390)
	Hoop筋	□ - U10.7 @100	□ - U10.7 @100
	PC鋼材	SBPR1080/1230 φ23	SBPR1080/1230 φ23

PCa梁リスト 1:50

- ※ 巾止め筋は、D10@600 以下とする。

階	符号	PG1	
3F	位置	全断面	
	断面		
	B x D	500 x 950	
	上端筋	2 - D19	
	下端筋	2 - D19	
	スターラップ	□ - D13 @100	
	腹筋	4 - D13	
	PC鋼材	3-SWPR7BL φ15.2 計8ヶ-ブル	
	2F	位置	全断面
		断面	
B x D		500 x 950	
上端筋		2 - D19	
下端筋		2 - D19	
スターラップ		□ - D13 @100	
腹筋		4 - D13	
PC鋼材		3-SWPR7BL φ15.2 計8ヶ-ブル	

場所打ちスラブ配筋

符号	スラブ厚	PCa部材側 (差し筋)	場所打ち部 (配筋)	既存側 (あと施工アンカー)	備考
S101	200 mm	D13@200 - ダブル	D13@200 - ダブル	D19@150 - シングル	※アンカー配置要領図参照。
S102	200 mm	D13@250 - ダブル	D13@250 - ダブル	D19@200 - シングル	※場所打ちスラブ配筋要領図参照。

場所打ち壁配筋

符号	壁厚	PCa部材側 (差し筋)	場所打ち部 (配筋)	既存側 (あと施工アンカー)	備考
W101	250 mm	D13@200 - ダブル	D13@200 - ダブル	D16@200 - ダブル	※アンカー配置要領図参照。 ※場所打ち壁配筋要領図参照。
W102	250 mm	D13@150 - ダブル	D13@150 - ダブル	D16@150 - ダブル	
W103	200 mm	D13@250 - ダブル	D13@250 - ダブル	D16@200 - シングル	

場所打ち梁・スラブ・壁共通事項

- ※1 ・場所打ち梁のPCa側は機械式継手とし、「鉄筋継手性能判定基準」でA級のものとする。  
・場所打ちスラブ、場所打ち壁のPCa側差筋を機械式継手とする場合は、「鉄筋継手性能判定基準」でA級のものとする。
- ※2 ・場所打ち梁、スラブ、壁のPCa側を差筋とする場合の工事区分は下記の通りとする。  
架設以前の折曲げ : PC工事  
架設後の曲げ戻し : 建築工事  
・場所打ち梁、スラブ、壁のPCa側鉄筋を継手とする場合の工事区分は下記の通りとする。  
材料 : PC工事  
現場取り付け : 建築工事

場所打ち梁リスト 1:50

- ※ 巾止め筋は、D10@1000 以下とする。
- ※ アンカー配置要領図参照。
- ※ 場所打ち梁配筋要領図参照。

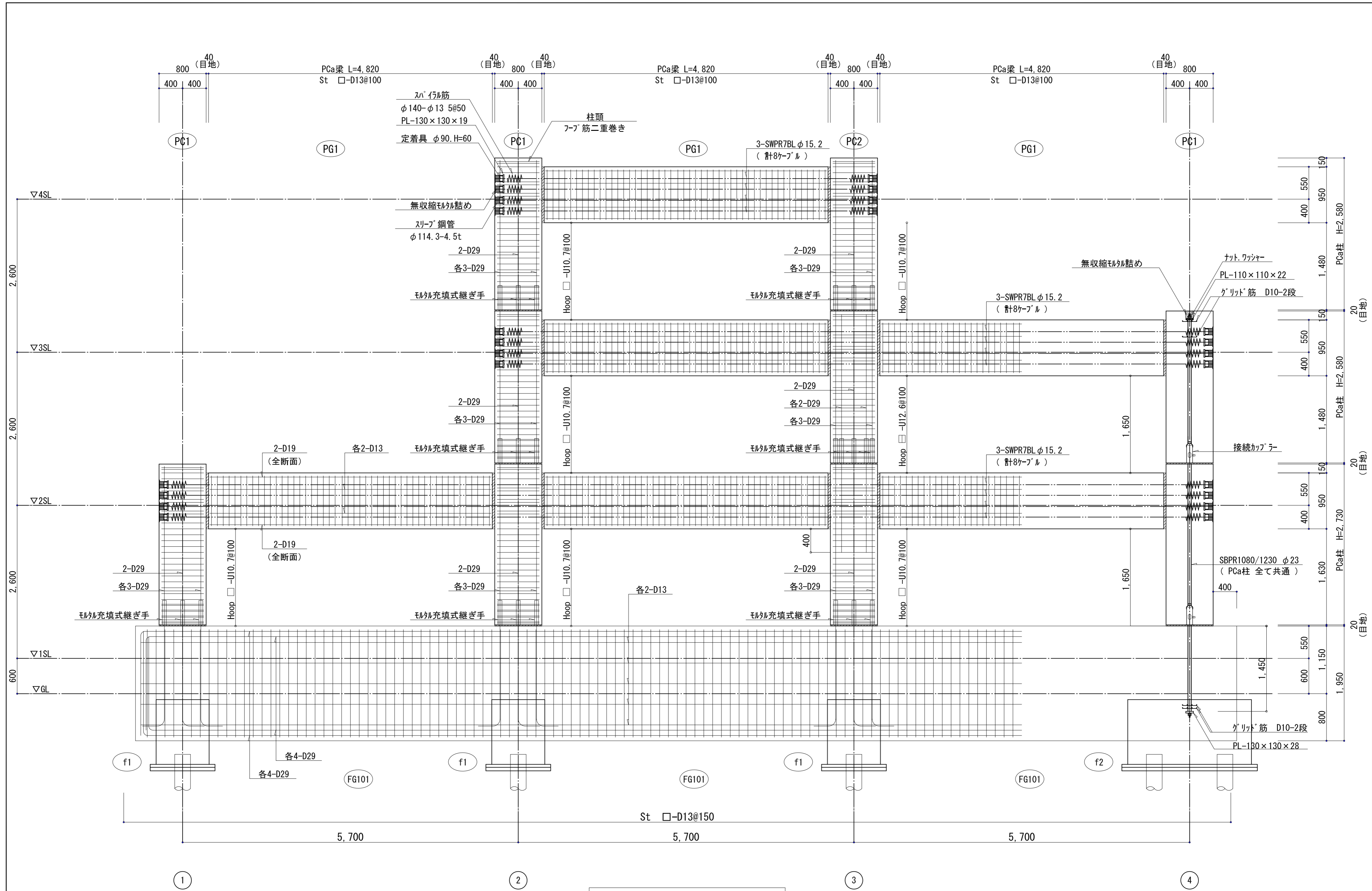
符号	B101
位置	全断面
断面	
B x D	500 x 600
軸方向筋	8 - D19
あと施工アンカー	-
スターラップ	□ - D13 @100
腹筋	2-D13

基礎梁リスト 1:50

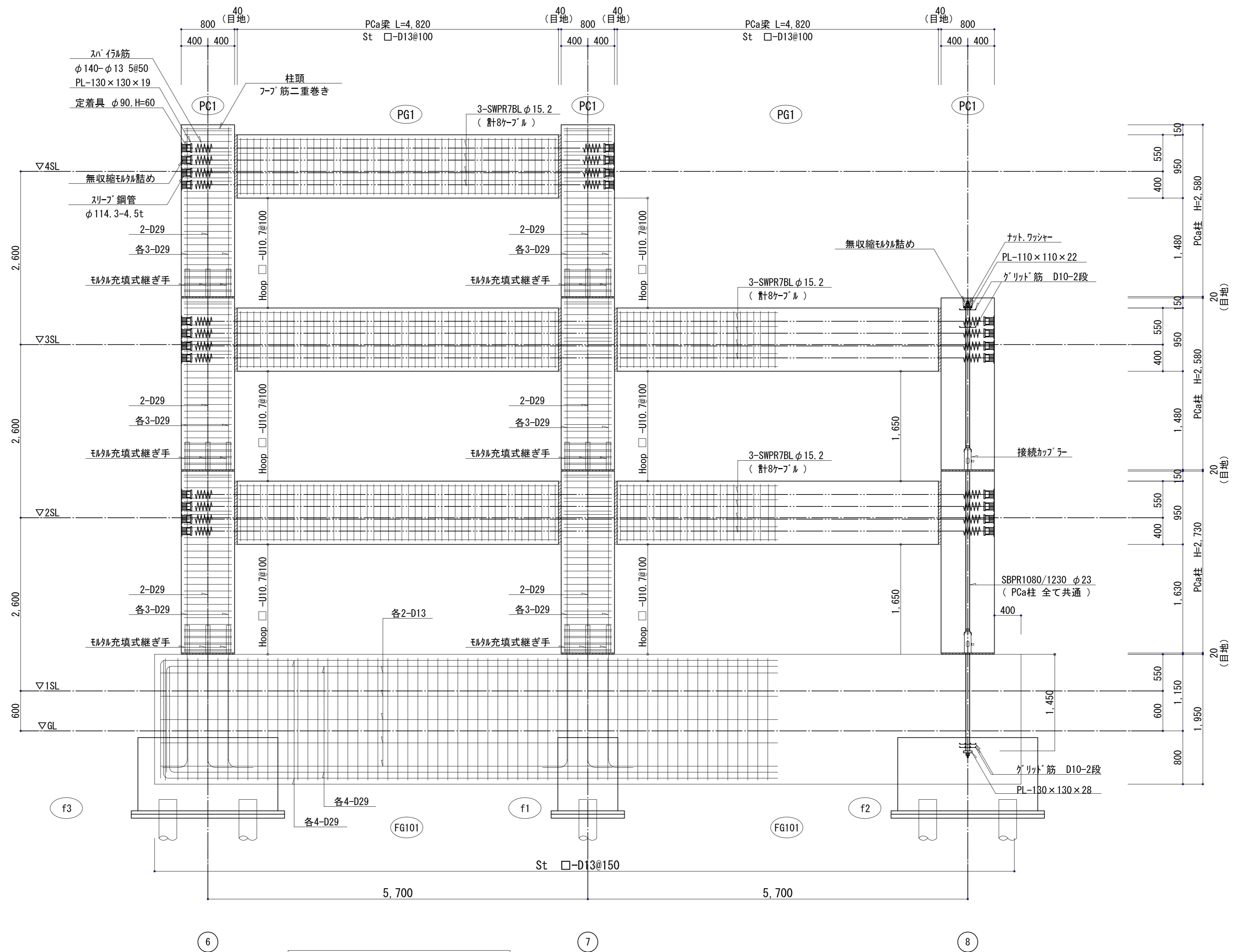
- ※ 巾止め筋は、D10@1000 以下とする。
- ※ PCa外フレーム架構図参照。
- ※ 場所打ち梁配筋要領図参照。

符号	FG101	FB102	
位置	全断面	場所打ち部	既存側
断面			
B x D	600 x 1,950	500 x 880	
上端筋	8 - D29 (SD390)	4 - D19	あと施工アンカー
下端筋	8 - D29 (SD390)	4 - D19	8 - D19
スターラップ	□ - D13 @150	□ - D13 @100	
腹筋	10 - D13	4 - D13	



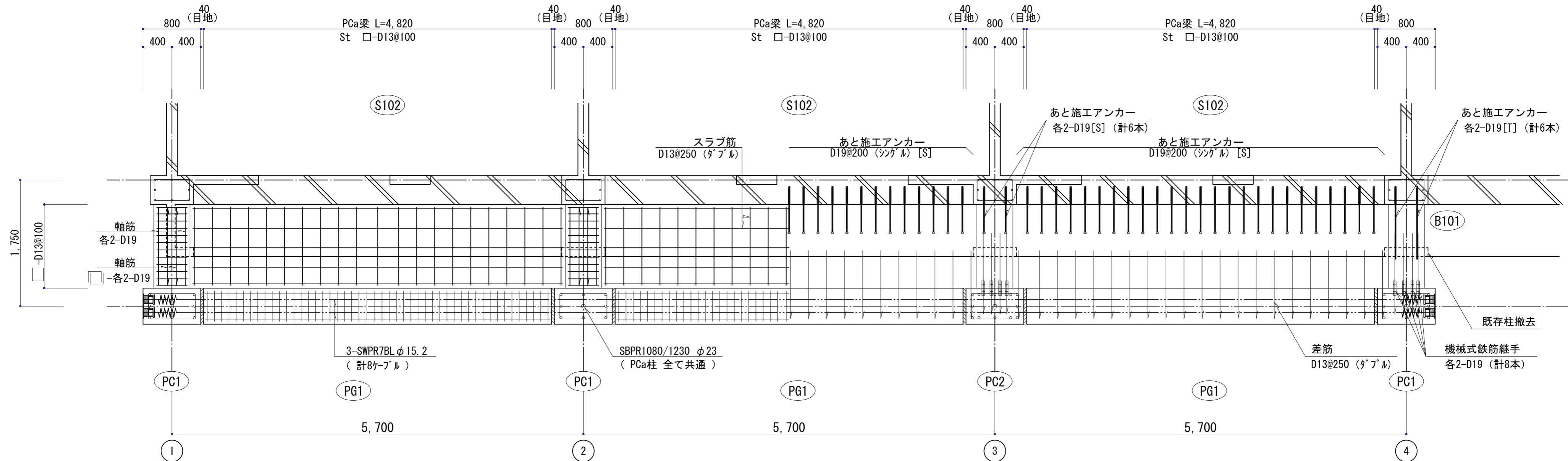


PCa外フレームA通り架構図① 1/60



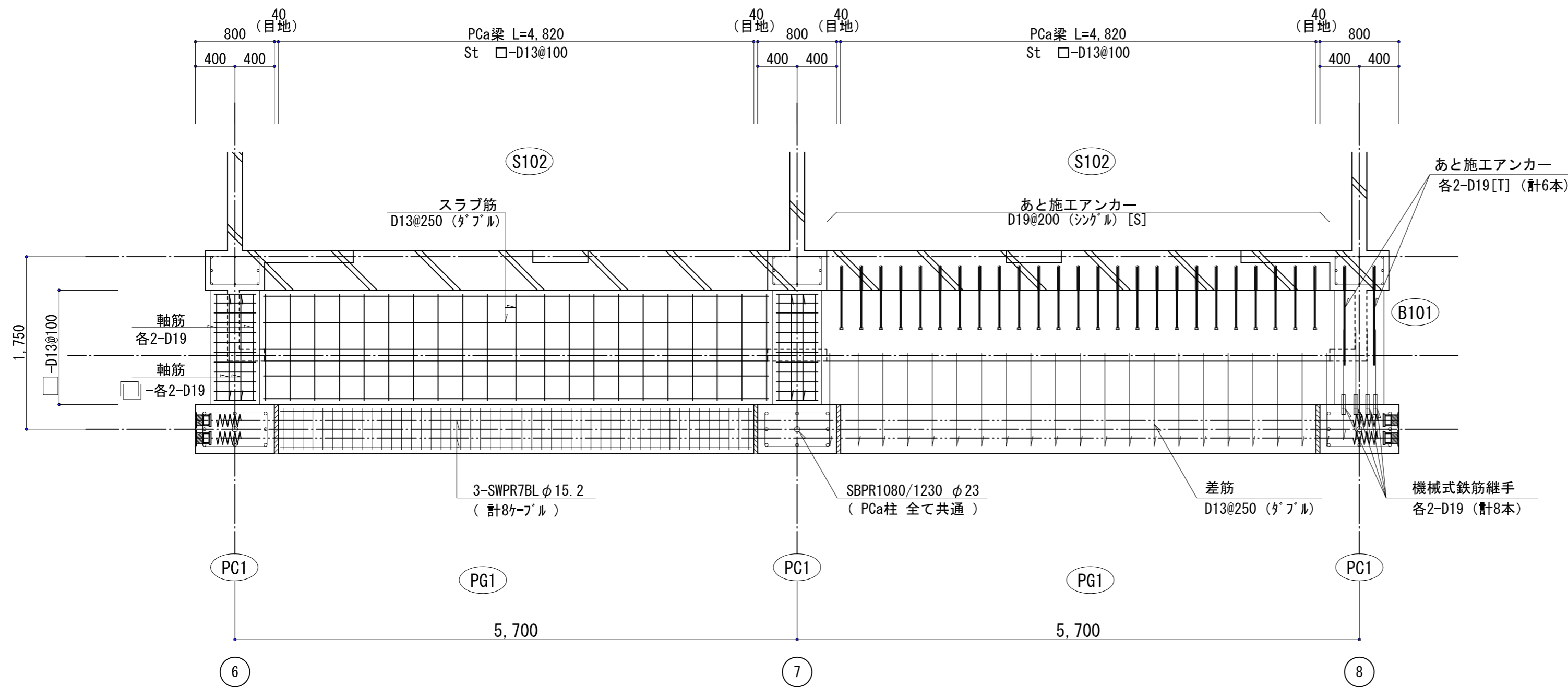
PCa外フレームA通り架構図② 1/60





PCa外フレームA通り平面架構図① 1/60

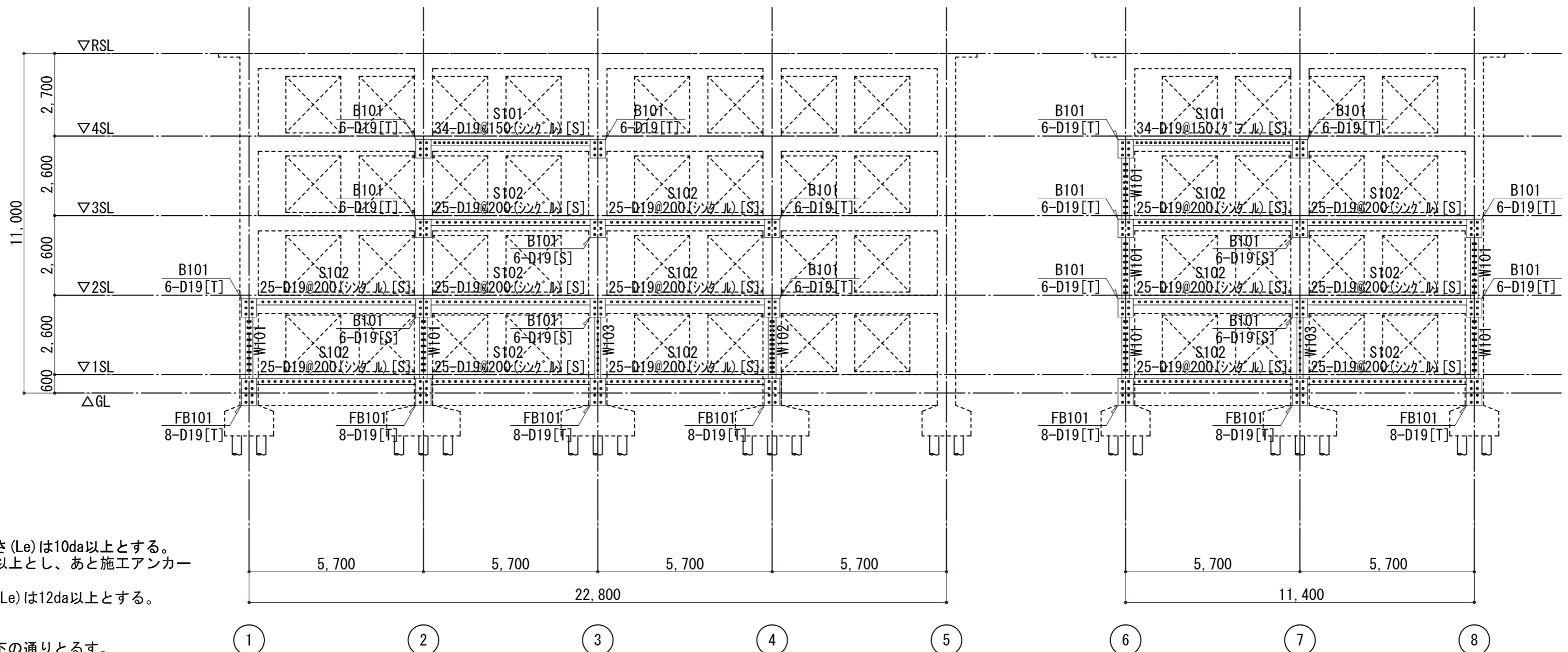
- ※1 ・3階新設スラブS101は、上図に準ずる。
- ※2 あと施工アンカーの表記  
 [S] : せん断アンカーを示し、有効埋め込み長さ (Le) は10da以上とする。  
 新設スラブまたは梁内定着長さは、20da以上とし、あと施工アンカーはナット付きとする。  
 [T] : 引張アンカーを示し、有効埋め込み長さ (Le) は12da以上とする。  
 新設梁内定着長さは、40da以上とする。



PCa外フレームA通り平面架構図② 1/60

- ※1 ・3階新設スラブS101は、上図に準ずる。
- ※2 あと施工アンカーの表記  
 [S] : せん断アンカーを示し、有効埋め込み長さ (Le) は10da以上とする。  
 新設スラブまたは梁内定着長さは、20da以上とし、あと施工アンカーはナット付きとする。  
 [T] : 引張アンカーを示し、有効埋め込み長さ (Le) は12da以上とする。  
 新設梁内定着長さは、40da以上とする。

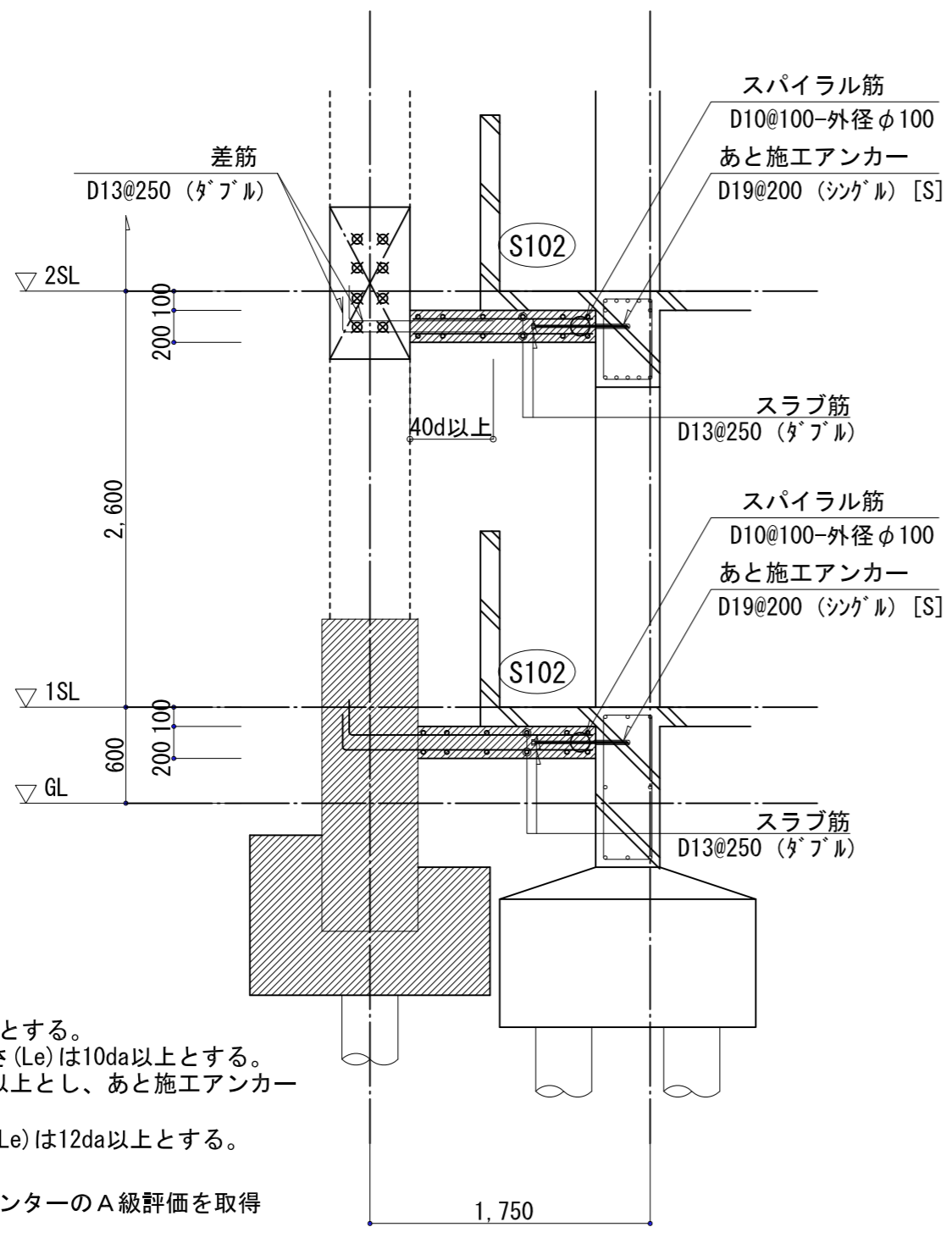




A通側 アンカー配置要領図 1:200

※1 あと施工アンカーの表記  
 [S]: せん断アンカーを示し、有効埋め込み長さ(Le)は10da以上とする。  
 新設スラブまたは梁内定着長さは、20da以上とし、あと施工アンカーはナット付きとする。  
 [T]: 引張アンカーを示し、有効埋め込み長さ(Le)は12da以上とする。  
 新設梁内定着長さは、40da以上とする。

※2 場所打ち壁のあと施工アンカー配置は以下の通りとする。  
 W101: 18-D16@200[S] (ダブル)  
 W102: 24-D16@150[S] (ダブル)  
 W103: 9-D16@200[S] (シングル)

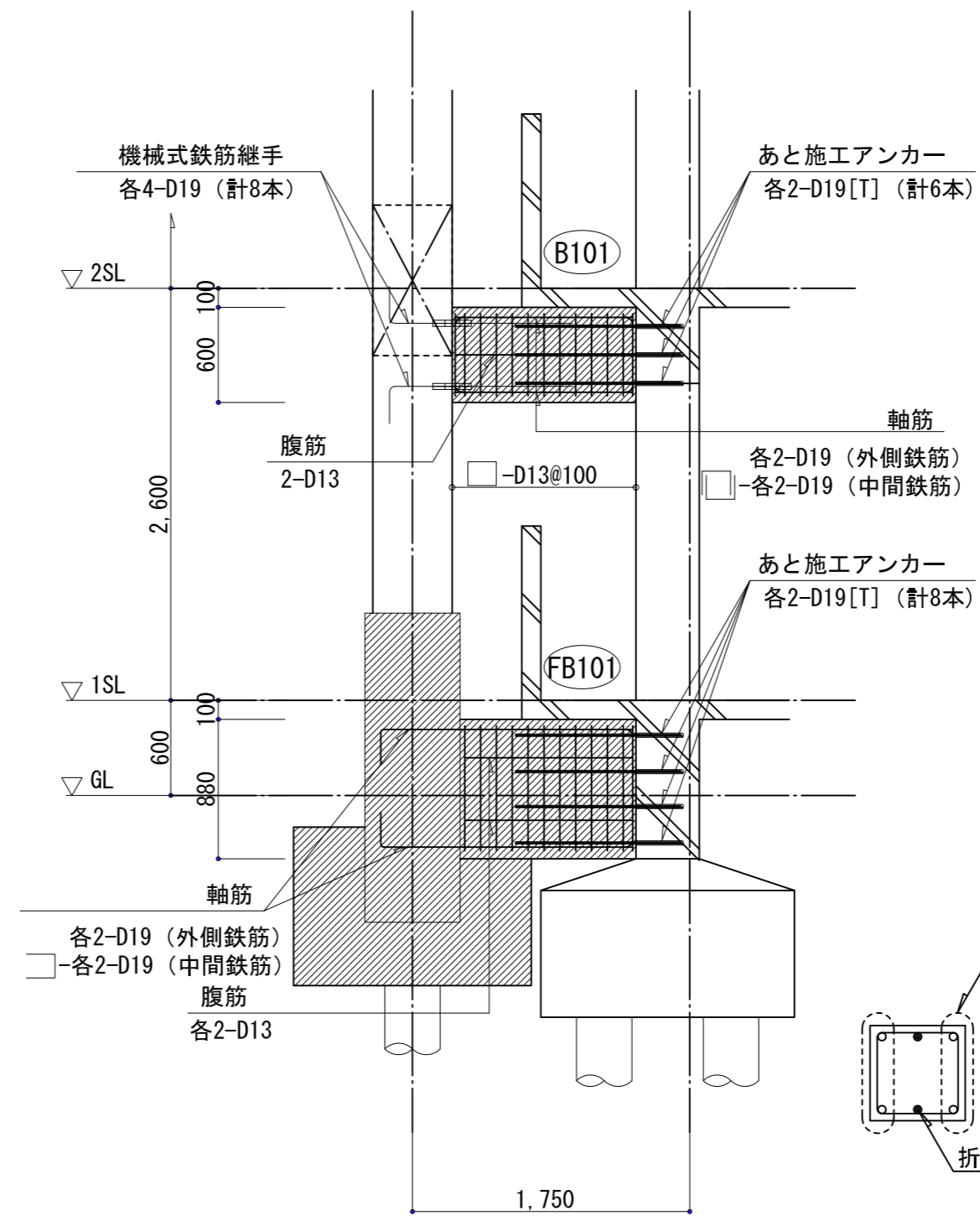


各部配筋要領図 1/60

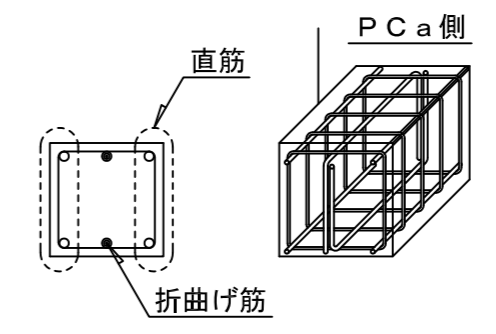
※ あと施工アンカーの表記  
 特記無きは、有効埋め込み長さ(Le)は12da以上とする。  
 [S]: せん断アンカーを示し、有効埋め込み長さ(Le)は10da以上とする。  
 新設スラブまたは梁内定着長さは、20da以上とし、あと施工アンカーはナット付きとする。  
 [T]: 引張アンカーを示し、有効埋め込み長さ(Le)は12da以上とする。  
 新設梁内定着長さは、40da以上とする。

※ B101に使用する機械式鉄筋継手は、日本建築センターのA級評価を取得しているものとする。  
 ※ 既存建物と新たに打設するコンクリートとの接全面全てに目荒し処理を行う。

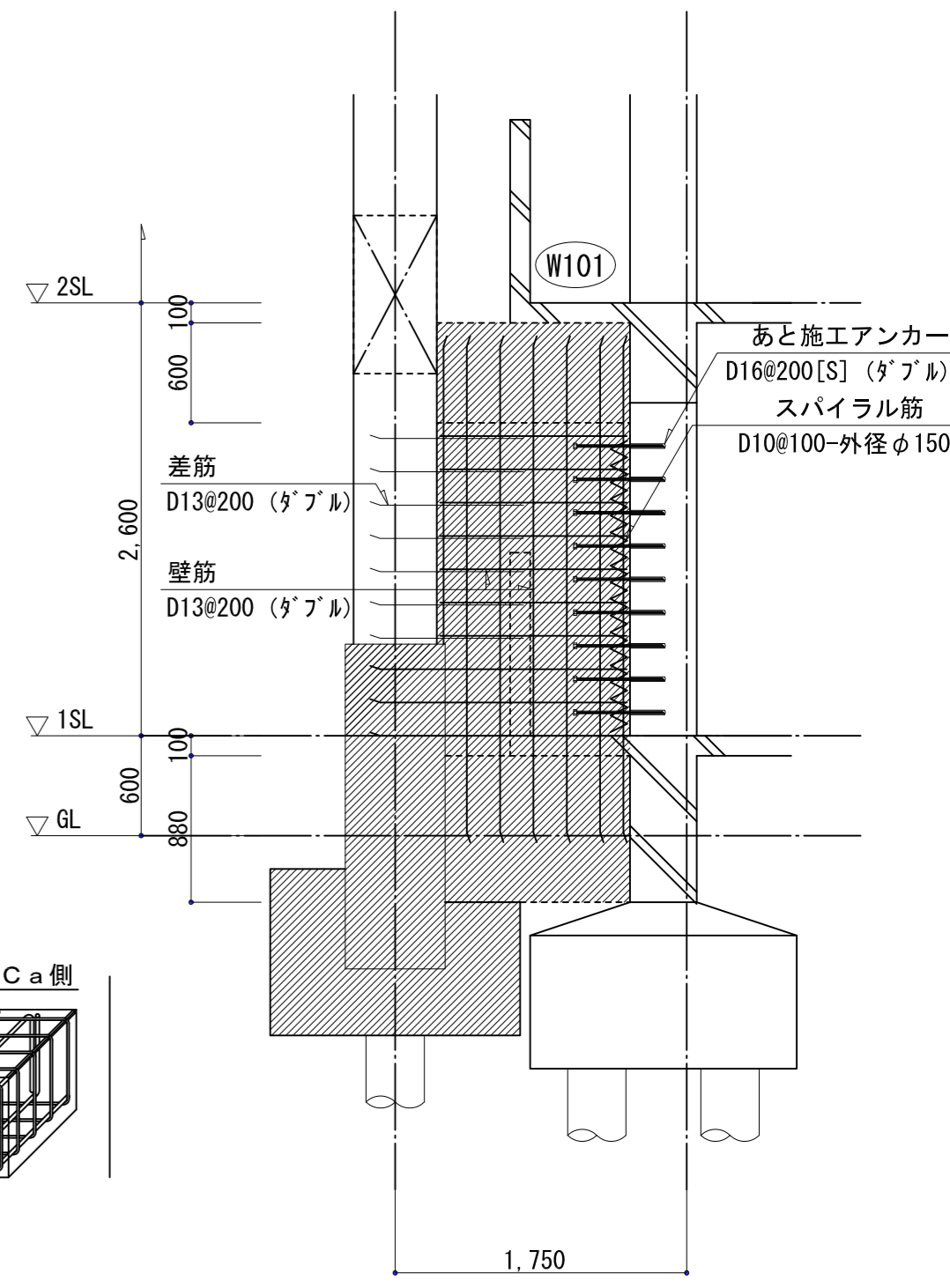
場所打ちスラブ A  
 ※ S101は上図に準ずる。



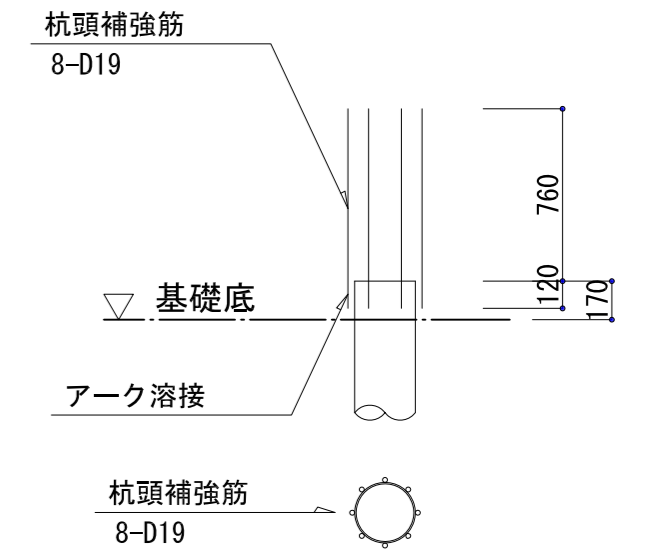
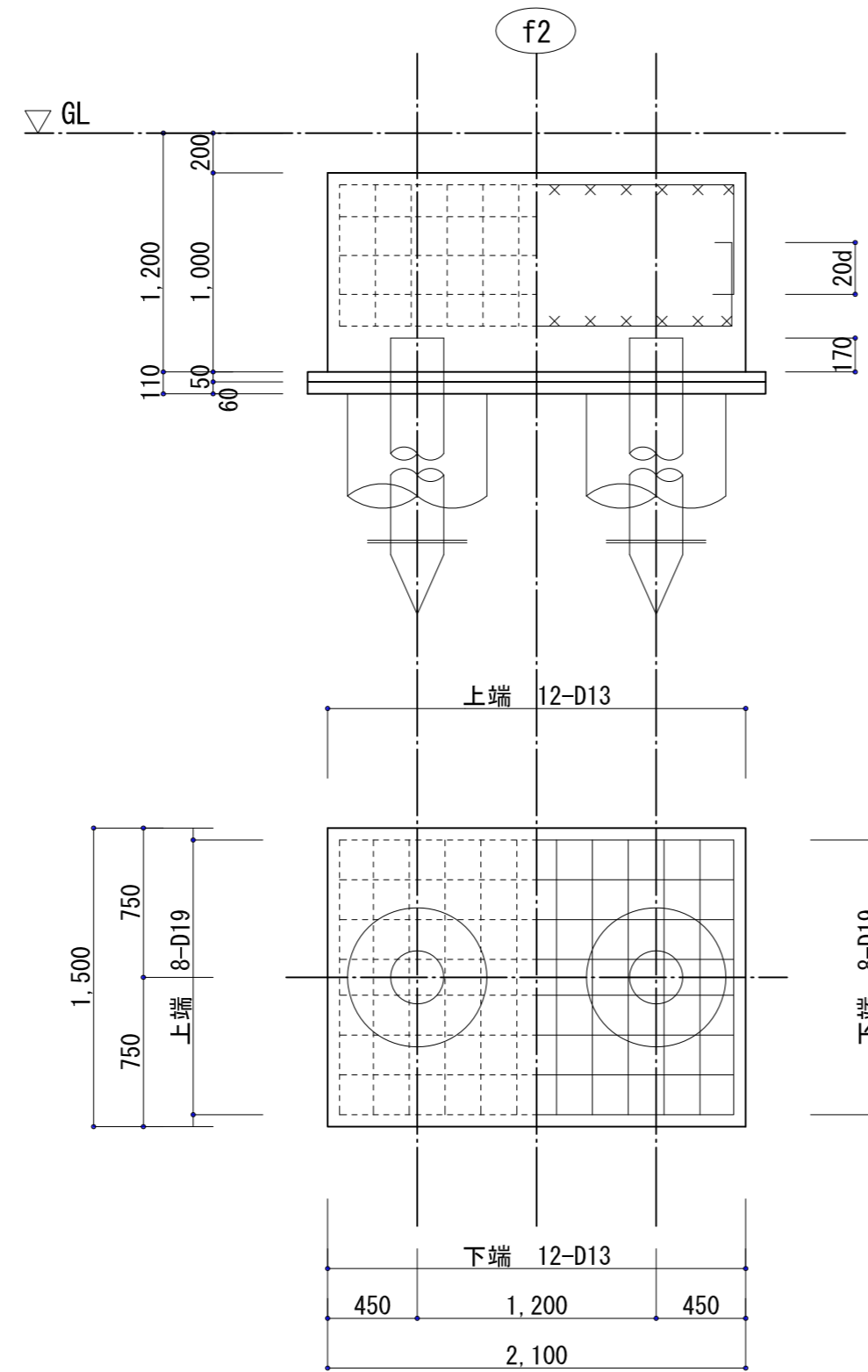
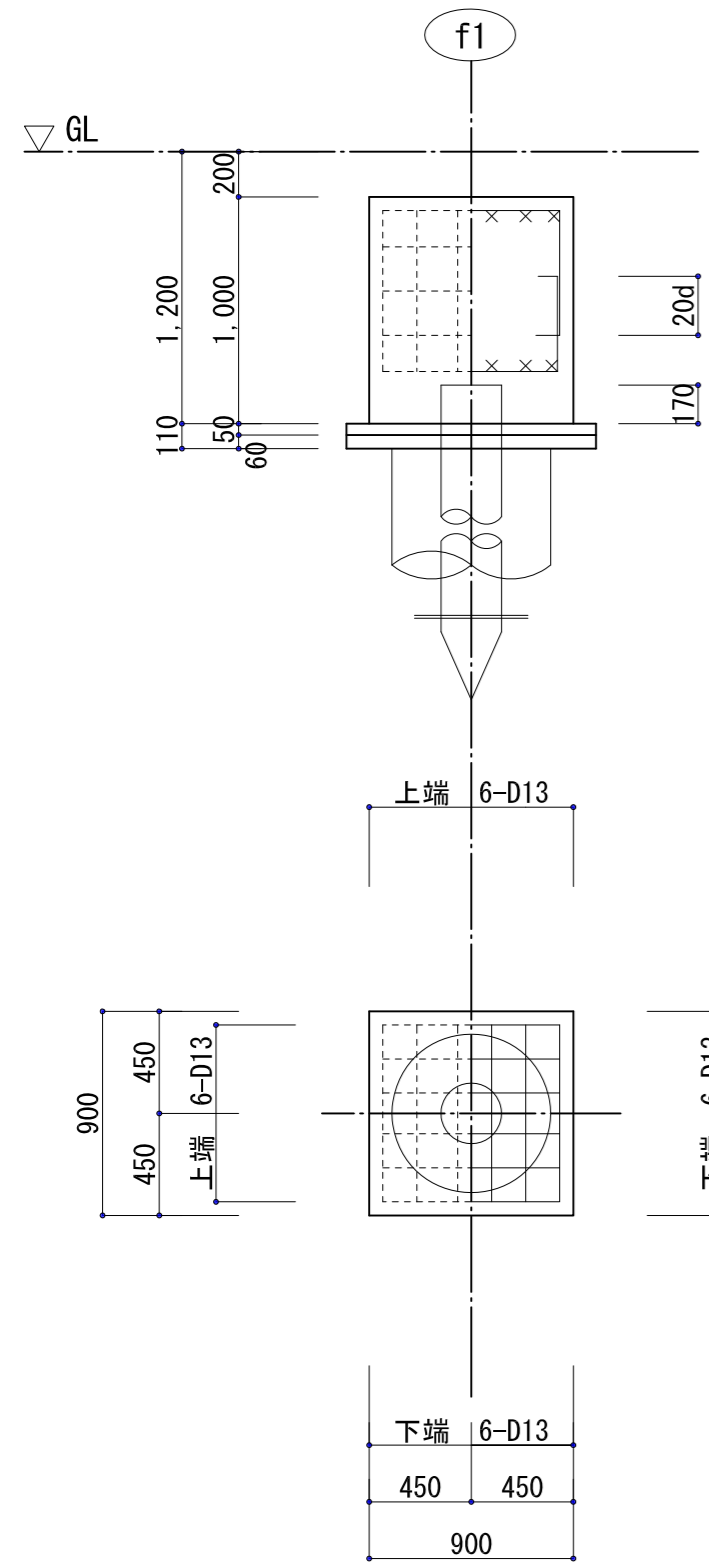
場所打ち梁 A



繋ぎ梁配筋要領  
 ※場所打ち梁の外側鉄筋は直筋とし、中間鉄筋は端部折曲げとする。



場所打ち壁 A  
 ※ W102, W103は上図に準ずる。



杭頭補強筋 1/50

新設基礎リスト 1/50

杭仕様	
杭種	ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭
杭径	φ267.4 羽根径: φ500 コラム径: φ700
杭肉厚	t = 12.7 (mm)
杭長	L = 6.0 (m)
杭耐力	
鉛直支持力	引抜き評定対応
	(長期) 609 kN
	(終局時) 1830 kN
引抜耐力	(終局時) 589 kN
杭本数	10本



電気設備工事特記仕様書 No. 1

【工事概要】
1 工事場所 京都府綴喜郡井手町井手団ノ下56-1
2 建物概要
建物名 構造 階数 延床面積(m²) 消防法令別表第一 備考
南団地1号棟 鉄筋コンクリート造 4階

3 工事科目
工事科目 建物名称 本館棟
電灯設備
動力設備
雷保護設備
受変電設備
電力貯蔵設備
発電設備
構内情報通信設備
構内交換設備
情報表示設備
映像・音響設備
拡声設備
誘導支援設備
テレビ共同受信設備
監視カメラ設備
駐車場管制設備
防犯・入退室管理設備
自動火災報知設備
中央監視制御設備
医療関係設備
構内配電線路
構内通信線路
電波障害調査
撤去工事

- 【特記事項】
1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)平成二十二年版」(以下、「標準仕様書」という。)、 「公共建築設備工事標準図(電気設備工編)平成二十二年版」(以下、「標準図」という。 )及び「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工編)平成二十二年版」による。
2) 工事項目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
2 特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章 一 般
項目 特記事項
●設備機材等 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。
○機材の品質・性能証明
○グリーン調達適合品の確認
●現場代理人
●電気工事事
●工事用電力・水その他
●官公署への手続き
●工事仮設物
●足場・さん格類
●監督職員事務所
○監督職員事務所に備え付ける図書
●建設副産物の処理及び建設発生土の処理
●建設発生土処分
○再生資源利用促進計画書の作成・提出
1) 「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。
2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。
○アスベスト成形板の処理等
施工調査
確認範囲
処理方法

章 一 般 事 項
●工事関係書類
●履行報告
●工事写真
●完成図書
○著作権等
○付属品及び予備品
●耐震施工
○風圧力に対する性能
●風圧力(耐風力)
●電線類
●電線管
○ボックス
○フラッシュプレート
○フロアプレート・ベース
●機器
○機器内配線等

章 一 般 事 項
○はつり
●再使用機器
○その他
●工事範囲
●電気方式
○照明制御による効果の評価
○照明制御装置(グ)
○多重伝送制御システム
○蛍光灯ランプ
○RFP又はMP形照明器具
○非常用照明の形式
○フロアコンセント
○分電盤等
●工事範囲
●電気方式
○制御盤
○監視方法
○インターロック
○インバータ装置の規約効率
○工事範囲
○保護レベル
○受雷部システム
○接地システム
○工事範囲
○電気方式
○配電盤形式
○変圧器の規格
○監視方式
○基礎
○付属品等
○その他

電気設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項	
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。	
	○交流無停電電源装置(UPS)	用途( ) 方式 ○一般形 ○簡易形	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル	
	○連続運転可能時間	○10時間(乙) ○72時間(甲) ○	
	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8	
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW(PS)以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水循環環式	
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス( ) ○燃料小出槽 ㊦ ○主燃料槽 ㊦	
	○監視方式	※警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視	
発電設備	○太陽光発電装置(フ)	太陽電池 アレイ設置可能建築面積 公称最大出力 kW以上 m <sup>2</sup> 以下(長辺 m×短辺 m) 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆流 ○有 ※無	
	○風力発電装置(定格出力20kW未満に適用)	系統連系 ○有 ○無 運転音 ※80dB(A)以下 ○ 移転用の遠方監視用接点 ○要 ○不要	
	○外部移報	※有 ○無	
	通信網設備	●工事範囲	●配管 ●配線 ○機器取付
		●施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ●合成樹脂管配線
		●工事範囲	●配管 ●配線 ○機器取付
	構内交換設備	○保安器用接地	※本工事 ○別途工事
		○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
		○電話機への配線	電話機1台につき以下を見込む。 OEM-TIEF 0.65-2C 20m(片側6極2心モジュラーセット付) OEM-UTP 0.5-4P 20m(片側8極8心モジュラーセット付) OEM-BTIEE 0.4-2P 20m(片側6極4心モジュラーセット付) ○2号ワイヤプロテクト 1.5m
	情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
○工事範囲		○配管 ○配線 ○機器取付	
○親時計及び付属装置		OCR-PM OCW-PM ○プログラムタイマ(○カード式 ○キー式 ○)	
○子時計	特記なきものは ※SWA <sub>33</sub> -GPB <sub>2</sub> ○		
映像音響設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線	
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○増幅器	用途 ○全館放送用(※一般放送 ○非常放送) ○ローカル放送用 形式 ○卓上形 ○ラック組込形 ○卓上形 ○ラック組込形 定格出力 Hi形 W以上 Hi形 W以上 出力制御盤 ※有 回線 ○無 ※有 回線 ○無 付加機能 ○リモコン機能 ○コールサイン機能 ○リモコン機能 ○コールサイン機能 ○モニター機能 ○モニター機能 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。	
	○マイクホン	○卓上形 台 ○ハンド形 台 ○	
○スピーカ	特記なきものは ※SC <sub>0</sub> Hi-1V <sub>3</sub> -M ○		
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式 (○磁気式 ○無線式 ○画像認識) ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○カラー ○白黒 ○外部受付用インターホン ○カラー ○白黒 ○トイレ等呼出し装置 窓 呼出しボタン ○壁付ボタン (プルスイッチの長さは、0.2m以上とする) ○壁付押しボタン (押しボタンの長さは、1.2m以上とする) ○受付呼出し装置 ○誘導音	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○アンテナ	○VHF用 ○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV	
テレビ共同受信設備	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 鋼管のアンテナマスト及びその支持材等は、溶融亜鉛メッキ仕上げとする。	
	○電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。	

章	項目	特記事項
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
管理設備	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
自働火災報知設備	○工事種類	○機械警備用配管 ○防火装置 ○入退室管理制御装置
	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ただし、位置表示灯及び消火ポンプ運転表示は AC24V
	○受信機	○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
	○消火ポンプ始動	※消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。)
	○機器収容箱	○消火栓一体形 ○単独形
	○自動閉鎖装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○連動制御器 回線【予備電源(蓄電池)内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○タンパ等(全数)復帰用の予備電源容量を持つこと。
	○自動閉鎖装置	○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙タンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構(電動式) DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】
	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ※非常電源(蓄電池) ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○形 級 回線(○壁掛形 ○自立形) (○単独形 ○自火報受信機と一体) (ガスの種類 ※都市ガス(13A) ○液化石油ガス)
	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。
制御設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○蓄電池容量	※標準仕様書による ○30分間以上
医療関係設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット ※鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出ボタン ○防滴 ○防湿
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
構内配線	●工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	●電気方式	高圧 ○三相3線式 6kV ●低圧 ●三相3線式 200V ○ ●単相3線式 100/200V ○単2線式 (○100V ○200V)
	●ふ設方式	●地中線 ●管路式 ※波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) 埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面)-300mm以下とする。 ○架空線 電柱 ※遠心力プレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構造 ○耐中埋じん用 ○耐重埋じん用 形式 ○引外し装置付き(SOG形) ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ※標準図による ○図示による。 蓋の文字 ※蓋の用途表示は電力とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○余長	○端子、高圧ケーブル 端未処理 高圧ケーブルは、マンホール、ハンドホール、又はキュービクル内等の1ヶ所で3m余長をとる。
	○避雷器	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
	○装柱材	○屋外形 ○耐塩形
	○外灯	○一般用 ○耐塩形
	○標識シート	基礎 ※本工事 ○別途工事 ○外灯ポール材質が鋼製(SPC)の場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
構内通信線路	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ※波付硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) 埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面)-300mm以下とする。 ○架空線 電柱 ※遠心力プレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法は (※標準図 ○図示)による。 蓋の用途表示は (※通信 ○)とする。
	○標識シート	引込み管路に設ける。

章	項目	特記事項
調査報告	○調査範囲	※測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	工事前・工事中・完成後
	○測定箇所	箇所
○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。	

別表 1 付属品・予備品

○ウォールキャビネット(W= D= H= )× 個	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○イーゼルキャビネット	○マンホールフック		
○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー)			
照明器具	ランプ及びグロー球の予備品は、種別毎に1%とする。ただし、端数は切り上げることとし、最少個数を1個とする。		
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。		



企業組合



一級建築士登録第187741号 石上圭介

一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

特記

工事名称 5号人第3号 井手町営住宅南団地1号棟耐震補強工事

DATE H25. 7.

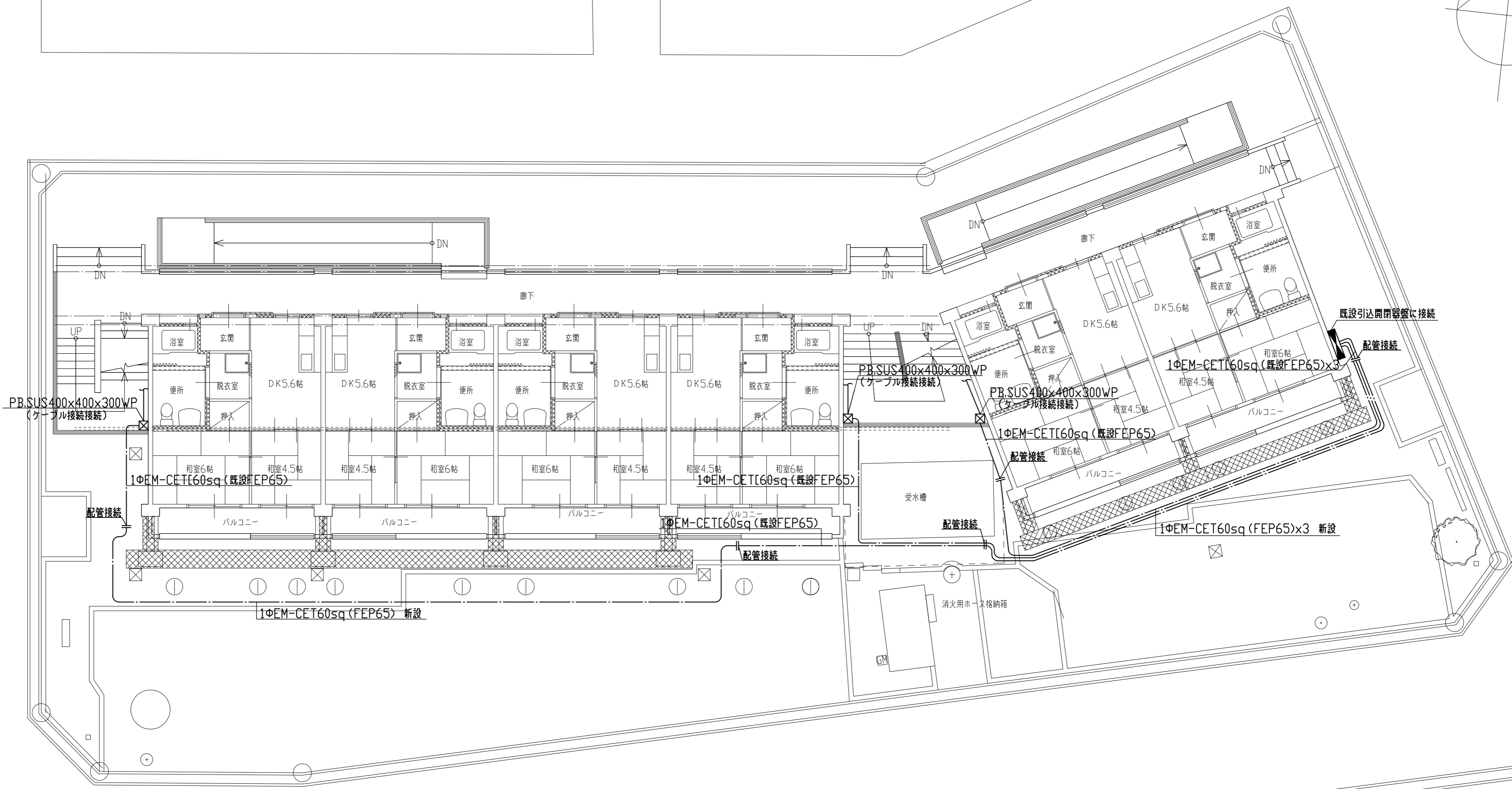
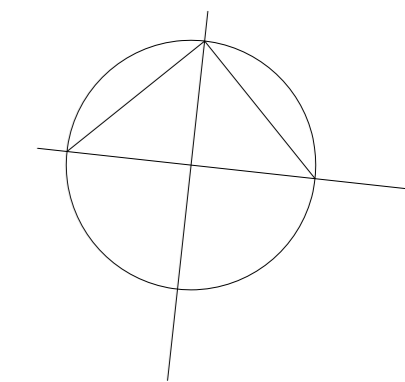
Check E. M.

図面名称 電気設備工事特記仕様書(2)

SCALL

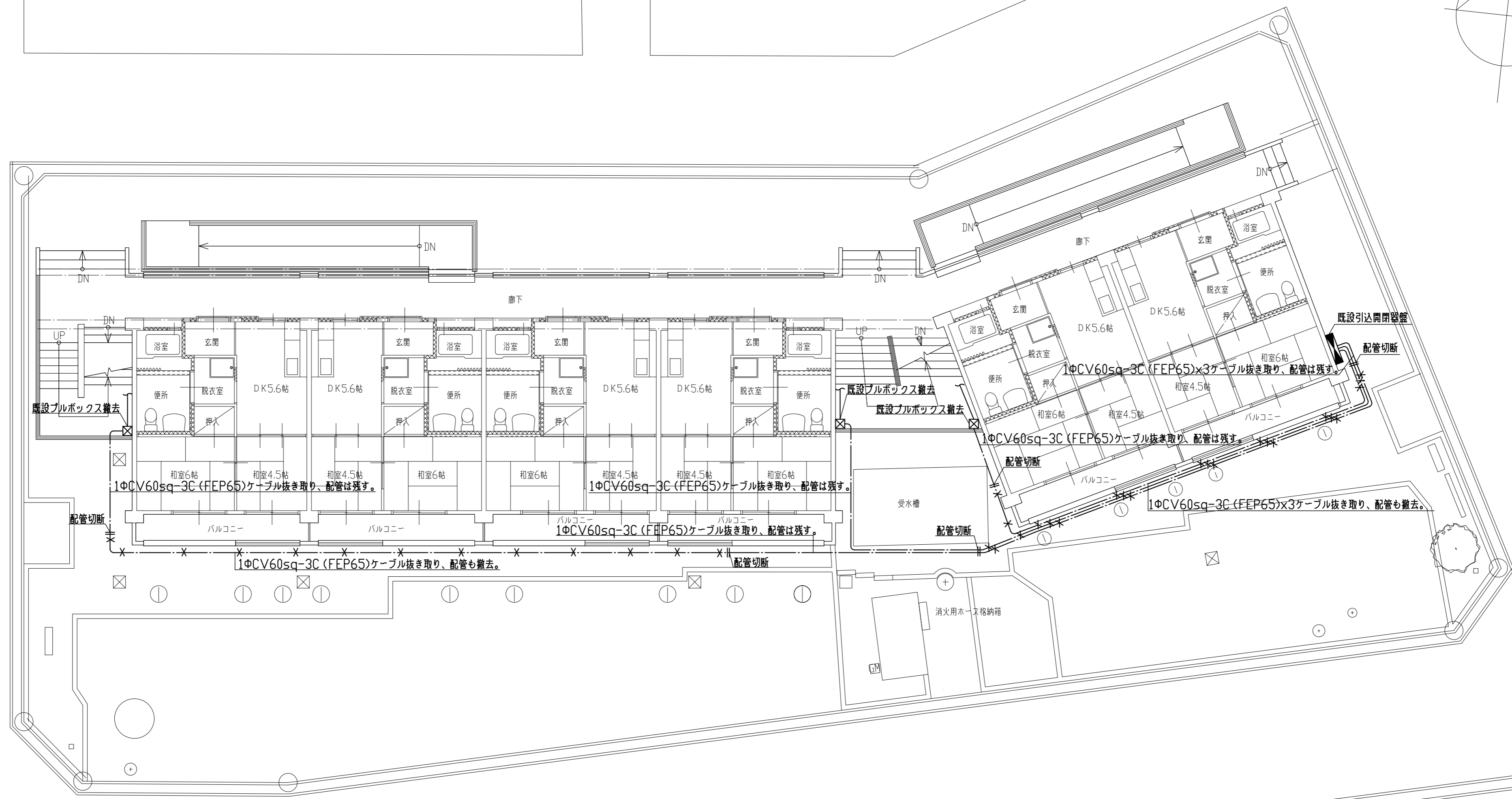
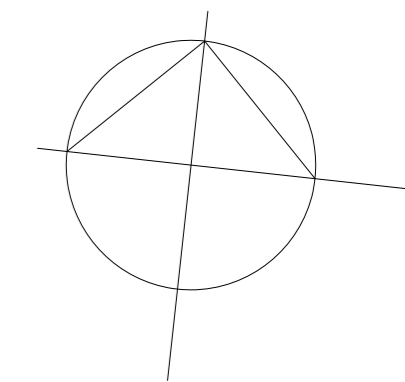
Charge Dr No. E-02 / 9





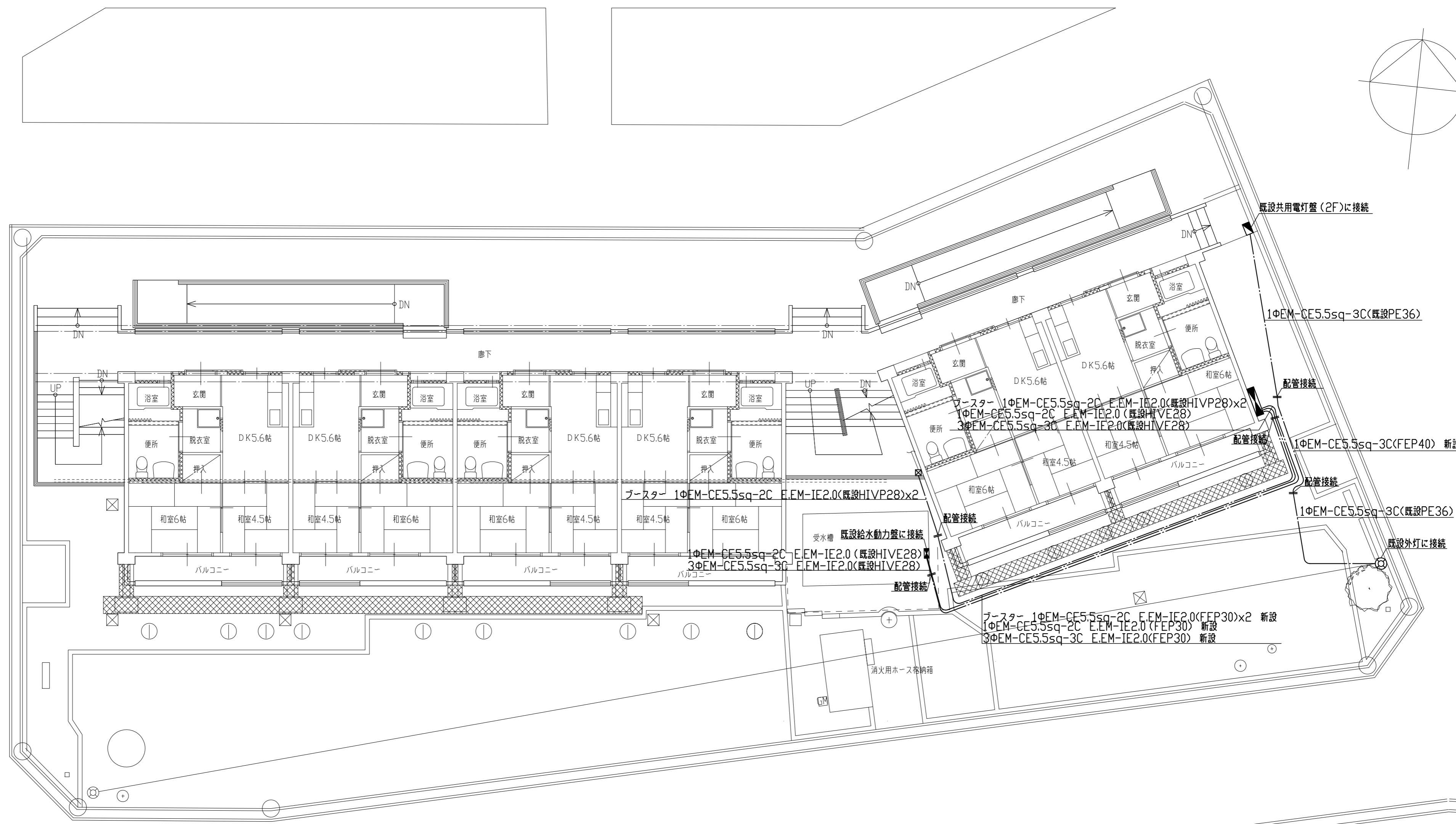
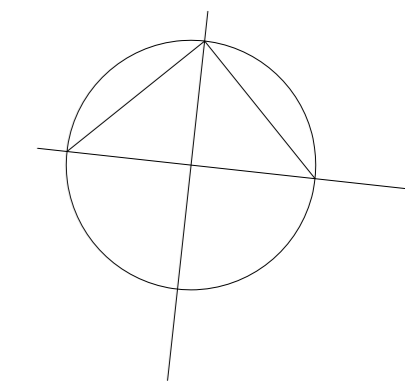
配置図

配管新設に伴いアスファルト切断復旧を行うこと。

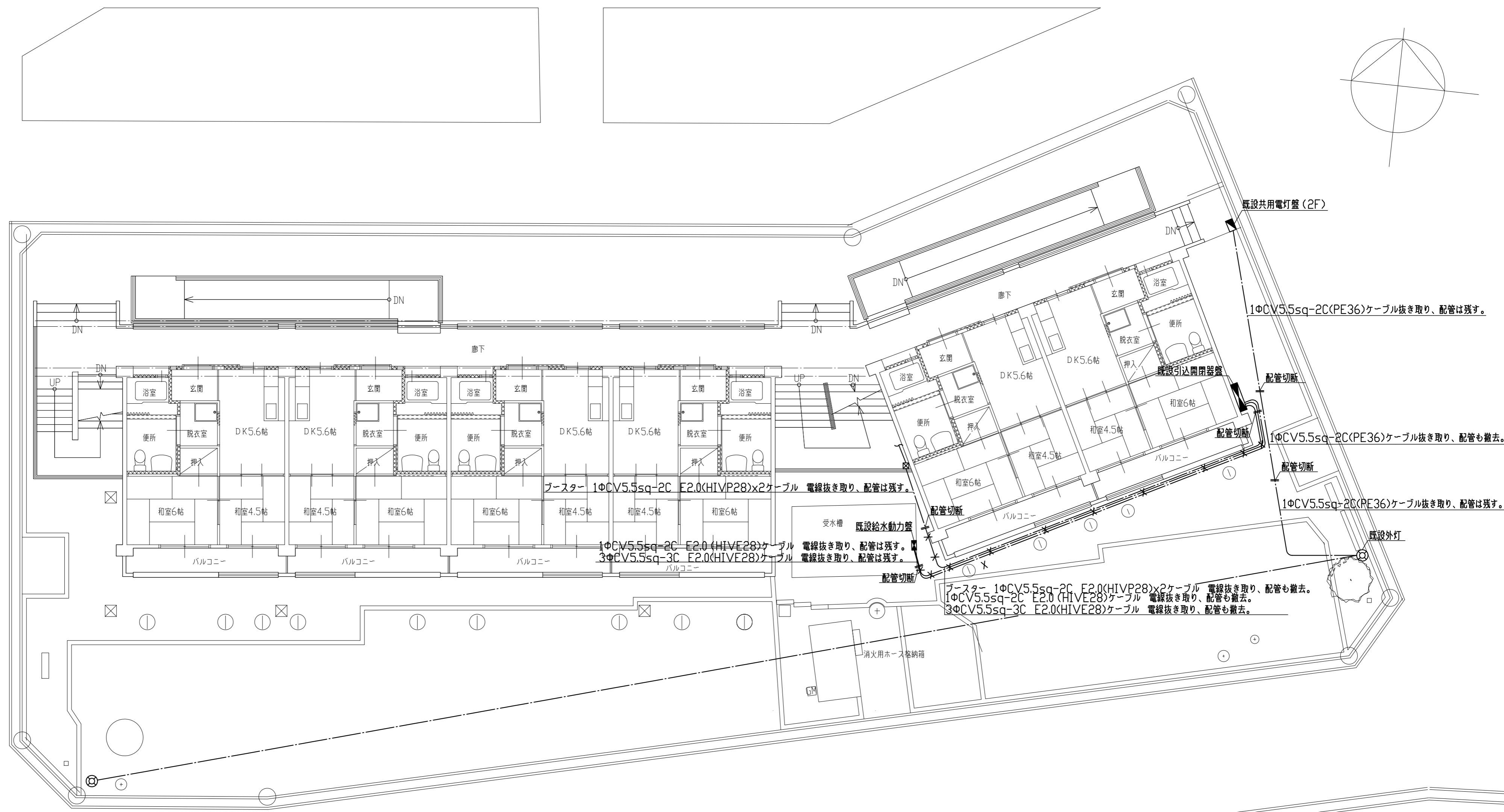
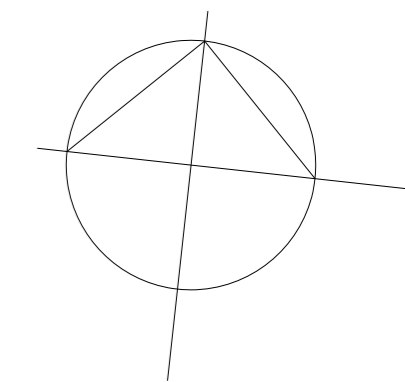


----- 配管を残す部分を示す。  
 -X-X-X-X-X- 配管撤去部分を示す。  
 尚、ケーブルはすべて抜き取り。

配置図

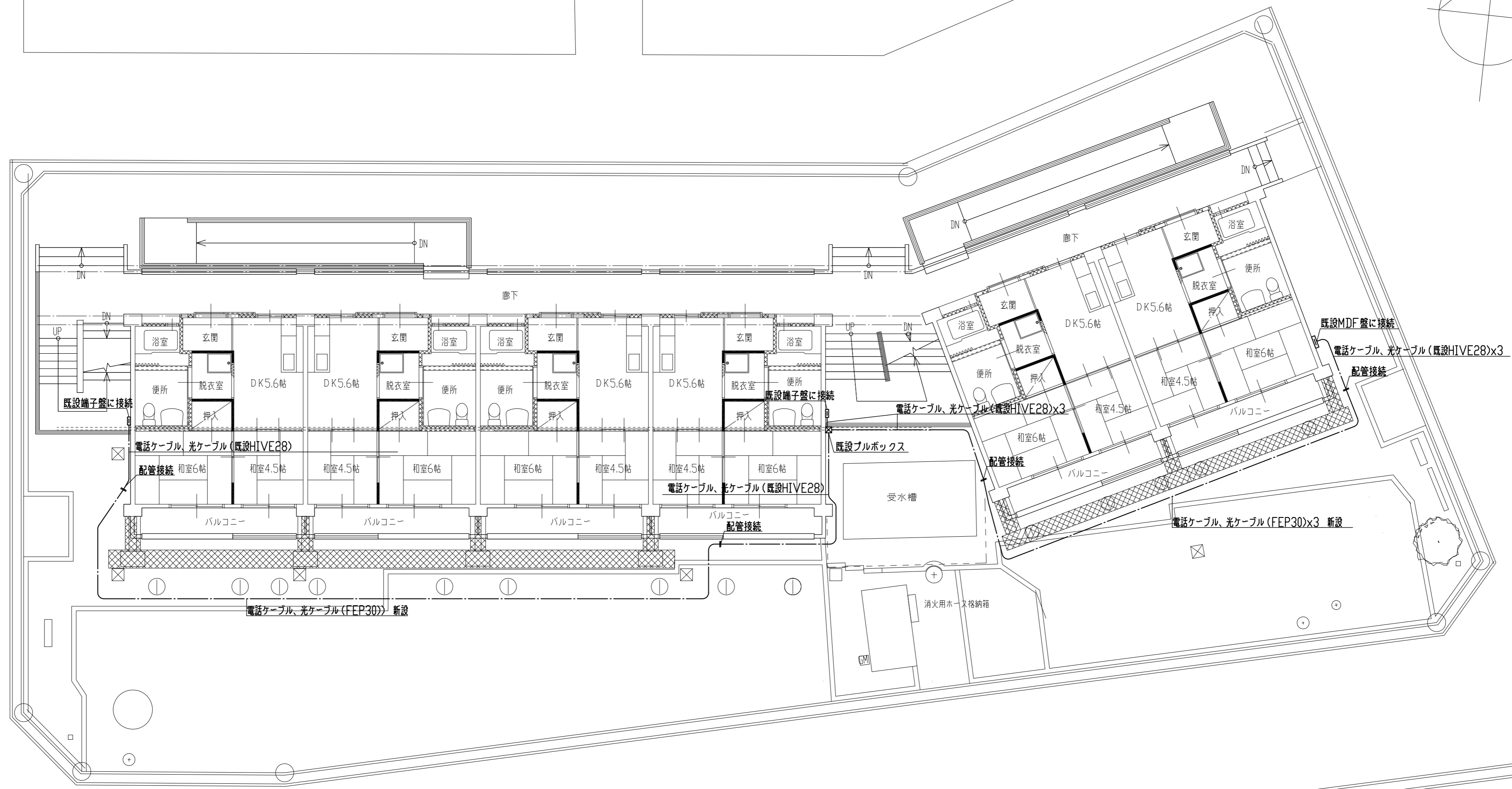
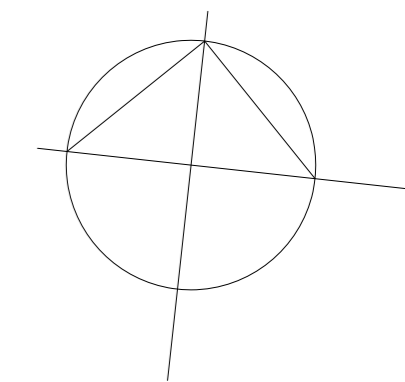


配置図



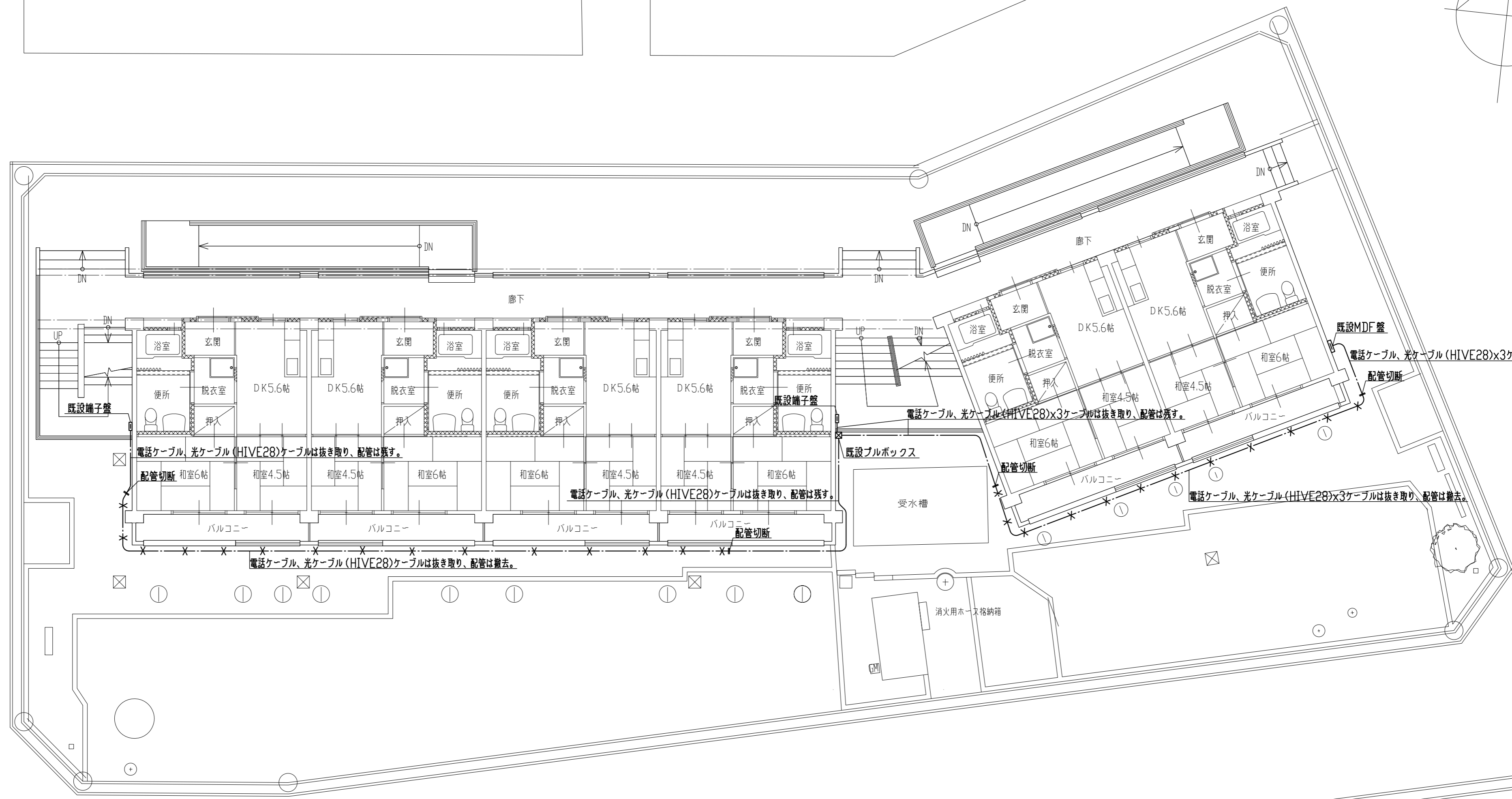
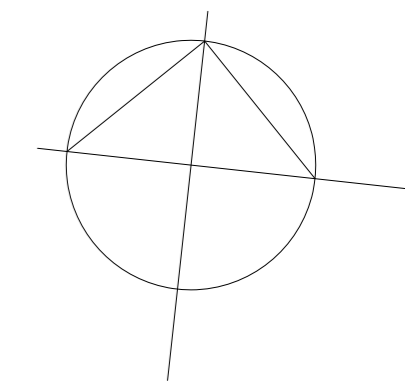
- - - - - 配管を残す部分を示す。  
 -X-X-X-X- 配管撤去部分を示す。  
 尚、ケーブルはすべて抜き取り。

配置図



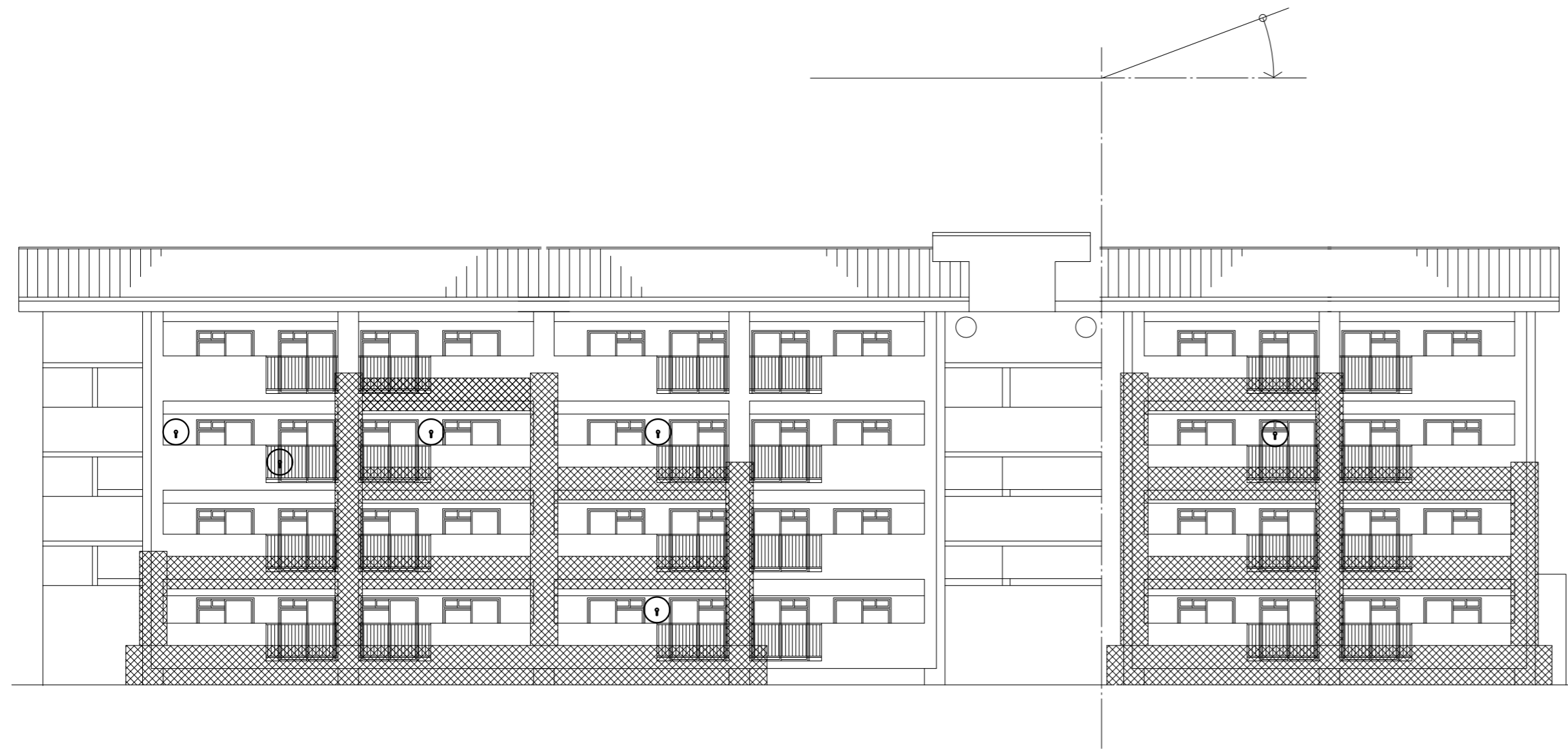
注記。電話ケーブルと光ケーブルの工事はNTTの責任施工とし別途工事とする。

配置図



----- 配管を残す部分を示す。  
 -X-X-X-X- 配管撤去部分を示す。  
 尚、ケーブルはすべて抜き取り。

配置図



南側現況立面図

Ⓟ 本工事に伴いパラボラアンテナ脱着必要箇所を示す。  
本工事で工事を行うこと。



企業組合  
一級建築士事務所



一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録 (22A) 第00282号

特記

工事名称 5号人第3号  
井手町営住宅南団地1号棟耐震補強工事  
図面名称 パラボラアンテナ脱着設備図

DATE H25. 7.  
SCALE 1/150

Check  
Charge Dr

D. C. /  
E. M. /  
No. E-09 / 9

機械設備工事特記仕様書 No. 1

【工事概要】

1 工事場所
2 建物概要
建物名: 南園地1号棟
構造: RC造
階数: 4階
延床面積: (5)一口
消防法令別表第一: (5)一口

3 工事科目
●印をついたものを適用し、各一式とする。
工事科目: 空気調和設備, 換気設備, 排煙設備, 自動制御設備, 衛生器具設備, 給水設備, 排水設備, 給湯設備, 消火設備, ガス設備, 厨房機器設備, 浄化槽設備, 医療ガス設備, 撤去工事

【特記事項】

- 1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁營繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）平成二十二年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）平成二十二年版（以下「標準図」という。）」及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成二十二年版」による。
2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
2 特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 特記事項 (Remarks). Rows include equipment materials, material commitments, quality performance, green compliance, site agent, safety, construction power, public office procedures, construction waste treatment, asbestos treatment, and confirmation of removal.

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 特記事項 (Remarks). Rows include general items, common items, and specific items like equipment, piping, and insulation. Includes detailed tables for equipment specifications and piping details.

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 特記事項 (Remarks). Rows include equipment basics, fire zones, oil equipment, materials, main equipment, duct specifications, piping materials, temperature measurement, and duct work.



機械設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項
換気設備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ※ステンレス鋼板(補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ※本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ※不要 ○必要
	○保温	・多層箇所のダクトの保温 ※不要 ○必要 ・厨房用外気取り入れダクトの保温 ※不要 ○必要 ・外気取り入れチャンバーの保温 ※不要 ○必要 ・全熱交換器の外気取り入れダクトの保温 ○不要 ※必要
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m <sup>2</sup>
	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト
	○ダクトの工法	※アングルフランジ工法
	○ダクトの材料	※亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製
設備	○排煙口	1) 形状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式
	○保温	床下及び階床内の保温 ※不要 ○必要(図示)
		※図面による。
衛生器具設備	○小便器用節水装置	電気供給方式は ※AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池
	○自動水栓	電気供給方式は ※AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池
給水設備	○水栓入れ	○衛生陶器取付形 ○壁取付形 ○カウンター取付形
	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁は ※非接触式センサーFV ○くつべら式押ボタン 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。
	○大便器耐火カバー	※設ける(ヒット内は除く) ○設けない
	○給水方式	○公共水道直結 ○受水タンク及び高層タンク ○受水タンク及び加圧ポンプ ○直結プースターポンプ
給水設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管(SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○ビニル管(H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-PA、SGP-FPA) ○塩ビライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA) ○
		地中配管〔屋内〕 ○ステンレス鋼管(SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン2層管(50φ以下)(※2種 ○1種) ○ビニル管(H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管(SGP-VD、SGP-FVD) ○
		地中配管〔屋外〕 ○ステンレス鋼管(SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン2層管(50φ以下)(※2種 ○1種) ○ビニル管(H1VP) ○ポリ粉体ライニング鋼管(SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管(SGP-VD、SGP-FVD) ○
	○水栓柱	○合成樹脂製 (70X70x1300H) ○ステンレス製 ( ) ○人造石とぎ出し製 ( ) ○アルミニウム合金製 ( ) 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ※300mm ○ 2) 構内車両通路 ※600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。	
○加入金・負担金	○不要 ○必要(※別途 ○本工事)	
○本管引込工事	※本工事 ○別途工事	
排水設備	○排水方式	汚水・雑排水〔屋内〕 ※分流式 ○合流式 汚水・雑排水〔屋外〕 ○分流式 ※合流式 ポンプ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○浄化槽2次側) ○なし
	○放流式	汚水 ○直放流下水管 ○し尿浄化槽 ○ 雑排水 ○直放流下水管 ○し尿浄化槽 ○別途樹・側溝
排水設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管(SGPW)(○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○
		屋内汚水排水管 ○メカニカル形排水用鉄管(※1種管 ○2種管) ○排水用塩ビライニング鋼管 ○ビニル管(VP) ○耐火二層管 ○
		通気管 ○リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP) ○鋼管(SGPW)(○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管(VP) ○排水用塩ビライニング鋼管 ○耐火二層管 ○
		地中配管〔屋内〕 ○リサイクル硬質塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル三層硬質塩化ビニル管(RS-VU) ○リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP) ○ビニル管(VP) ○
		地中配管〔屋外〕 ○リサイクル硬質塩化ビニル管(REP-VU) ○リサイクル三層硬質塩化ビニル管(RS-VU) ○ビニル管(VP) ○
		鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA)(地中配管はSGP-VD、SGP-FVD)とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。
○漏水試験継手	※必要(図示箇所に取付ける) ○不要	
○煙試験(排水・通気)	※不要 ○必要	
○負担金	※不要 ○必要(○別途 ○本工事)	
○本管接続工事	※本工事 ○別途工事	

章	項目	特記事項
給湯設備	○給湯方式	○中央式 ○局部式
	○配管材料	※鋼管(壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き被覆鋼管
消火設備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火( ) ○連結送水管 ○
	○表示灯	○屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
ガス設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ※配管用炭素鋼管(白) ○圧力配管用炭素鋼管(白) ○
		屋内外地中配管 ※外面被覆鋼管(SGP-VS)
	○保温	消火用充水タンクの保温を ※施工する(膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ※施工しない ○施工する(膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ※施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を ※施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を ※施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる)
	○ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ※46,000kJ/N m <sup>3</sup> ○ KJ/N m <sup>3</sup> ) ○液化石油ガス (※50kg 本立 ○20kg 本立)
ガス設備	○ガスメーター	親メーター(※貸与品 ○購入) 子メーター(※購入 ○貸与品)
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ※配管用炭素鋼管(白) ○ 屋内外地中配管 ○合成樹脂被覆鋼管 ○ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。
設備	○地中埋設管の接合法	○SGMI工法 ○ネジ工法 ○PE管工法
	○ヒット内施工法	※溶接工法
	○負担金	※不要 ○必要(○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	※本工事 ○別途工事
設備	○厨房機器	※図面による。
浄化槽設備	○形式	○ユニット形 ○現場施工形
	○処理方法	○小規模合併処理(別紙参照) ○合併処理(別紙参照)
設備	○医療ガス	※図面による。

別表 1 付属品・予備品

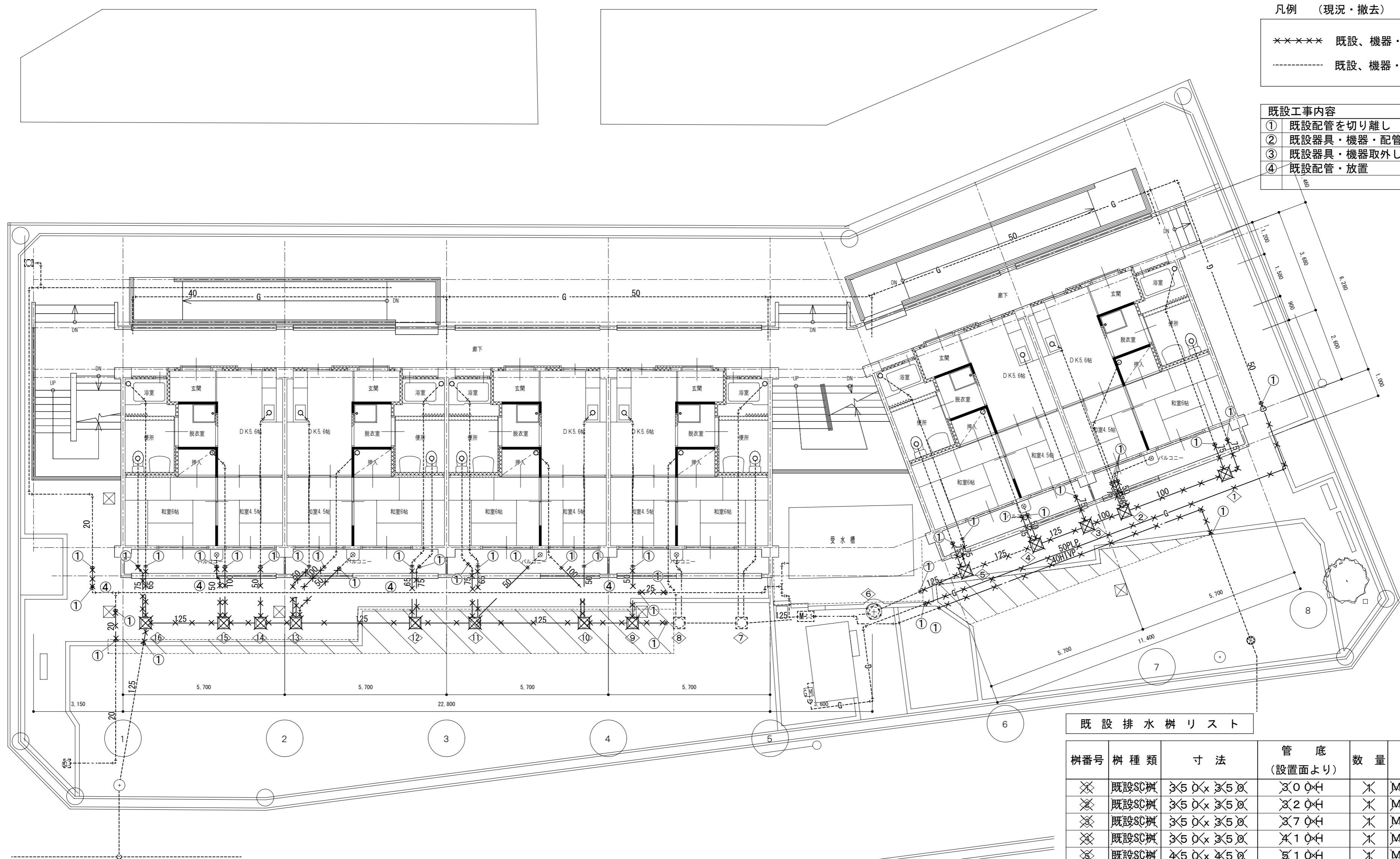
○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー)  
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンププライヤー ○ボンテン(大、小)  
○イーザーキャビネット 箱 ○キーボックス  
○ウォールキャビネット(W= D= H= ) × 個  
○盤類予備品(ランプ及びヒューズの100%)

凡例 (現況・撤去)

※※※※※ 既設、機器・配管撤去を表す

----- 既設、機器・配管を表す

既設工事内容	
①	既設配管を切り離し
②	既設器具・機器・配管撤去
③	既設器具・機器取外し、再利用
④	既設配管・放置



既設排水樹リスト

樹番号	樹種類	寸法	管底 (設置面より)	数量	蓋種類
※	既設SC樹	350φ×350φ	300φH	1	MHA-350
※	既設SC樹	350φ×350φ	320φH	1	MHA-350
※	既設SC樹	350φ×350φ	370φH	1	MHA-350
※	既設SC樹	350φ×350φ	410φH	1	MHA-350
※	既設SC樹	450φ×450φ	410φH	1	MHA-450
⑥	既設SC樹	450×450	550H	1	MHA-450
⑦	既設SC樹	500×500	580H	1	MHA-500
⑧	既設SC樹	500×500	590H	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	600φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	630φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	640φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	650φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	670φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	690φH	1	MHA-500
※	既設SC樹	500φ×500φ	700φH	1	MHA-500

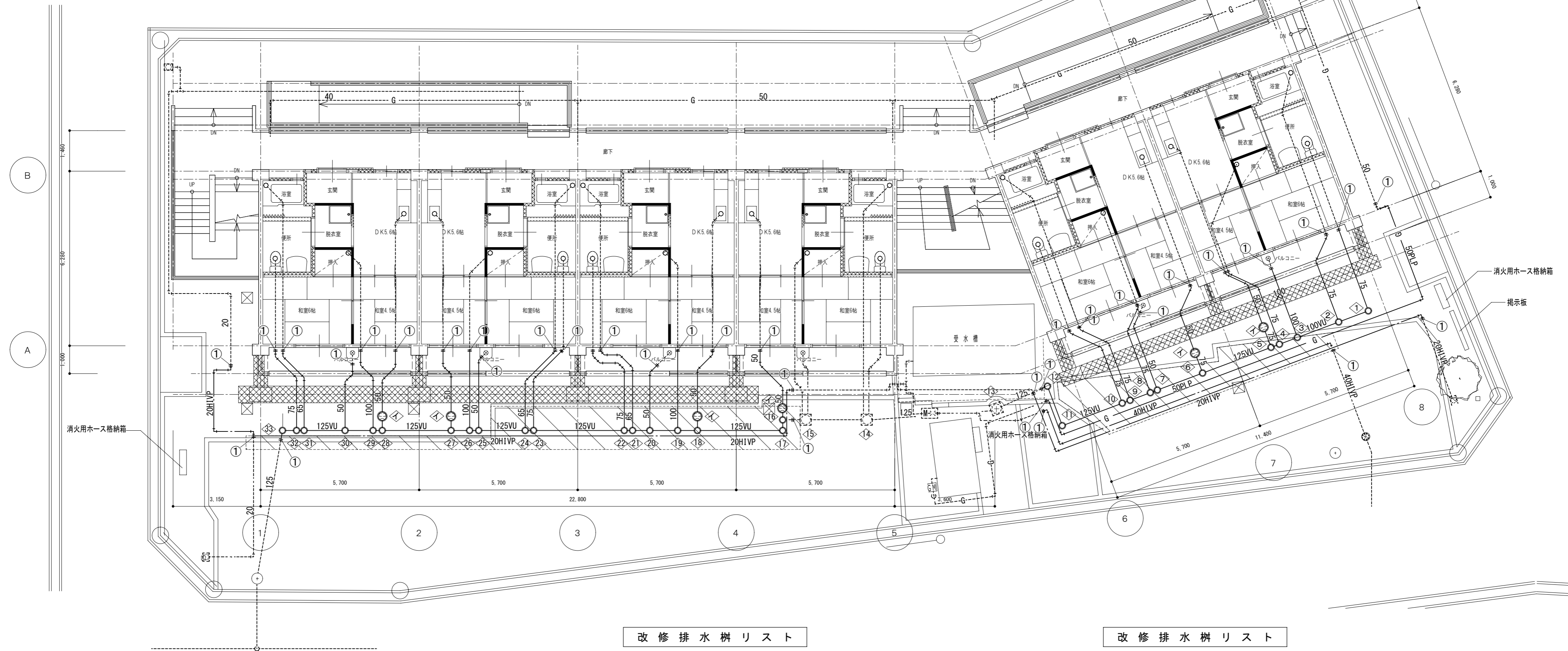
(注)  
凡例  
[Hatched Box] インターロッキングはつり復旧は建築工事

凡例 (改修)

- 新設、機器・配管を表す
- 既設、機器・配管を表す

改修工事内容

- ① 既設配管に接続
- ② 新設、器具・機器取付
- ③ 既設、器具・機器再取付
- ④



改修排水樹リスト

樹番号	樹種類	樹材質	寸法	管底 (設置面より)	樹形式	数量	蓋樹種類
①	樹脂製樹	塩ビ製	300φ	300H	分離樹	6	樹脂蓋 耐圧8t 改修
②	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	320H	90L	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
③	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	340H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
④	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	360H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑤	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	370H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑥	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	380H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑦	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	410H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑧	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	430H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑨	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	440H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑩	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	450H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑪	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	480H	90L	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修

改修排水樹リスト

樹番号	樹種類	樹材質	寸法	管底 (設置面より)	樹形式	数量	蓋樹種類
⑫	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	500H	90L	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑬	既設SC樹	コンクリート	450×450	550H	インポート	1	MHA-350 改修
⑭	既設SC樹	コンクリート	450×450	580H	インポート	1	MHA-350 既設
⑮	既設SC樹	コンクリート	450×450	590H	インポート	1	MHA-350 既設
⑯	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	600H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑰	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	610H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑱	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	640H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑲	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	660H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
⑳	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	670H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉑	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	680H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉒	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	690H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉓	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	730H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉔	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	740H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉕	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	750H	インポート	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修

改修排水樹リスト

樹番号	樹種類	樹材質	寸法	管底 (設置面より)	樹形式	数量	蓋樹種類
⑳	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	770H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉑	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	780H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉒	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	790H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉓	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	800H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉔	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	810H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉕	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	830H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉖	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	840H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉗	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	850H	90Y	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修
㉘	樹脂製樹	塩ビ製	200φ	860H	90-45L	1	樹脂蓋 耐圧8t 改修